

Title	慶長刊大学中庸章句の研究
Sub Title	Study of the Keicho imprint of daigaku Chuyo Shoku
Author	高橋, 智(Takahashi, Satoshi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1997
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.32 (1997. ) ,p.95- 216
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000032-0095">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000032-0095</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 慶長刊大学中庸章句の研究

高橋智

はしがき

本研究報告は、第二十八輯「古活字版趙注孟子校記」、第三十・三十一輯の「慶長刊論語集解の研究」に相続くもので、慶長時代頃の、古注学と朱子学とが混然と一体になった「四書」の出版受容の実態を、それ以前、室町時代頃を中心とした博士家等による受容のあり方を踏まえた上で、現存する伝本の調査から把握しようとして試みたものである。従って、遠くは阿部隆一元文庫長による、本論集第一輯の巻頭論文「本邦中世に於ける大学中庸の講誦伝流について——学庸の古鈔本並に邦人撰述注釈書より見たる——」の補編を成すものでもある。昭和三五年、慶応義塾に研究所として、斯道文庫が麻生氏所有以来、再発足して掲げられた研究課題は、室町以前の日本漢学資料、即ち邦人撰述漢籍注釈書類並に漢籍古写本の総合的研究を中心として、膨大な量の、中世以前の資料を、原典フィルム両面に亘って収集整理することにあつた。二年後、阿部教授はその精力的な収集活動をもとに、文献を中心に据えた文化史研究のあり方と方向を前掲論文に於いて示唆された。爾来、孝経・帝範・三略と研究が進捗するうちにも、飽なき古典籍への希求は幅広い漢文資料の涉獵、調査へと向かい、遂に昭和四五年、台北に楊氏觀海堂旧蔵本を訪れる機を得、果ては日本中国を含めた漢籍総目録の企画へと業は膨らんでいった。しかしながら、今遺されてある本文庫所蔵の資料、また阿部教授のノートの類を綴る時に痛感するのは、一貫して前掲論文に託された精神であつて、数多ある教授の業績を照らし見ても、聳え立つことこれに

如くものはないと思われるのである。それはまた、同時に本文庫出発の原点であり、研究の根本精神でもあると言える。一字一句に丁寧な訓点を施して漢文を読みこんでいった中世以来の学者たちの熱意は、そのままに教授の熱意であったと感ぜてならぬのである。こうした意図の下に、及ばずながらその姿勢を継承して大道に則しようとして、本研究に取りくんだわけである。論語に「士ハ以テ弘毅ナラズンバアル可ラス、任重フシテ道遠シ、仁以テ己カ任トス、亦重カラズヤ、死シテ後ニ已ム、亦遠カラズヤ」(泰伯7)という認識を学問に於いて、誠に深く持さねばならぬという思いがするのである。

「大学」「中庸」についての伝来の概要はまた、前掲論文を参照していただき、ここでは先ず慶長刊本の版種の総覧から説き進んでゆくこととする。国立故宮博物院(台北)、大東急記念文庫、東洋文庫、武田科学振興財団杏雨書屋、京都大学附属図書館等、資料の掲載から調査までを快く御許可下された諸機関に対しては深く感謝の意を表する次第である。

目次

図版目次

第一編 版本編	頁	第一圖 今関版甲種「大学章句」	九九
第一章 版種総覧	九八	第二圖 同 「中庸章句」	一〇〇
第二章 古活字版	一一四	第三圖 「中庸章句」末の「補音釈」・今関正運刊記（今関版甲種）	一〇一
第一節 下村生蔵刊本	一一四	第四圖 今関版丙種「中庸章句」	一〇三
第二節 今関正運刊本	一一五	第五圖 無刊記乙種「中庸章句」	一〇五
第三節 無刊記本	一二〇	第六圖 無刊記丙種「大学章句」	一〇七
第三章 整版	一二一	第七圖 下村生蔵刊「大学章句」	一〇八
(一) 「四書」伝存本	一二二	第八圖 同 「中庸章句」	一〇九
(二) 「大学・中庸」伝存本	一二三	第九圖 整版 「中庸章句」	一一三
(三) 「大学」のみ伝存本	一二四	第十圖 「周易」慶長一四年写本	一四〇
(四) 「中庸」のみ伝存本	一二四		
第二編 校勘編	一二六		
第三編 訓読編			
第一章 書入れの状況	一三四		
第二章 翻刻	一四一		

## 第一編 版本編

### 第一章 版種総覧

大学・中庸の慶長刊本は、それほど伝本が多いというわけではない。林羅山の、道春点「四書」が出版されて以後の夥しい伝本の数に比べれば、なおいまだ中世以来の写本による講読の規模につらなるものと称し得る。従って、限られた現存本から、当時の出版模様を説明してゆくことが非常に困難な一書と云うことができるのである。まして、恐らくは、学・庸として、否また論・孟と加えての出版企図にありながらも、各書に解体されて伝存する状況であればなお、出版企図の再構築が難事に属することは容易に理解されるところである。

こうした環境のなかで斯道文庫蔵本の「大学」・「中庸」各一冊、高本文庫旧蔵本（図版一・二参照）は、大きな解明の突破口を提供してくれるものである。原装と目され、「大学」・「中

庸」が同一グループの活字で植字されてしかも同時に、即ち印刷後間もなく製本されたものであろうと推察されるからである。そしてその「中庸」の末に「関東上総住今関正運刊」（図版三）とあることから、両書は今関正運の刊刻に係ることが判明し、たとえ「大学」のみが残存していても、本版に同版であれば今関版に分類することができるわけである。こうして今関版と証明できるものに、東京大学総合図書館の「大学」、そしてお茶の水図書館成篁堂文庫の「大学」がある。内閣文庫の「大学」「中庸」（274・66）もこの版種に属するものである。この伝本は、蔵印・書入れ者を同じくする二書で、他に慶長刊本の「論語」「孟子」も同一所持のものが伝わっているものである（後述）。原装ではないが、書入れが出版時期に近いものと思われることから二書一具に揃えたものと想像され、高本文庫旧蔵本とともに今関版の二書合刻を立証する資料である。

これらの伝本をまとめて、今、ここで今関正運刊本甲種と称することとする。川瀬一馬博士「古活字版之研究」においては、今関正運刊本第二種に分類されるものである。

なお、本種の活字の特徴は、印面から察すれば、「孟子」の慶長刊本A種（本文庫論集第二十八輯一五二頁参照）によく似

大學

大舊音泰  
今讀如字

朱熹章句

子程子曰大學孔氏之遺書而初學入德  
之門也於今可見古人為學次第者獨賴  
此篇之存而論益次之學者必由是而學  
焉則庶乎其不差矣

大學之道在明明德在親民在止於至善

程子

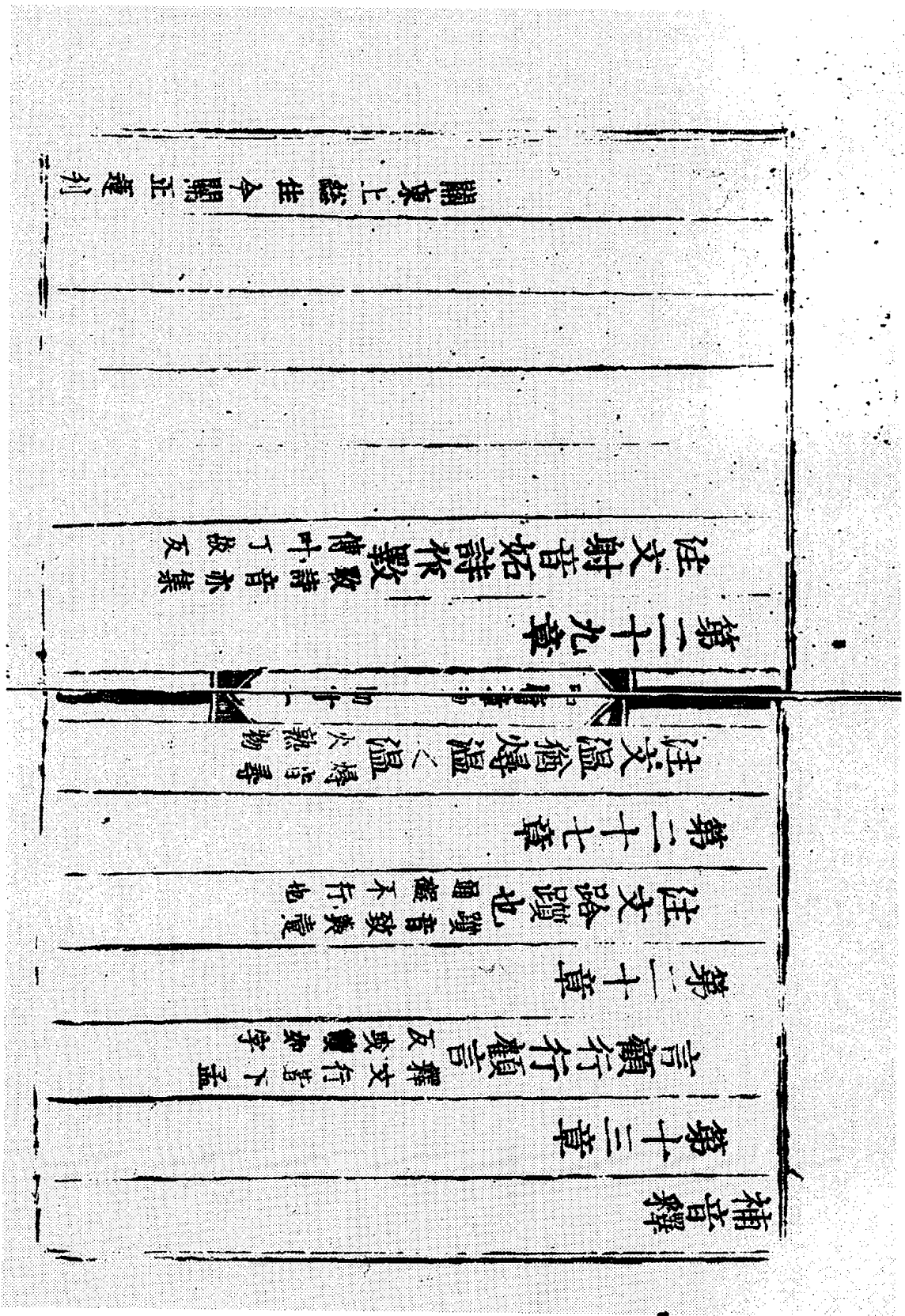
曰親當作新○大學者大人之學也明明之  
也明德者人之所得乎天而虛靈不昧以具

中庸

中者不偏不倚無過不及之名庸平常也

朱熹章句

子程子曰不偏之謂中不易之謂庸中者天下之正道庸者天下之定理此篇乃孔門傳授心法子思恐其久而差也故筆之於書以授孟子其書始言一理中散爲萬事末復合爲一理放之則彌六合卷之則退藏於密其味無窮皆實學也善讀者玩



第3図 「中庸」末の「補音釈」並に今関正運の刊記 斯道文庫蔵  
今関版甲種



ている。「論語」の慶長刊本にこの活字を捜すならば、乱版みだれざんの活字部分がこれにあたる（論集三十輯図四一(2)・二三〇頁参照）。乱版の整版部分は要法寺版（整版甲種）にあたり、「正運刊」の刊記を持つものである。こうしてみると、今関正運の「四書」刊行の活動も、なお一層くつきりと浮びあがってくるようである。

次に、この活字群を用いて組み直した別版が伝存する。所謂、異植字版に相当するもので、「中庸」のみが存在して「大学」は発見されていない。「中庸」の本文第一葉「子程子曰」の「子」字の特徴を比較すれば、甲種かその異植字版かを容易に見分けることができる。ただ同じ活字群と言っても、写真では識別が困難で、大東急記念文庫蔵本「中庸」（22・39・52）を斯道文庫蔵甲種本と比較してはじめて理解される事実である。これらを総じていま、今関正運刊乙種と名づけることとする。他に、「弘文荘古活字版目録」（昭和四七年）に著録される一本と、法雲山華藏寺獅子園書庫善本書目解題」（小沢賢二著・昭和五九年・同寺）に著録される一本がこれにあたる。「古活字版之研究」の今関正運刊本第三種に分類されるものである。

甲種と乙種が、同じグループの活字を用いて、同類のも

のと見なされる一方、更にもう一種、これら甲・乙とは明らかに活字の様子に差異が感じられ、しかも同じく「関東上総住今関正運刊」の刊記を有する一群の伝本が存在している。これもなかなか写真では識別しにくく、大東急記念文庫に於いて「大学」（22・39・56）と同文庫の乙種「中庸」（22・39・52）とを左右に置いて見くらべる時、極めて瞭然と判明するものである。

現存するものに、この大東急記念文庫「大学」と、これと恐らくは同時頃刊行の僚本「中庸」（武田科学振興財団杏雨書屋蔵）、同じく東洋文庫蔵「中庸」（三・A・a・16）（図版四参照）、また小汀おぼま文庫旧蔵の「大学」（「古活字版之研究」図版六三一番）がある。大東急記念文庫と杏雨書屋の「学・庸」が僚本であるというのは、ともに清原家の伝来本で、清原在賢（文化一―文久四・一八〇四―一八六四）所持本であったことから、そう考えられるのであって、斯道文庫蔵「学・庸」（今関版甲種）が僚本であるのと同じ意味を持つものと思われるのである。「古活字版之研究」ではこれを今関正運刊第一種本と呼ぶものである。今、ここではこれを今関正運刊内種本と呼ぶこととする。甲・乙種との違いは、前述の如く活字の様相の違いが最も大きなものであるが、「中庸」第四一丁裏第七行目の今

中庸中者不偏不倚無過不及之謂中庸平常也

朱熹章句

牛程子曰不偏之謂中不斁之謂庸中者

天下之正道庸者天下之定理此篇乃孔

門傳授心法子思恐其久而差也故筆之

於書以授孟子其書始言一理中散為萬

事末復合為一理放之則彌六合卷之則

退藏於密其味無窮皆實學也善讀者玩

第二十九章

注文射音姑詩作斁散詩音亦集  
傳叶了故反

關東上慈住今關正運刊

第4図 東洋文庫蔵「中庸章句」(三・A・a・16) 今関版丙種

関正運の刊記が、一行の左側によつて、甲・乙の右側によつて、容易に識別ができる。

この丙種で、最も注目しなければならぬ事實は、活字のグループが、慶長一四年刊「論語集解」と同じであるということである。この事實は、勿論これまでに指摘されたことはなかつたが、各活字の各面の止め方に一呼吸あつて、各字がやや固く感じられる特徴は、本論集三十輯・三十一輯にて考証した「論語」慶長刊本の研究の際に、筆者の目に焼き着いて離れないものであつて、確信できるものである。ただし、「孟子」にはこの活字を用いたものの存在が認められないのである。

本論集三十輯にて既に立証した通り、慶長一四年刊「論語」は、所謂「要法寺版」という整版本にもとづいて植字されたものであつた。而も、その要法寺版には「正運刊」という刊記が刻されている。その「正運」が、今関正運と考えられるならば、慶長一四年頃に同じ新造の活字を用いて、「論語」「大学」「中庸」を植版することは、ごく自然に考えられることではないだろうか。今関正運の「四書」刊刻の活動も全体としてよく理解されるように思われるのである。慶長一四年刊本の「論語」の刊記に見える「友傳」等も、こうして今関正運と密接な関係に

あつたであろうこともまた、推測されるところである。無論、「論語」の刊年をもつて「大学」「中庸」の刊年にあてはめることは、必ずしも妥当とは限らないが、今は便宜上からこの今関正運刊丙種を、慶長一四年頃刊本と称することとする。

次に、従来、この今関正運刊本の類に置かれていたが、これを別種の活字群の出版物と把握しなければならない一本が存在する。それは大東急記念文庫蔵本の「大学」(22・39・55)〔古活字版之研究〕増補版図六二九番)である。本版の活字の特徴は、字の入り方、抜け方に鋭いものが感じられ、一見して慶長八年以前刊「論語集解」(本論集三十輯一二九頁、また図版一(4)等を参照)のそれと同じものであることが理解されるのである。この活字を用いた「中庸」「孟子」は発見されていないが、或は存在し伝を失つたものかと想像されるのであつて、いまだその刊行者等の情報は得られず、「論語」と同様に無刊記本として扱い、今、無刊記本甲種と定めて、なおまた今関版丙種と同じようなわけで、慶長八年以前刊本と名づけて「論語」との連絡に便をはかりたいと考えている。

更にもう一本、弘文荘によつて「新出本」と宣伝されて現在斯道文庫に所蔵される「中庸」(図版五参照)は、右の無刊記

中庸

中者不偏不倚無過不及之名庸平常也

朱熹章句

子程子曰不偏之謂中不易之謂庸中者天下之正道庸者天下之定理此篇乃孔門傳授心法子思恐其久而差也故筆之於書以授孟子其書始言一理中散為萬事末復合為一理故之則彌六合卷之則退藏於密其味無窮皆實學也善讀者玩

本や今関版全体とも異なる活字の特徴をもち、かつまた版式においても上下の象鼻が他本に比して短いという異色の存在である。慶長刊本には総じて末尾に付される「中庸」の「補音釈」が本版には欠している。これもまた、その出版の情報が無いことから無刊記本乙種という分類に定めておくこととする。

こうした無刊記本も、「大学」のみ「中庸」のみの存在では何とも分別の仕様がなかったのであつて、今後の出現にゆだねなければならぬが、無刊記の「大学」にもう一種活字の異なる一本が現存し、これは無刊記本丙種と名づけなければならぬものである。活字の字様は、今関版のものに似ているが、或は幾種かの活字のグループが混入している可能性もある。「弑」「試」等の活字が不明瞭な刻字となつてゐるのは今関版の使用活字を彷彿させる。京都大学附属図書館谷村文庫の一本(1・66・タ・1・貴)(図版六参照)がこれである。外側の匡郭が太く鮮明で、こうした版面はややもすると時代が降るかのように思われるふしがあるが、必ずしもそうとはいわれなと思う。版式の特徴に双花口魚尾がある。

以上が、活字版で、今関正運が刊刻に関するものと刊行事情の未詳なるものとの大約の分別である。そしてその次に分類項を

挙げ得るものとして、慶長年間頃に大いに活躍した下村生蔵による活字印刷本がある。「孟子」にあつては東洋文庫等に所蔵されるB種活字版(本論集第二十八輯一五二頁・又図IV等を参照)、「論語」では無刊記本の三(本論集第三十輯一三二頁・又図一(8)等参照)が、用いている活字が全く同種のもので、下村生蔵刊「四書」と総称することが可能な一類である。もつとも、こうした一連の特色ある活字を用いた出版物の刊行者を下村生蔵であると定め得る資料が、この「中庸章句」の末尾にある刊記であつてみれば(同輯 図一(9)参照)、僅かに伝存する二本(東洋文庫、慶応義塾図書館)(図版八参照)の価値は、大なること言うまでもない。「大学章句」は、楊守敬が持ち帰つた一本が台北故宮博物院(図版七参照)に蔵されるのが現存確認されるもので、「弘文莊古活字版図録」に著録される一本は現所在不明である。この弘文莊本には末尾に「下村生蔵刊」の刊記が附され(台北本は欠している)てゐるのも貴重であるが、この一本は竹中重門(半兵衛重治の子)の旧蔵で、書入れの筆蹟から勘案しても慶応義塾図書館蔵「中庸」(やはり重門旧蔵)の書入れと同一筆蹟であり、ほぼ時を同じくして「学・庸」が開版されて伝来を同じくし来つたものであることを物語る、極

物類  
致知  
誠意  
正心  
修家  
治國  
平天下

大學 大舊音泰  
今讀如宇

朱熹章句

程子曰大學孔氏之遺書而初學入德

之門也於今可見古人為學次第者獨賴

此篇之存而論章句之學者必由也初學

焉則庶乎其不差矣

大學之道在明明德在親民在止於至善

曰親當作新○大學者大人之學也明明也  
也明明也者其德之於天也

第6圖 京都大学付属図書館蔵谷村文庫「大学章句」無刊記丙種

大學章句序

大學之書古之大學所以教人之法也蓋  
自天降生民則既莫不與之以仁義禮智  
之性矣然其氣質之稟或不能齊是以不  
能皆有以知其性之所有而全之也一有  
聰明睿智能盡其性者出於其間則天必  
命之以為億兆之君師使之治而教之以

第7圖 國立故宮博物院（台北）藏「大學章句」下村版

中庸

中者不偏不倚無過不及之名庸平常也

朱熹章句

子程子曰不偏之謂中不易之謂庸中者天下之正道庸者天下之定理此篇乃孔門傳授心法子思恐其久而差也故筆之於書以授孟子其書始言一理中散為萬事末復合為一理放之則彌六合卷之則退藏於密其味無窮皆實學也善讀者玩



めて有意義な伝本であると言えよう。これらは、「孟子」「論語」と同様に、下村生蔵刊本としていままた分類することとする。

以上古活字印本の分類を图示すれば左の如くである。

A、下村生蔵刊本

B、今関正運刊本 甲種

乙種 (甲と異植字)

丙種 (慶長一四年頃)

C、無刊記本

甲種 (慶長八年以前)

乙種 (短象鼻)

丙種 (双花口魚尾)

しかも、現存「四書」の状況をこの分類によって图示するならば、

A、下村本

「大学」「中庸」「論語」「孟子」

B、今関本 (甲・乙)

「大学」「中庸」「孟子」

(丙)

「大学」「中庸」「論語」

C、無刊記 (甲)

「大学」「論語」

(乙)

「中庸」

(丙)

「大学」

と整理されるであろう。今後の発見によつては更に新たな事実

が明らかになることであろうが、通覧して感じられるのは、

「学・庸」は「論・孟」に比して伝本が少ないことであり、「論語」(古注)は当時いまだ写本の時代であったことから、写本の伝本も多いのに比して、「学・庸」は写本の流伝も多いとは言えず、読書人の拠つたテキストは慶長の頃、大陸より輸入される「四書大全」系のものや「四書集註」等の占める位置が大きかつたであろうことを想像せしめるのである。むしろ、「孟子」(古注)の版種・伝本が多いのは注目に値する事実であると思う。

こうした活字本の流布に相俟つて受容された整版本は、「古活字版趙注孟子校記」(第二十八輯)ではこれを扱わず、「慶長刊論語集解の研究」(第三十・三十一輯)でこれを扱う必要があることは既に述べた通りである。古活字本と表裏一体の性格を有するものであることが立証されたわけであるが、その成り立ちにはむしろ単純とさえ言えるものであった。「孟子」はA種Cの活字版を覆刻したものと目されるし、「論語」は慶長八年以前刊活字版を忠実に覆刻した甲・乙両種が現存するのみであった。ところが、「学・庸」についてこれを比査するならば、祖本に据えるべき活字版がみあたらず、勿論、古活字版も種々な

異植字版が存在したであろうことも想像される筈で、みあたらないことに疑念を持つまでもなからうが、単純な成り立ちとするわけにもゆかないのである。版心の双花口魚尾、象鼻の短い大黒口等は、活字版の版心には全く見られない特異なものである。字様は今関版に似ているとも言えるが、この頃の活字の特徴は皆競っているので何とも言えない。従って、筆者は、この頃の整版本が覆古活字版であるという概念には、必ずしも拘泥する必要がないのではないかという一例のような気もしている次第である。「中庸」の末尾に今関正運の刊記があるのも、覆古活字版という概念を推し進めれば、出版人は正運とは限らないわけで、その概念を避ければ本版も今関版ということになる。ともあれ、版式上からも「学・庸」の整版本は一時の刊刻になることは事実であろうが、「論語」と「孟子」の整版本が同一時の刊刻になるか否かは、これを決める根拠がない。ただ、「論・孟」ともに祖本をたどれば、今関正運が関っていたものに帰することはどうやら事実のようである。

こうした前提にあつて注目されるのが、この整版本「学・庸・論・孟」（あるいは「学・論・孟・庸」）が揃って一帙となっている伝本の存在である。天理大学附属天理図書館・東京大学総

合図書館・尊経閣文庫の三本がいま知られる所である。とりわけ、天理図書館蔵本は、「学・論・孟・庸」の順に配冊されて、「庸」末に刊記があることとあわせて、今関版の「四書」とさされているものである。東京大学、尊経閣文庫、それぞれの目録もまた今関版「四書」として扱っている。もともと「四書」の概念は朱熹の章句集注本を指すのが普通であるから、「論・孟」が古注本であることを考慮してか、東京大学の漢籍目録では「四書之属」には含まれず、「大学之属」に入れている。本論集第三十一輯二四六頁に述べた通り、天理図書館蔵本を子細に観察すると、「四書」を同時に印に付したものであるかと想像され、第三十輯一八四頁で尊経閣文庫蔵本について解説した際に「取り合わせたもの」で合印されたものではなからうと記述したのは訂正する必要がある。要するに、四つの書それぞれが単行で行なわれたが合印したのも存在したということに帰するのであるが、ただし、「大学」「中庸」はこれと表裏をなす活字版が存在せず、「論語」「孟子」は祖本となる活字版が明確に同定できるが、両書が同時に覆刻されたという確証はない、という事実を踏まえなければならぬ。従って、「今関版」という表現も、版種を識別する呼称として大いに意味あることと考

えられるが、出版事情を物語る意味として把握するには、なお慎重にならねばならないと思われるのである。

更に、今回、「学・庸」の慶長刊本を調査して、ようやく「論・孟」との連絡がつけられて注目していることのひとつに、内閣文庫に蔵される同一人所持の「大・中・論・孟」が、当然目録上は各類に分かれて著録されるわけであるが、書入れられた訓点が全く同筆で「四書」を通じている事実がある。蔵印に「桐」（川瀬一馬博士によれば醍醐水本院という）なる墨印が捺されていることから伝来が一具であることが明白であるが、その書入れ訓点は実に江戸初期、まさに「開版後間もない頃」と察せられ、忠実な清家点を伝え、その「孟子」の書入れは同文庫蔵同版活字本に書入れられた釈梵舜（吉田兼右の男）のそれにほぼ類似するものである（論集第二十八輯一五九―一六一頁参照）。ところで、梵舜はその奥書に言う如く、慶長一七年にこの新刊の古活字版（A種C・即ち今関正運刊刻の異植字版）に清家点を移点したのである。そして、「桐」なる印を有する一本も、同時期の同じ流れを汲む書入れを遺していると考えられ、この「桐」印を持つ「大・中・論・孟」四つの書の所持書入れ者は、同時期に四つの書を調達していたわけであって、近

世初頭、「四書」を調達するのは、こうした、「大学」（今関版甲種）「中庸」（同）「論語」（要法寺版・整版甲種・正運刊）「孟子」（今関版異植字版・A種C）の各版であったという一例を示している。従って、今存在している整版の「四書」は、「論・孟」がこの要法寺版・A種Cの覆刻であることから推しても、「桐」印を持つ「四書」の書入れ者の調達の時よりも、もう少し時代を降るものであったことが考えられる。そしてまた、こうした実例は、「四書」の一括購入という要求も、当時既に多々生じていたであろうことも物語る事実として注目に値する。かくして、博士家の家学を奉じて、宋学的な「四書」の觀念と、伝統の古注による受容とが混然として、次なる「四書集注」の時代をひかえた、特異な「四書」の講読が、強靱なエネルギーをもって行われたのであって、このことの意義は、日本の儒学受容史の上で大いに特筆されるべきものである。なお、整版において、「大学」「中庸」単独で伝わるものに、神宮文庫蔵「大学」、都立中央図書館蔵（中山久四郎旧蔵）・東洋文庫蔵（清原宣光旧蔵）「中庸」（図版九参照）、国会図書館蔵（高木文庫旧蔵）・京都大学附属図書館蔵（谷村文庫）「学・庸」が知られている。それでは実際の伝本を次に子細に見てみることにする。

中庸中者不偏不倚無過不及之名庸平常也  
朱熹章句

子程子曰不偏之謂中不易之謂庸中者

天下之正道庸者天下之定理此篇乃孔

門傳授心法子思恐其久而差也故筆之

於書以授孟子其書始言一理中散為萬

事末復合為一理放之則彌六合卷之則

退藏於密其味無窮皆實學也善讀者玩

第二十九章

注文射音如詩作數數詩音亦集  
傳叶丁故反

關東上慈住今關正理刊

第9図 東洋文庫蔵「中庸章句」(三・C・25) 整版

## 第二章 古活字版

### 第一節 下村生蔵刊本

この刊本の特徴については、既に本論集第三十輯一三三頁に詳述した通りである。「論語」三本、「孟子」八本の現存に対して、「大学」「中庸」は各二本の伝存が知られるのみで、うち、「学・庸」と一具にて伝来したのに竹中重門旧蔵のものがある。版式は、双辺有界七行一七字、小字双行、匡郭内大学（二一・七×一五・七糎）中庸（二一・七×一五・九糎）。版心は双花口魚尾で白口、中縫に「大学（中庸）章句 丁付」とある。丁付は大学が序四・本文一九、中庸が序五・本文四一までである。活字の大きさは、大字が縦約一・二横約一・四糎、小字が縦約一・一横約〇・六糎。尾題は「大学（中庸）章句畢」で、「中庸」の末に「補音釈」を一丁附載する。また中庸補音釈の裏葉第七行左下に「下村生蔵刊」の刊記を有している。

一、竹中重門旧蔵本 1番（訓読編書入表の番号）

「大学章句」は弘文荘の古活字版目録に所載で、「中庸章句」は慶応義塾図書館所蔵（110×115/1）、それぞれ一冊。「大学」が同目録によれば「淡茶色表紙原装、二五・九×一九・三糎」ということだから、「中庸」の淡茶色表紙（二五・七×一九・三糎）と同じ装訂なのであろう。もつとも慶大本も「月明荘」印を有し、弘文荘を経たものであった。ともに序首に「竹裏館文庫」印を捺している。この印主竹中重門は、天正一年（一五七三）生、寛永八年（一六三一）卒。半兵衛重治（一五四四—一五七九）の一子、豊臣秀吉・徳川家康に従って軍功を挙げ、林羅山に学び、また詩文を好み、「豊鑑」とよかがみの作者として知られている。まさに慶長元和を生きぬいた戦国の武将であった。（「竹中半兵衛」池内昭一著・新人物往来社・昭和六三年等参照）この頃の武将には学問好きが少なくないように思われるが、この「大学・中庸」の全巻に書入れられた朱の句点・墨の返点送りがない縦点附訓また校合は、弘文荘目録にも言う如く、重門の手になるものと考えられ、当時の学風をよく示している。

二、清原秀賢・秀雄旧蔵本 2番

東洋文庫所蔵(三・A・a・17)の「中庸」であるが、これは旧蔵者からして後述の無刊記・慶長八年以前刊本(大東急記念文庫蔵へ22・39・55)の「大学」と、もと一具のものであつたようである。清原家の旧蔵漢籍は、慶長刊本が多く、読習に便あつた事、又そもそも家本を用いて上梓されたものもあつたゆえに、両者の関係は密接であるから、同書名の異版が幾種も清家に伝わることは不思議ではないが、こうして「大学」「中庸」を別の版種をもつてとり揃えていた例として、あるいは下村版といつても「大学」「中庸」必ずしも、出版を含めて一体という分けでもないことを想起せしめる一例である。

焦茶色表紙(二六・一×一九・六糎)。中央に「中庸」と、後表紙左下に「秀雄」とそれぞれ同筆にて墨書する。見返に「周梯捨廟制」を図示している(本文書入れ同筆)。全巻を通して朱のヲコト点、墨による返点・送仮名・縦点・附訓を書入れている。江戸初期と考えられる。末尾に「清原秀雄」と署名があり、別筆で「元謂」とも署名がある。また、近代の付箋を貼り込んであつて、「秀<sup>雄</sup>—<sup>相</sup>卿初名之／由見家系了」と記している。論集三十輯の図一(9)にこの部分の書影があるので参照されたい。尚、本文の書入れの筆蹟がこの「元謂」の筆と同

一である可能性が高いと思われる。首に「天師明経儒」「船橋蔵書」「清原／秀賢」(これは末にも)印があり、末に「雲邨文庫」と捺す。船橋家は、国賢—秀賢—秀相が慶長の頃に学脈に連なつた人々である。

### 三、楊守敬観海堂旧蔵本 3番

台北故宮博物院現存の「大学章句」一冊。阿部隆一博士「中国訪書志」に解説がある。書入れは、ヲコト点・返点・送仮名・縦点・附訓が甚だ詳細である。マイクロフィルムより観察するに、「開版後間もない」江戸初期のものと判断される。「欄家／蔵書」が古いわが国の印記で、「飛青／閣蔵／書印」(楊氏)、また「朱氏／鞞観」の、陰刻二顆が見える。

## 第二節 今関正運刊本

### (一) 甲種

双辺有界七行一七字注小字双行(二二・二×一五・二糎)行幅二・二糎、大字約縦一・一×横一・二糎、小字約縦〇・八×

横〇・六糶。版心双黒魚尾粗黒口、中縫「大学章句 丁付」等と。「大学」は序四丁本文一九丁、「中庸」は序五丁本文四一丁（含補音釈一丁）である。高木文庫旧蔵本を子細に観察すると、匡郭も活字もかなり使用に耐えてきているという感じがする。尾題「大学（中庸）章句畢」、「中庸」四一丁裏七行目右に「関東上総住今関正運刊」と刊記がある。（論集三十輯四一（3）二三一頁を参照）

#### 一、高木文庫旧蔵本

香色表紙（二八・〇×二〇・七糶）（原装か）の見返に、「此学庸二冊者九條公爵家旧蔵本也／昭和四年十二月 甲麓莊主人」と高木利太の墨書がある。「高木文庫古活字版目録」（昭和八年）に著録される。「古活字版之研究」第二種本に挙げられている（図六四番六五番）。書入れはない。蔵印も「高木家蔵」のみである。

#### 二、「桐」墨印旧蔵本 4番

内閣文庫所蔵で、慶長刊本の「孟子」（別四八・二）・「論語」（275・100）と一具に揃えたものである。「大学章句」「中庸章

句」各一冊（274・66）。各冊首に「浅草文庫」「日本／政府／図書」、「大学」首にのみ「大学校／図書／之印」、各冊表紙と本文末尾に「昌平坂／学問所」の墨印を捺し、毎冊の首に「桐」墨印がある。薄緑色空押出つなぎ花模様表紙（二七・二×一九・六糶）。「慶長活版／大学章句 全」「中庸章句 全」と外題を書す。書入れは、本文にのみ朱のヲコト点（経伝）、また本文注の全巻に墨の返点・送仮名・縦点・附訓・声点・音注がある。「古活字版之研究」によれば、墨印は醍醐水本院のものであるという。

#### 三、東京大学総合図書館蔵本 5番

「大学章句」一冊のみ（A00・4505）。香色表紙（二七・三×二〇・〇糶）。書入れは朱のヲコト点（経伝）、墨の返点・送仮名・縦点・附訓が全巻に附され、江戸初期頃の清家点の移点と思われる。

#### 四、林 読耕斎旧蔵本

お茶の水図書館成算堂文庫蔵の「大学章句」一冊（231・3・3）。焦茶空押出つなぎ表紙（二八・七×一九・五糶）。書入れ

なく、首に「読耕齋／之家藏」「徳富氏」「蘇峰」「天下之公／宝須愛護」「貴重書」「善本」等、末に「楽夫／天命復／奚疑」の徳富氏印記がある。読耕齋は羅山の四男で幕儒、寛永一年（万治四年（三八歳））。旧蔵書は各所に分在するが、これも正保四年に羅山より分与されたものうちであろうか。

## (二) 乙種（甲と同様活字）

版式は甲種と全く同じで、匡郭（二〇・八×一五・一糎）、行幅二・一糎、版心も同じであるが、幅が甲（一・二糎）、乙（一・四糎）とやや差異がある。第四一丁裏七行目右側に「関東上総住今関正運刊」と刊記がある。「古活字版之研究」第三種本。現在は「中庸」のみが伝わり、「大学」は発見されていない。

### 一、大東急記念文庫蔵本 6番

「中庸章句」一冊（22・39・52）（「古活字版之研究」増補図録第六三〇番に掲載されている）。後補紅茶色表紙（二七・七×一八・六糎）。帙ラベルに「古梓堂文庫153」と。書入れは、

本文のみに返点・送仮名・附訓を墨で、朱の縦点とともに加える。江戸初期の一手によるもので訓は清家点である。甲種の高木文庫旧蔵本と比較するに、異植字版であるが、第二九丁表三行「宜也」を「宜人」に誤り、同じ丁の裏四行「疆」を「疆」に、第三四丁表五行「俟」を「俟」にそれぞれ誤植しているのが目につく。

### 二、弘文荘古活字版目録所載本

「中庸章句」一冊。栗皮原装という。書影から書入れは本文中に無さそうである。

### 三、法雲山獅子園書庫善本書目所載本

「中庸章句」一冊

### 四、小汀<sup>おばま</sup>文庫蔵本

「中庸章句」。「古活字版之研究」増補に著録されている。

## (三) 丙種 慶長一四年頃刊本



「古活字版之研究」第一種本に属するもの。慶長一四年刊「論語集解」と同種活字で本文四一丁裏七行目左側に「関東上総住今関正運刊」と刊記がある。版式は行字数を他と同じくし、匡郭(二一・〇×一五・一糎)、行幅二・二糎。版心も甲・乙に同じだが、版心の幅が一・六糎とやや広く、慶長一四年刊「論語」の版心と寸法が一致する。「大学」の第一九丁裏七行目左下に「正雲刊」とあるが、後人の偽造であるといわれる。

一、清原在賢旧蔵本 7番

大東急記念文庫に「大学章句」(22・39・56)一冊が、武田科学振興財団杏雨書屋に「中庸章句」一冊が分蔵されている。

「大学」は焦茶空押表紙(二八・三×二〇・七糎)。題簽「大学章句」と墨書、表紙右下に「東」と朱書。内側に元表紙か遊紙かが一葉あり、「大学」と墨書、「天師明経儒」「船橋蔵書」と朱書する。首に「清原／在賢」(刻)印がある。書入れは複雑で、時代順に分類すれば、一、全巻墨筆の返点・送仮名・縦点・附訓、「開版後間もない頃」と思われ、杏雨書屋「中庸」にも一貫している。二、一の点を訂しているもので在賢待講時のものである。三、二の頃と思われるが、二とは別筆で「序」の

みに加えられる訓点。四、二・三の頃と思われる朱点(ヲコト点・句点・合点・縦点等)で、二手は確実である。以上要約すれば、江戸初期の訓点課本に江戸後期(在賢は文化一年〜文久四年)の書入れが加えられているものである。一四丁裏に「待第十 注只言／是 也人 君以賢／孝 置之於位」等と欄外に見えるのが待講時在賢のメモである。また、第一九丁裏にこれらの書入れとは又別筆で次の如く墨書する。

花押

以家秘点授息男大博士康賢朝臣読了／侍読従二位前博士清原康賢は在賢の男で天保一二〜明治一二。

杏雨書屋現蔵の「中庸」は、薄茶色の原表紙(二八・三×二〇・八糎)を有し、「中庸」(墨)また「東」(朱)と書写する。扉はもと遊紙か或はこちらが原表紙かも知れないが、「中庸」と墨書している。これは舟橋秀賢の筆であろうか。末尾に「関東上総住今関正運刊」とある。紙質といい大きさといい、印面といい、慶長一四年刊「論語」を見る思いがし、ほぼ同時の印行と考えて大過ないと感じられる。「清原／在賢」の陰刻印が捺され、欄外に識される次の墨書によって、在賢卿の講授の足跡がうかがい知れる。

天保十五年十一月廿六日執中之謂也迫奉授

同年同月廿九日序文悉奉授

同年十二月一日十一章悉奉授

同年同月四日十九章悉奉授

同年同月七日右第二十四章悉奉授

昨六日近乎勇迫奉授之処 主上御会ニ付予□□□□

今日更自哀公問政奉授之事

同年同月九日二十九章悉奉授

同年同月十三日中庸悉奉授

書入れは、墨筆の返点・送りがな・縦点・附訓・音点・校合が一手で加えられ、江戸初期のものと思われる。ややうす墨の後筆もみうけられるものの、朱点もほほ江戸初期の同時期とみなされ、忠実な清家点を伝えたものと言えよう。この墨書書入れも、斯道文庫蔵慶長一四年刊「論語」の書入れと風格頗る類するものを感じるのである。内藤湖南の蔵印三種を存し、「恭仁山莊善本書目」に解説・図がある。

主な本文の校異は校勘編に記すが、単純な誤植を列記すると、序一丁裏「覚」を「学」に、序二丁裏「召」を「名」に、本文四丁裏「庸」を「肅」に、五丁裏「揚」を「楊」、十七丁裏

「成」を「成」、二十二丁表「羣」を「羣」、二十四丁裏「七」を「上」、二十八丁表「之」を「以」、二十九丁表「微」を「微」、三十九丁裏「輜」を「輕」にそれぞれ誤っている。

## 二、小汀<sup>おばま</sup>文庫蔵本

「大学章句」一冊で「古活字版之研究」増補図録六三一番に掲載されている。江戸初期と思われる訓点書入れを存しているようで、貴重な伝本であるが、小汀利得氏所蔵以来の状況はわからない。川瀬一馬博士によれば、これも「竹裏館文庫」（竹中重門）旧蔵という。

## 三、東洋文庫蔵本 8番

木村正辞（「木正／辞／章」陰刻）旧蔵の「中庸章句」一冊（三・A・a・16）。「古活字版之研究」図第六六番・六七番に掲載されている。新補茶色表紙（二六・四×一九・二糎）。紙質は杏雨本等よりやや劣り、巻末に、「以宇治文庫本批點私附之了」と墨書奥書があり、本文注文に書入れている朱ヲコト点・墨の返点・送りがな・縦点・附訓・声点は皆この奥書と同筆と思われる、江戸時代初期から前期にかけてのものと推し測られる。

朱筆はまた序のみに返点・附訓等を加え、点の系統は清家点に近い。注意すべきは、墨筆は、あらかじめ施されたうす墨の訓を上からなぞっている形跡がうかがわれることで、あるいは奥書の移点者以前に別筆の移点者があったのかも知れない。慶長頃の刊本に書入れられる筆跡には、このように幾つかの手が混入している場合が少なくないが、いずれも近しい筆跡であることが特徴と言えよう。「深舎」「宗供／丕印」の陰刻印記がある。

### 第三節 無刊記本

#### (一) 甲種 慶長八年以前刊本

大東急記念文庫蔵本「大学章句」一冊(22・39・55)(9番)のみの伝存で(「古活字版之研究」増補図録六二九番に掲載されている)、首に「天師明経儒」「船橋蔵書」印記、また首・末に「清原／秀賢」印を有することから、第一節に述べた下村生蔵刊本「中庸」の、二、清原秀賢・秀雄旧蔵本と一具のものであったと考えられる。焦茶色表紙(二七・九×二〇・五糎)。版式は双辺有界七行一七字で内匡二一・五×一五・一糎、各行

幅二・〇糎、版心粗黒口双魚尾中縫「大学序 丁付」等とある。活字の字様が慶長八年以前刊「論語集解」と同種のものであることは前述した。後表紙見返に本文書入れとは別筆にて次の如きメモが墨書されている。

秀雄一 中院講之于時從二位行權中納言通村卿発起也 長雄

丸／聴聞之 左中将嗣良朝臣左少将親顯朝臣／時從時

興朝臣蔵人右中并光長中書少卿泰重／侍從隆朝侍從基

定神祇神伯侍從雅陳

大徳寺

祭主 伊益

本文への書入れは、朱の合点・ヲコト点(これらは時代くだるか)、墨筆の返点・送仮名・縦点・附訓が江戸初期のもの、更に江戸後期にくだると思われる欄外書入れが太字・小字の二手存在する。これらの書入れは、序の部分だけであるが、同じく大東急記念文庫蔵今関版丙種(22・39・56)への書入れと内容が符合しているのは興味深い。

#### (二) 乙種 短象鼻本

斯道文庫所蔵の「中庸章句」一冊(091-f-131)(10番)のみの伝本。弘文荘古活字版目録所載。縹色空押出つなぎ蔓紋表

紙(二七・二×一九・三糎)。裏打補修を全巻に施している。双辺有界七行一七字。匡郭内二一・〇×一四・六糎。界幅二・一糎。双黒魚尾で中縫に「中庸章句 丁付」等とあり、粗黒口の象鼻が約二・六糎で、例えば今関版甲種高木文庫旧蔵本の四・三糎にくらべると非常に短いという特徴がある。「序」五丁、本文四〇丁で「補音釈」一葉がない。全冊を通して一筆の墨書で本文にのみ訓点(返点・送仮名・縦点・附訓)を施している。序の首にだけは朱のヲコト点がある。江戸時代の初期から前期頃のものと思われる。活字の特徴は、今関版や下村版とも異なりやや柔らかみを帯びて粗なるものの、字様や大いさ・磨滅の不統一等から推して弘文荘目録に述べられている如く、幾種かの活字(新造も含め)を混用しているように感じられる。「福井/蔵書」印記あり。

(三) 丙種 双花口魚尾本

京都大学附属図書館谷村文庫(1・66・タ・1・貴)(11番)の「大学章句」一冊。後補焦茶表紙(二七・一×一八・六糎)は全丁裏打補修を施した際のものと思われる。双辺有界七行一

七字。匡郭内二一・二×一四・六糎。粗黒口双花口魚尾。書入れは墨筆の返点・送りがな・縦点・附訓、朱点と藍色のカナ注が存する。墨訓は江戸初期から前期のもので、他にうす墨でそれを訂している別筆もみられる。このうす墨は朱藍筆とともにやや時代を降ったものである。欄外には幾つかの手によって補注が加えられているが、なかに江戸初期の墨訓と同筆で「ゾ式」の解釈がみられ、また「大全」を多く引用する手も存している。本文植字の誤字は比較的多く、殆ど意味のないミスに、六丁裏「徳」を「得」に、裏「止」を「正」に、七丁裏「特」を「持」、九丁表「何」を「使」、十二丁表「好」を「悪」、裏「興」を「與」、十四丁表「短」を「矩」、裏「克」を「充」、十五丁裏「玉」を「王」、十七丁表「泰」を「秦」に、十九丁表「読」を「統」に誤るような例がみられる。

第三章 整版

版式は双辺有界七行一七字で小字双行。内匡は「大学」二一・三×一五・〇糎、「中庸」は二一・三×一四・九糎。版心は双

花口魚尾で粗黒口の象鼻が「大・中」ともに約二糎と短いのが「論・孟」との違いである。尾題、「中庸」の「補音釈」等今関版の活字版と同じで、「中庸」四二丁裏七行右に「関東上総住今関正運刊」と刊記がある。各字の特徴は「大・中」一定していて、この二書は版式からも同一時の刊刻に係ることは疑いを入れない所である。各字の字並びが不整な個所も見え、活字版の特徴を反影した覆刻とも考えられるが、この頃の整版本に常見することであるから、祖たる活字版が存在しないと、一概に覆刻と断定するのは憚られる。

#### (一) 「四書」伝存本

##### 一、尊経閣文庫蔵本

「大学」「中庸」各一冊、「論語」二冊「孟子」五冊。薄標色表紙(二六・八×一八・九糎)、新補のもので、全丁裏打を施した際に加えられたものである。書入れなく、各冊首に「尊経／閣章」「前田氏／尊経閣／図書記」印を捺す。

二、天理図書館蔵本 12番

冊数尊経閣本と同じ。栗皮色表紙(二七・五×一九・八糎)、九冊ともに同じ表紙で上下裁断を加う。印記等なく、書入れは「四書」を通じて一筆、清原宣賢の点を忠実に移点したもので、元奥書等詳細は「天理図書館稀書目録」第二に詳しく載せられている。おおむね永正八年・九年頃の点本に拠っている。「中庸」奥書の前に清家講義の記録(移録)があり「同目録」に載っていないのでここに記しておく。

宣賢一 飯田将監発起

南禅寺林首座 一 發起大永五

一 享祿三於能州 一 於禁中 一 於山左衛門佐義総口

一 於禁中

講九ケ度 四十一三始廿九終

一 於親王御方講 一 於越前国一乗谷講

一 天文一四十一始廿八終 一 天文十五正廿七始之

二月八日終九ケ度

一 於越前一乗谷安養寺講天文十七 一 三十一始之五月十九終九ケ度

枝賢一 弘治二月於撰州芥川城 一 松永彈正忠久秀発起

いずれにしても、博士家講読の蹟を知るに欠かせない伝本である。本論集第三十一輯二四六頁を参照。函架番号(123・7・

##### 一)

##### 三、天海大僧正旧蔵本 13番

東京大学総合図書館(A00・5806)に所蔵される青洲文庫伝来本。九冊(大・中各一冊、論二、孟五冊)。江戸初期の丹表紙(二六・七×一八・二糎)を加えるが、「孟子」一・四冊は

薄朱色表紙でこの二冊は書入れ等から見ても後の補配に係る。

「孟子」の第一―第四冊は後表紙が香色のもので、うち第一・四の補配冊の後表紙には「学古亭之珍／足利本孟子仁」「足利本孟子智」と墨書する。この墨書も古い外題である。足利本とは慶長刊本のことである（論集第三十輯一一三頁参照）。この「孟子」補配冊以外のものの前表紙に「天海蔵」の墨印が捺されている。よって、天海以後のとり合わせであろう。この天海蔵本には「四書論語」之五」等と或は大僧正の手であろうか書外題が各冊にあり、もと完本であったと想像される。後人の附箋に「大内版／四書／天海／僧正／蔵本」とあるが、大内版ではない。天海大僧正は寛永二〇（一六四三）年の示寂であるから、本冊の訓点書入れも含めた成立年時が自と限定されてこよう。

書入れは、「孟子」一・四冊（即ち序・卷一・二・九・十・十一）の補配冊で新しい朱のヲコト点が序・一・二首に加えられて、余は全くないのを除いて、天海旧蔵のものには朱ヲコト点・墨の返点・送仮名・縦点・附訓・声点を施してあり、「開版後間もない頃」の筆で、清家点とほぼ同じ訓を示している。版面は全体的に後印に属するように思われる。各冊首に「青洲文庫」印（渡辺青洲）がある。

(二) 「大学・中庸」伝存本

一、高木文庫旧蔵本 14番

「大学章句」「中庸章句」を各一巻一冊に合冊する。国会図書館蔵（WA・7・48）。栗皮表紙（二六・五×一九・〇糎）で、浅黄色の帙に「高木氏目二六五番」と横山重のペン書あるは、同館蔵「論語」（整版乙種・論集三十輯一八一頁参照）と同じ。「高木家蔵」印あり。書入れは「学・庸」を通じて江戸前期頃と思われる一筆。朱の句点と墨の返点・送仮名・縦点・附訓。清家点本とその訓を比較するに、ずい分と差異が目立っている。

二、京都大学谷村文庫蔵本 15番

同じく「学・庸」を一冊に合わせる。茶色表紙は二六・六×一八・二糎。初印の部類に属すると思われるが、書入れが「学・庸」でそれぞれ別手で通巻しているので、とり合わせたものかも知れない。いずれも経文のみに返点・送りがな・縦点・附訓が施されている（墨筆）。「中庸」の第二十四丁は補写で、その加点者と同筆である。朱筆の書入れは時代の降るものである。

墨筆は「学・庸」ともに江戸初期の手とみるべきで、清家点系の点を伝えている。「大学」末に「福」墨印、首にも不明印一顆を存す。

本云

借請清給事宣賢本令書写同点之今日給功畢／永正二年五月十九日左大史小槻宿禰判

以清家累代之証本写之不可有一画之相違者也／于時永祿

(三) 「大学」のみ伝存本

元 八月 日

由庵

一、神宮文庫蔵本 16番

行王(印)

函番二一四一六。全丁裏打されている。初刷に近い。「宮崎／文庫」印がある。書入れは開版直後であろう朱のヲコト点・墨筆の各訓点・元奥書が一手で加えられる。欄外に補注を加えているのは別手であるが、さ程訓点と時をへだてないものである。元奥書に見えるように清家点の忠実な移点である。

とある。永祿元年(一五五八)の奥書を有する古写本から清家点を移点したもので、「由庵」までが元奥書か。この元奥書は本文の墨訓(含朱ヲコト点)と、墨痕から同筆と思しく、末尾の「行王」二字は或は別筆の署名にも思える。この署名の印文と巻首にある二顆印はともに不明。

本云 此本加一見朱黒<sup>マツ</sup>両点無相違頗可謂証本矣 文龜第三ノ卯

月初十

(四) 「中庸」のみ伝存本

清三位入道常益

桑門隱徒判

一、清原宣光旧蔵本 17番

本云

東洋文庫所蔵(三・C・25)の「中庸」一冊。江戸初期の薄

以故入道証明之点本被遂其功訖寔為後葉龜鏡而已

茶色表紙(二六・八×一九糎)を備え、やはり江戸初期と思われる墨筆の訓点を加えている博士家の課本。後筆と思われる朱

給事中宣賢判

れる墨筆の訓点を加えている博士家の課本。後筆と思われる朱

墨の手も散見される。その古い訓点（返点・送仮名・縦点・附訓・声点・補注）は勿論清家の点を伝えたものであり、欄外等には講義に用いた仮名注が記されている（墨訓同筆）。一例を示せば、「中庸ハ未発ノ中ト特ニ中スルト不偏不倚ノ四字ヲ□用ニ言テ名タリ□／中和ノ中ハ専ラ未発ヲ主トシテ言フ 中庸ノ中ハ二義ヲ含テ心ニ在ノ中 事物ニ在ノヲ云／庸ハ依本文 怪異ノ事ヲ為サス 平常ハ是 人ノ常ニ用（ル）所 怪異（ハ）人 當見（セ）サル所」という具合である。「明経」「宣光／之印」「鈴鹿氏」「吉田神社／社司中臣□啓／翰臣之章」「読杜／草堂」「雲邨文庫」の印記がある。

二、服部甫庵旧蔵本 18番

都立中央図書館特別文庫（特・中・6333）所蔵の「中庸」一冊。「函番の「中」は中山久四郎旧蔵書で、中山氏の識語によれば、「服部政世号甫庵／後号煉霞文化元年生／明治二十五年没寿八十九下野人／浅田宗伯門人也／上記文政丁亥即十年也」という人。浅田宗伯は幕末の医家で文献学にも長じた大家。末尾に甫庵の自跋があり次の如く記す。

本書者家先之遺書也小野天年云道春所校四書有方支蘭／無

從支蘭是本道春以前之活版也可珍藏云文政丁亥二月就／奈須玄□君所校汲古閣板句読焉 服部政世記

「甫／庵」（陰）刻「政世」印

「甫庵／蔵書」「中山文庫」「中山氏／蔵書／之記」印を有す。書入れは藍墨の返点・送仮名・句点・附訓・欄外メモがおそらく甫庵のものであろう。また、甫庵以前に加えられたとみられる朱の返点・送仮名・声点・附訓・縦点がある。訓法は大概清家点以来の読みに則していると言つて良いが、細部の仮名使いや送仮名に違いが見られる。いずれも江戸中期以降の手になると推し測る。訓法の一例に、第十四章の「君子素其位」、清家点では「素」を「ムカフテ」と読むが江戸時代は「素シテ」と読むのが普通で、本冊も又そのように読んでいる。道春点では「素シテ」「ムカフテ」両説（享保常憲院本）であった。



## 第二編 校勘編

慶長刊本の「大学」「中庸」が宋版系に据り、博士家伝来の古鈔本の系統に属している事実は、阿部隆一博士がつとに論じられた所である（前述）。従って、元・明の「輯釈」「大全」系と宋版系の相違は、清呉志忠「四書章句集註附攷」に詳細であるので、ここでは、宋淳祐刊本（孫氏小墨妙亭覆刻）・呉志忠刊本と慶長各版本との異同を示し、又清家鈔本も参照にして本版の性格を確認してみたい。

「大学」古鈔本の「宣賢手写本」は、京都大学附属図書館（清家文庫）蔵永正一二年（二五二四）清原宣賢手写加点本一冊を指し、「中庸」の「鎌倉写本」は、東洋文庫蔵伝正治二年（二二〇〇）奥書〔鎌倉〕写本二軸、同じく「中庸」の「弘和二年本」は、京都大学附属図書館（清家文庫）蔵弘和二年（一三八二）奥書〔室町初〕写本一冊を、「宣賢奥書写本」はやはり京大図書館蔵の永正八年清原宣賢加点奥書〔近世初〕写本一冊を指している。いずれも阿部隆一博士に本論集第一輯掲載の

解題が存する。どれも「学・庸」の数少ない古写本の白眉であつて、慶長刊本の源流に位置するものである。底本は清嘉慶年間に呉志忠が真意堂に校刊した仿宋刊本である。昭和二・三年頃に文求堂が影印したが台北藝文印書館の影印本や安政二年（一八五五）に佐藤一斎が加点覆刻したものも同様に用いることができる。また、宋版系の代表と謳うべき「淳祐本」とは、淳祐六年（一二四六）の刊行識語を有する八行一五字の宋刊本を清の康熙年間に覆刻した内府刊本の、民国時孫氏小墨妙亭による更なる覆刻本のことである。しかし、傳増湘によればこの覆刻本の祖本たる宋版は「宋刊元修本、（省略）序後有補刊識語、末行填淳祐丙午偽紀年、故宮藏書」（「藏園訂補呂亭知見伝本書目」卷三）であつて、本版の淳祐の年号は信ずるべきものではないが、今は真の淳祐刊本（北京図書館蔵瞿氏旧藏本）を参照にし得ないので、本テキストをもつて準拠することにしたのである。

### 大学章句

#### 經一章 注

皆當至。於至善之地

慶長刊本・宣賢手写本作止於至善。吳志忠も言う如く、近本や「四書纂疏」本等が「止」に作る。「四書大全」も「止」である。

同 注

治平声後放此

慶長刊本放作倣。

同 注

齊家以下則拳此而措之耳

慶長刊本（下村本・無刊記本甲種）如此。慶長刊（今関本無刊記本丙種）、淳祐本、宣賢手写本措作錯。慶長刊本の版種で違いが見られるのは注目するべきで、「大全」は「措」に作る。

伝二章

周雖旧邦命惟新

慶長刊本（今関本）如此。慶長刊本（下村本・無刊記本甲・

丙種）惟作維。「大全」は「維」に作る。

伝三章 注

此両節咏歎淫泆其味深長

慶長刊本如此。淳祐本泆作液。

伝五章 注

蓋人心之靈莫不有知

慶長刊本如此。宣賢手写本無有字。

伝六章 注

謙快也足也

慶長刊本・淳祐本・宣賢手写本謙作慊。「大全」は「謙」に作る。

同 注

不可徒苟且以殉外而為人也

慶長刊本・淳祐本・宣賢手写本殉作徇。「大全」は「徇」（又「徇」〈俗字〉）に作る。以下「中庸」も同じ。

同 注

厭然消沮閉藏之貌

慶長刊本・宣賢手写本消作銷。

中庸章句

序

所以提挈綱維開示蘊奧

慶長刊本如此。淳祐本・鎌倉写本作緼。

庶乎行遠升高之一助

慶長刊本如此。宣賢手写本無之字。

第七章 注

期月匝一月也

慶長刊本如此。鎌倉写本匝作通。

第十一章 注

行有不逮。當強而不強者也

慶長刊下村本逮誤遠。弘和二年本亦誤遠。

第十二章 注

讀者其致思焉

慶長刊本（無刊記乙種・下村本）如此。慶長刊本（今関本）

宣賢奥書写本其作宜。「大全」はやはり「其」である。

第二十章 注

體謂設。以身処其地而察其心也

鎌倉写本無設字。慶長刊本如此。

同 注

然必親師取。友然後脩身之道進

慶長刊本・淳祐本・鎌倉写本皆無取字。「大全」如此。高

本文庫旧蔵整版本の書入れは「取」字を補って訓読する。

既に「大全」系のテキストを重んじる風のあらわれである。

同 注

所謂。建其有極是也

慶長刊本如此。宣賢奥書写本建上有皇字<sup>本</sup>。「大全」は「皇

建」に作る。江戸時代の夥しい版本皆「皇建」である。

同 注

蓋以身體之而知其所頼。乎上者如此也

慶長刊本如此。鎌倉写本頼作願。

同 注

謂反求諸身而所存所発

慶長刊本如此。鎌倉写本諸作誠。

主な校異は以上の如くであるが、慶長刊本の大勢が呉志忠校本又宋淳祐本に合致していることは理解できる。但し、今関本と下村本では、はっきりと異同が分れ、「大全」の文に一致するのが下村本の系統であることも興味深い事実と言えよう。慶長の頃、各種テキストが混在する時代とあって、宋版系、写本系、新刊本系等相互に影響し合うことは当然の事情と言えようが、未だ大宗たる博士家の伝本を柱とする風は衰えず、ややもすれば

ば新渡来の元明刊本の読習が春の息吹を感じるが如く校定に顯出する姿が、こうしてうかがえるのではなからうか。

更に、こうした系統上の異同とは別に、単純な誤植や誤字・字体の相違の類は各種のテキストに見られるもので、勿論「論語」に例を見る如くそれがテキストの整理上意味を持つ場合もあるが、本書にあつてはその限りではない。但、こうしたテキストの成立事情を知る上で見逃すことができない要素も無しとしないことから、ここに正誤をまとめておくこととする。

### 大学章句序

教之以窮理正心修己

下村本修作脩、以下倣之。「修」「脩」は問題がないが、下

村本はほぼ「脩」字、今関本は両様で「修」が多い。

晦盲否塞反覆沈痼

今関本晦誤晦。

### 經一章 注

治平声後放此

慶長刊本放作倣。以下倣之。

### 同 注

文理接統血脈貫通

慶長各本脈作脉。

### 伝三章 注

緝詩作縣。

慶長各本縣作綿。

### 同 注

於戲音烏呼

下村本烏誤鳥。

### 伝六章 注

徳之潤身者然也

慶長整版本・古活無刊記丙種然誤終。

### 伝九章

一人貪戾一國作乱

今関本整版本貪誤貧。

### 中庸章句

#### 第一章 注

原其所自無一不本於天

慶長刊無刊記乙本無一字。

第四章 注

道者天理之當然。

無刊記乙本當誤常。

同 注

道之所以常不明也。

下村本今関丙種本常誤當。常と當の誤植はよく見うけられ、

下村本の竹中重門旧蔵本清原秀雄旧蔵本ともに「常イ」と

校訂語を識している。

第六章 注

人孰不樂告以善哉。

無刊記乙本告誤吉。

第七章 注

不能守皆不得為知也。

無刊記乙本下不字知字互誤植。「不得為知也」という排字ゆえに

「不・知」左右に誤植することも活字版特有の誤り。

第十章 注

抑語。辞而汝也。

無刊記乙本無語字。

同 注

枉席也。金戈。兵之屬。

今関本整版本戈誤才。

第十一章

子曰素。隱行怪。後世有述焉。

慶長各本怪作恠。整版本素誤索。

第十二章 注

蓋可知可能者道中之一事。

無刊記乙本之誤也。「之」「也」の誤刻も常見のもの。

同 注

明化育流行上下昭著莫非此理之用。

下村本此誤比、今関本丙種誤北。

第十三章 注

庸平常也。

無刊記乙本平誤乎。これも常見の誤り。

第十四章 注

皆侯之中射之的也。

下村本侯誤候。以下「侯」字下村本「候」に誤るものあり、

重載せず。

第十九章 注

宗廟之次左為昭右為穆

今闕本丙種左誤在。

第二十章

去讒遠色賤貨而貴德

無刊記乙本色誤邑。

同 注

而其文尤詳成功一也

無刊記乙本無一字。

第二十四章 注

無一毫私偽留於心目之間

無刊記乙本毫誤毫。以下第二十七・三十二章にも。

第二十五章 注

而皆得其也。

無刊記乙本整版本也誤人。

第二十六章 注

無為而成以無疆而言也

慶長刊本疆誤疆。

同 注

天地之道可一言而尽

整版本無刊記乙本地誤他。

同

詩云維天之命於穆不已。

無刊記乙本整版本已誤也。

第二十八章 注

裁古灾字。

慶長刊本字誤反。

第二十九章 注

知天知人知其理也。

無刊記乙本整版本也誤人。

第三十章 注

祖述者遠宗其道

整版本宗誤完。

第三十一章 注

施去声隊音墜

整版本音誤旨

第三十二章 注

綸者比其類而合之也

整版本無刊記乙本今闕丙種本類誤顯。

同 注

千變万化皆由此出

整版本千誤十。

第三十三章 注

言莫見乎隱莫顯乎微也

整版本見誤先。無刊記乙本は不清であるが「見」とも「先」ともみてとれる。

同 注

猶有可比者。是亦未盡其妙

整版本無刊記乙本比誤北。

以上がその概要である。活字版特有の誤植や相似の字同志の誤植等、さして見るべきものも無いが、「論語」や「孟子」にあつては殆んど誤植の見うけられないすぐれた下村本にも幾つかの欠点が見える。但、少々目立って気になる異同が、無刊記乙本と整版本の誤字の一致なのである。無論、全箇所就いて同一という分けではないが、「也」「人」「己」等が混同してしまふ例はまだましであるが、「地」を「他」、「類」を「顯」、等と同じように誤っている姿は、そのまま見すごしてしまうには

余りにも偶然すぎるように思われるのである。更に両者の版式（版心象鼻の様子）の相似等の要素も思い浮べると、或いは整版本の祖本をこの無刊記乙本に求めることができるであろうか、とも感じられるのである。「論語」に於けるこうした関係を考じた際に述べた如く、字様が全く一致していなければ覆刻と呼ぶ事はできないが、活字版に部分的な修を加えた葉がある場合も考慮に入れる必要があるゆえに、一概に現存本のみで判断することは危険であろうけれども、この場合、無刊記乙本と整版本との字様の違いは、多々見られるがまた、よく似た特徴の字並びなどを共通にする箇所も少なくはないのである。いずれにせよ、無刊記乙本に「大学」が現存しないこともあつて、十分な研究には資料が乏しいとするべきであつて、こうした、覆古活字版とも考えられる現象を、先に述べたような、「大学」「中庸」整版本は必ずしも覆古活字版と考える必要もないのではないか、という一つの仮説とともに、ありのままここに、問題を提起して後考を俟ちたいと考える。

さて、次に「中庸」末尾に附されている「補音釈」（図版三参照）について述べておこう。この「補音釈」は単なる音注であるが、しかも第十三章の「言願行行願言」の「行」字、第二

十章注「踏躑也」の「躑」字、第二十七章注「燂温」の「燂」、第二十九章注「射音妬詩作敦」の「敦」字についての計四条のみのものである。古注に引かれた「經典釈文」の音注や、「敦」では「毛詩正義」に引かれる「經典釈文」の注と朱熹「詩集伝」に於ける注とを添え加えたものであつて、後人によって編まれたものであり、朱熹の章句とは直接関わらぬものである。従つて唐本、例えば淳祐本や呉志忠本等いずれにも見えない附録であつて、本慶長刊本に附載されるのは、博士家伝来の古写本にそのまま依つたものであるからに他ならない。正治二年奥書鎌倉写本、弘和二年奥書室町写本の二本にこの「補音釈」が附されていて、慶長刊本に於けるものと全く同一のものであることがそれを物語っている。しかしながら、その古写本が如何なる由来によつて附したものであるのかは依然たどるべき資料を欠いている。<sup>(注)</sup>ただ、慶長刊本も無刊記乙本にはこの「補音釈」がなく、元来無かつたものか後に欠葉となつたものかは明らかではない。

こうした音釈は、宋元間の坊刻本に通見される類の傍音・傍釈にも似ているが、已に鎌倉の鈔本（正治二年は一二〇〇年で朱熹の没年・この奥書に信憑性がない事は阿部博士の論考―本

論集第一輯―を参照）に、しかも尾題の前に（慶長刊本は尾題の後別葉にある）添えられていることは、古くから依るべきものがあつたに相違ないことを思わせ、宋元の坊本より摘録したと言つた様なものであると一概にも言えぬふしがある。いずれにせよ、これ以上確とした論考は今のところできないが、「大<sub>学</sub>章句」は勿論、「論語」「孟子」の朱熹注本についても、こうした附録は見うけられないのである。

(注) 静嘉堂文庫所蔵の「四書集注」（百宋楼旧蔵本・函架番号一―四〇）は、従来宋刊本とされて来たが、長澤規矩也博士はこれを元刊覆宋或は明刊覆元とされ、阿部博士は「明初」刊覆元覆宋とされた。いずれにせよ元明間の覆刻本で、その淵源は宋刊本に辿るものと判断されるのであるが、本版には卷末等に「音考」なる音釈が附され、傍線・傍圈等とともに読者の便を案じた懇切なテキストとなつている。その音考の、「中庸」における部分の「補音釈」と一致するものが三条あつてここに列挙すると次の如くである。（圏点は筆者）

言顧行行顧言

行旧下孟反今依章句読如字



踏躑也

蹟陟利友與寔通説文礙不行也韓進学解跋前躑後

温猶燂温之温

燂音尋火熟物也春秋伝若可燂也亦可寒也

こうした例を見れば、宋版の坊刻本系に附された音注から、博士家が講読の際に備忘的に遺したものが伝抄によって伝わって、いくつかの古写本に残留し、慶長刊本もそれを由緒あるものとして受け継いだのかも知れない、と考えることもできる。

### 第三編 訓 読 編

#### 第一章 書入訓読の状況

書入れ訓読を研究する目的と方法については既に前回「論語集解の研究」上に述べたとおりである。いずれにしても戦国時代の武将や、寺院で研鑽を積む学僧、更に依然として学問の先端に君臨する博士家を中心とした学者たちが、どのような意気込みで読みこんでいったのかを感じ取ることが最も大きな課題である。書入れの実態は、論語集解の場合と同じく、中心となるのは清原家の訓点である。ほとんどの伝本が精密に祖本からの点を移し取ったと思われるもので、その読法には細部の小異が見うけられる程度の変化が感得されるものの、後に主流となる道春点系の読法とは、明確に一線を画するものである。そこで明瞭な附訓を施している伝本に就いてそれを忠実に翻刻し、慶長時代頃の読み方を示し、それ以前の読みと以後の読みとの

伝本	箇所	経注	書入時代	跋	訓読の系統	他(現蔵等)	
下村生蔵刊本							
(1) 竹中重門旧蔵本 学・庸	全卷	経注	江戸初		清家点	庸・慶応大学蔵	朱句点 墨筆竹中重門カ
(2) 清原秀賢・秀雄 旧蔵本 中庸	全卷	経注	江戸初		清家点	東洋文庫蔵	朱ヲコト点 墨訓一手
(3) 楊守敬観海堂 旧蔵本 大学	全卷	経注	江戸初		清家点	台北故宮博物院蔵	〔朱〕ヲコト点 墨訓一手

(墨筆訓点)

連絡橋とならんことを目指したいと願うのである。ここに「明瞭な」と言う意味は、どう読んでいるのかがはっきりしている、という意味であって、附訓や送りがなに省略が見られるのは、あるいはそれは不読に従うということなのかどうか、思い迷うことがある為に、なるべく詳細に書入れられた伝本を選んだのである。底本以外では、「大学」で神宮文庫本、「中庸」で清原宣光旧蔵本(東洋文庫蔵)等は最も丁寧な附訓であると云える。

ただ、清原宣賢が自筆本「中庸」の奥書に述べるような、「清濁」の読みに正確を至すところまでは、本研究は及ばないのであって、あくまでも読み下しの情況の概観から、時の儒流の勢いを察知する為の研究であることは、重ね重ね申し述べる所である。さて、論語集解に於けると同様に、次表によって書入れ附訓の全貌を総覧していただきたい。

(8)	(7)	(6)	(5)	(4)
木村正辞旧蔵本 学・庸	清原在賢旧蔵本 学・庸	同 丙種	大東急記念文庫 蔵本 中庸	同 乙種
全卷	全卷		全卷	全卷
経注	経注		経	経注
江戸初	江戸初		江戸初	江戸初
清家点	清家点		清家点	清家点
東洋文庫蔵	学・大東急記念 文庫蔵 庸・杏雨書屋蔵			内閣文庫蔵
	清原在賢ノ附訓モアリ 序ニ江戸後期ノ別筆モアリ 朱点ハ江戸後期		朱引 墨訓一手	朱ヲコト点(経文のみ) 墨訓一手 朱ヲコト点 墨訓一手

(12)	(11)	(10)	(9)
天理図書館蔵本 四書	整 版 本	谷村文庫本 大学	無刊記丙種本
全 卷		全 卷	斯道文庫蔵本 中庸
経 注		経 注	無刊記乙種本
江戸 初		前 江戸 初	清原秀賢旧蔵本 大学
宣賢元奥書 永正八年等清原			無刊記甲種本
清 家 点			
		京 都 大 学 蔵	
墨訓一手 朱ヲコト点		筆 うす墨後筆、朱・藍筆も後	
			序二丁ノミ朱ヲコト点
			墨訓一手 朱ヲコト点

(18)	(17)	(16)	(15)	(14)	(13)
中庸 服部甫庵旧蔵本	中庸 清原宣光旧蔵本	大学 神宮文庫蔵本	学・庸 谷村文庫本	学・庸 高木文庫旧蔵本	本 天海大僧正旧蔵 四書
全卷 (朱)	全卷	全卷	全卷	全卷	全卷
経 (朱)	経注	経注	経	学・経 庸・注	経注
江戸中後 (朱)	江戸初	江戸初	江戸初	江戸前	江戸初
		文亀三年永正二年 永祿元年の元奥書			
清家点系	清家点	清家点	清家点系		清家点
蔵 都立中央図書館	東洋文庫蔵		京都大学蔵	国会図書館蔵	東京大学蔵
墨(藍)訓八甫庵ノモノ	朱筆の別筆、墨訓を訂す	一筆、行間欄外補注別手	墨訓・朱ヲコト点・元奥書	学・庸 別筆 朱筆アリ	朱ヲコト点 墨訓「孟子」一・四冊以外 同筆

谷村文庫本の11番と15番、それに高木文庫旧蔵本の14番が他の清家点本と異訓を多く有するものであり、しかもこれらの伝本の筆蹟は江戸初期から乃至はややそれよりも時代を降るものと察せられる風である。ところで時代と訓法は方程式の如く片付けてしまふべきではないが、ここに江戸初と記したものの判断は、けしてこうした訓法を分類して帰納的に定めたものではないことは注意していただきたいと念ずるのである。むしろここが最も重大な要かなめと言いえるものなのであって、論語集解の場合に於いても、慶長八年・元和十年と確証できる書入れから全体の書入れ時期を推定したのであるが、この分別は意外に見慣れてくると迷わぬもので、重大な要であるにもかかわらずある程度自信をもって判断できるものと考えているのである。この頃の学者の筆使いにはどうも際立った特色があるようで、恐らくは様々な背景による要因が考えられるのであろうが、こうした所に慶長刊本の存在意義が一層浮彫にされてくるように思われるのである。

斯道文庫蔵（富岡文庫旧蔵）の「周易上下経」六卷は、末尾に「于時慶長十四年己酉仲冬念五日於駿州鰲山店書焉」という書写奥書を有する写本で、これなどは、この頃の筆勢の最も強

烈な特色を伝えている实例に挙げることができる一本であるので、ここに参考に附しておくこととする。（図版十参照）  
いずれにしても、「学庸」の読習の形態が、この様な時代の特徴とともに分別され得ることは、古注から新注という儒学史上に於ける「学庸」の意義付け以上に、学問者たちの連綿と生き続ける読書の力量を知ることができるという意味があると、切に思われるのである。



## 第二章 翻刻

### 凡例

一、本訓読文は、「大学章句」が台北故宮博物院現蔵楊氏觀海堂旧蔵慶長時代下村生蔵刊古活字印本、「中庸章句」が東洋文庫現蔵清原秀雄旧蔵で同じく下村生蔵刊古活字印本、この二本に附された江戸初期頃の書入れ訓点を底本として読みくだし、他に幾つかの、同時代頃に慶長刊本に書入れられた附訓との校異を示したものである。

一、校異に使用した各本の略号は、以下の通り。「大学章句」では国会本（国会図書館蔵整版―高木文庫旧蔵本）谷村本（京都大学附属図書館蔵無刊記丙種古活字印本）内閣本（内閣文庫蔵今関版甲種古活字印本）神宮本（神宮文庫蔵整版）谷村本整版（京都大学附属図書館蔵整版）それに宣賢本（京都大学附属図書館蔵清原宣賢加点本）である。「中庸章句」では国会本（前記同様）在賢本（武田科学振興財団杏雨書屋

蔵今関版丙種古活字印本）内閣本（前記同様）宣光本（東洋文庫蔵整版）木村本（東洋文庫蔵今関版丙種古活字印本）谷村本整版（前記同様）それに正治本（東洋文庫蔵正治二年奥書〔鎌倉〕写本）弘和本（京都大学附属図書館蔵弘和二年奥書〔室町初〕写本）宣賢本（同館蔵清原宣賢加点単経本）を示している。写本についてはなお阿部隆一博士の解題（本論集第一輯）を参照。

一、朱熹の注は一格乃至二格を低した。

一、字体は特殊な場合を除き、旧字体その他を用いない。

一、訓読の表記法は「慶長刊論語集解の研究」（本論集三十一輯）に従う。



大―学 章―句序

大―学ノ書ハ古ノ大―学ニシテ人ヲ教ル所<sup>1</sup>以ノ法ナリ。蓋シ天。生民ヲ降シテ(ヨリ)既ニ之ニ與<sup>アタフル</sup>ニ仁義礼智ノ性ヲ以〔テ〕セ(ス)〔ト〕云コト莫シ。然トモ其ノ氣質ノ稟<sup>ウケタルコト</sup>或ハ齊<sup>ヒトシキコト</sup>能〔ハ〕(ス)是<sup>3</sup>以〔テ〕皆以テ其〔ノ〕性ノ有〔ル〕所ヲ知〔リテ〕全スルコト有コト能〔ハ〕(ス)。一<sup>ヒトリモ</sup>聰<sup>3</sup>明睿<sup>3</sup>智ニシテ能〔ク〕其ノ性ヲ尽ス者ノ其〔ノ〕間ニ出ル有トキハ天。必〔ス〕之ニ命シ以テ億兆ノ君師ト為テ之ヲ使〔テ〕治メテ之ヲ教ヘ以〔テ〕其ノ性ニ復〔ラ〕シム。此レ伏<sup>シ</sup>義。神<sup>シ</sup>農。黃<sup>シ</sup>帝。堯舜ノ天ニ繼<sup>ツイ</sup>〔テ〕極ヲ立シ所<sup>5</sup>以ニシテ司<sup>シ</sup>徒ノ職。典<sup>シ</sup>樂ノ官。由<sup>テ</sup>設タル所ナリ。三代ノ隆<sup>6</sup>テ其ノ法<sup>7</sup>。寢備<sup>ヤ、ソナハレリ</sup>。然<sup>テ</sup>後ニ王<sup>テ</sup>宮國<sup>テ</sup>都ヨリ。以〔テ〕閭<sup>シ</sup>巷ニ及フマテ学有〔ラ〕(ス)ト云コト莫〔シ〕。人生レテ八<sup>セニ</sup>歳テ王<sup>シ</sup>公自〔リ〕。以<sup>シモツ</sup>下<sup>カタ</sup>。庶<sup>シ</sup>人ノ子<sup>シ</sup>弟ニ至マテニ

皆。小<sup>シ</sup>学ニ入〔ル〕。而テ之ヲ教ルニ。洒<sup>シ</sup>掃。応<sup>ヨウ</sup>對。進<sup>シ</sup>退ノ節。礼。樂。射御。書。数ノ文ヲ以〔テ〕。其ノ十有ト五<sup>シ</sup>年ニ及〔ン〕テ天<sup>シ</sup>子ノ元<sup>シ</sup>子。衆<sup>シ</sup>子自〔リ〕。以〔テ〕公<sup>シ</sup>卿。大<sup>シ</sup>夫。元<sup>シ</sup>士ノ適<sup>シ</sup>子ト凡<sup>シ</sup>民ノ俊<sup>シ</sup>秀ナルトニ至〔ル〕マテニハ。皆。大<sup>シ</sup>学ニ入〔ル〕。而テ之ニ教ルニ理ヲ窮〔メ〕。心ヲ正<sup>シ</sup>シ。己ヲ脩メ。人ヲ治ルノ道ヲ以〔テ〕ス。此レ又。学<sup>シ</sup>校ノ教。大<sup>シ</sup>小ノ節。分<sup>シ</sup>所<sup>11</sup>以ナリ。夫<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>ハ学<sup>シ</sup>校ノ設<sup>マウケ</sup>。其ノ広<sup>ヒロキ</sup>コト此ノ如シ。之ヲ教フルノ術。其ノ次<sup>シ</sup>第節目ノ詳ナル。又此ノ如〔シ〕。而〔テ〕其ノ教ヲ為所<sup>スル</sup>以〔ハ〕。則。又。皆之ヲ人<sup>シ</sup>君ノ躬<sup>シ</sup>行ナヒ。心<sup>ニ</sup>得之余ニ本<sup>モトツケ</sup>テ民<sup>シ</sup>生<sup>シ</sup>日<sup>ヒビニ</sup>用ル彝倫ノ外ニ求〔ムル〕ヲ待〔タ〕ス。是<sup>シ</sup>以<sup>テ</sup>当<sup>シ</sup>世ノ人。学ナヒ(ス)ト云コト無〔シ〕<sup>13</sup>。其ノ学フル者ノハ以〔テ〕其ノ性<sup>シ</sup>分ノ固<sup>14</sup>ニ職<sup>シ</sup>分有ル所ノ当ニ為〔ス〕ベキ所ヲ知〔リ〕テ各俛<sup>シ</sup>焉トシテ以テ其ノカラ尽〔ス〕コト有〔ラ〕(ス)ト云コト無シ。

此レ古<sup>イニシヘ</sup>者ノ盛<sup>ナシ</sup>時。治。上〔二〕隆<sup>15</sup>。俗。下二美<sup>16</sup>ニシテ後一世ノ能〔ク〕及フ所ニ非〔ル〕所一以ナリ。周ノ衰ルニ及〔シ〕テ賢一聖ノ君作<sup>ラゴラ</sup>ス。学校ノ政。脩マラス。教一化陵一夷シ。風一俗類一敗ス。時ニ孔子ノ若キ聖有レトモ。君一師ノ位ヲ得。以〔テ〕其ノ政一教ヲ行ナハ〔ス〕。是<sup>ココ</sup>ニ<sup>17</sup>。独り。先一王ノ法ヲ取〔リ〕テ誦<sup>シヨウシ</sup>。テ伝ヘテ以テ後一世ニ詔<sup>18</sup>。曲一礼。少一儀。内一則。弟一子一職ノ諸一篇ノ若キハ。固<sup>マコト</sup>ニ小一学ノ支一流余一裔。而ルニ此ノ篇<sup>19</sup>ハ。小学ノ成一功ニ因〔リ〕テ以テ大一学ノ明一法ヲ著<sup>アラハ</sup>ス。外ニハ以テ其ノ規一模ノ大ヲ極<sup>キハムル</sup>。有リ。而〔テ〕内ニハ以テ其〔ノ〕節一目ノ詳ナルコトヲ尽〔ス〕。コト有ル者ノナリ。三一十ノ徒。蓋シ其ノ説ヲ聞〔カ〕〔ス〕ト云コト莫〔シ〕。而テ曾一氏カ伝。独り。其ノ宗ヲ得タリ。是<sup>ココ</sup>ニ。伝一義ヲ作一為シテ以テ其<sup>コ</sup>意ヲ發<sup>オコ</sup>ス。孟一子没スルニ及テ其〔ノ〕伝<sup>ホロヒンタリ</sup>。泯<sup>20</sup>。其ノ書。存セリト雖ヘトモ知レル者ノ鮮<sup>スクナシ</sup>。是レ自〔リ〕。以<sup>21</sup>来<sup>カタ</sup>。俗一

大学序

儒。記一誦。詞一章ノ習ヒ。其ノ功。小一学ニ倍<sup>22</sup>。而モ用無シ。異一端。虚一無。寂一滅ノ教。其〔ノ〕高キコト大学ニ過<sup>スクレタレトモ</sup>。而モ実無シ。其ノ他ノ権一謀。術一數。一一切以テ功一名ノ説ヲ就<sup>ナス</sup>。夫ノ百一家衆一技ノ流ト。世ヲ惑ハシ。民ヲ誣<sup>シヒ</sup>。仁一義ヲ充一塞スル所。以ノ者ノ又紛<sup>フン</sup>。然トシテ其<sup>コ</sup>間ニ雜<sup>マシハリ</sup>。出ツ。其ノ君一子ヲ〔シ〕テ不<sup>レ</sup>幸ニシテ大<sup>レ</sup>道ノ要ヲ聞〔ク〕コト得ス。其ノ小一人ヲシテ不<sup>レ</sup>幸ニシテ至一治ノ沢ヲ蒙〔ル〕コト得サラシム。晦一盲。否一塞。反一覆。沈<sup>チン</sup>一痼シテ以テ五一季ノ衰フルニ及〔シ〕テ壞一乱。極<sup>キハマンヌ</sup>。天一運。循一環シテ往テ復<sup>25</sup>〔ス〕ト云コト無〔シ〕。宋ノ徳。隆<sup>26</sup>。盛ニシテ治一教。休一明ナリ。是<sup>ココ</sup>ニ河一南ノ程一氏。両一夫一子。出以〔テ〕孟一氏ノ伝ニ接<sup>ツク</sup>コトアリ。実<sup>マコト</sup>ニ始メテ此ノ篇ヲ尊一信シテ之ヲ表一章ス。既ニ又。之カ為ニ其ノ簡一編ヲ次<sup>ツクテ</sup>。其ノ帰一趣ヲ發<sup>ヲコ</sup>ス。然<sup>テ</sup>後ニ古ノ大<sup>27</sup>学。人ヲ教フルノ法。聖一經。賢伝ノ指<sup>ムネ</sup>。粲<sup>サン</sup>一然トシテ復〔タ〕

大學序 經

世二明<sup>アキラカナリ</sup>。熹力不<sup>ナ</sup>一敏ナルヲ以〔テ〕スト雖〔モ〕

。亦幸二私<sup>ヒソカ</sup>ニ淑<sup>ヨクシ</sup>テ聞コト有〔ルニ〕與<sup>アツカレリ</sup>。其ノ書

為コトヲ顧〔ル〕ニ。猶。頗フル。放<sup>ト</sup>一失セリ。是<sup>ナ</sup>

以〔テ〕其ノ固<sup>ツ</sup>一陋ヲ忘レテ采〔テ〕之ヲ輯ム。間亦

竊<sup>ヒ</sup>ニ己カ意ヲ附〔シ〕其ノ闕<sup>ツ</sup>一略ヲ補フ。以〔テ〕後

ノ君子ヲ俟<sup>マツ</sup>。極メテ僭<sup>ツ</sup>一踰ナルヲ知ル。罪ヲ逃<sup>ノカル</sup>。所無

シ。然レトモ国<sup>ツ</sup>一民ヲ化シ。俗ヲ成〔ス〕意。学<sup>ツ</sup>

者。己ヲ脩メ。人ヲ治ル方<sup>ニ</sup>於テハ未タ必スシモ小<sup>シ</sup>

キ補ヌイ無<sup>ナクハアラ</sup>。スト云<sup>イフ</sup>。淳<sup>ツ</sup>一熙。己<sup>ツ</sup>一西。二<sup>ツ</sup>一<sup>ツ</sup>月。甲<sup>ツ</sup>

子<sup>ツ</sup>ニ新<sup>ツ</sup>一安ノ朱<sup>ツ</sup>一熹。序<sup>ツ</sup>ス

大學

朱熹章句

大 旧音ハ泰。今ハ。読コト字ノ如シ

子<sup>ツ</sup>一程<sup>ツ</sup>一子。曰。大<sup>ツ</sup>一学ハ孔<sup>ツ</sup>一氏ノ遺<sup>ツ</sup>一書ニシテ初<sup>ツ</sup>

学<sup>ツ</sup>。徳ニ入ルノ門<sup>カトナリ</sup>。今ニ於テ古<sup>オ</sup>一<sup>ツ</sup>人ノ学ヲ為<sup>スル</sup>。次<sup>ツ</sup>

第<sup>ツ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>可<sup>ク</sup>キ者ノ。独<sup>ツ</sup>リ此ノ篇ヲ存セルニ頼<sup>ヨ</sup>ル。而テ論<sup>シ</sup>

孟<sup>ツ</sup>之<sup>ツ</sup>二<sup>ツ</sup>次<sup>ツ</sup>。学<sup>ツ</sup>一者。必ス是ニ由<sup>ヨ</sup>学<sup>マナ</sup>ヒ。庶<sup>コヒネカハク</sup>。ハ其<sup>ツ</sup>レ

差<sup>タカハ</sup>サランコトヲ

大<sup>ツ</sup>一学ノ道ハ明<sup>ツ</sup>一徳ヲ明<sup>アキラカニスル</sup>。ニ在リ。民ヲ親<sup>4 アラタニスル</sup>。ニ

在リ。至<sup>ト、マル</sup>一善ニ止<sup>ツ</sup>。ニ在リ

程子曰。親ヲハ當ニ新ニ作〔ル〕〔ヘシ〕○大<sup>ツ</sup>一学ハ

。大<sup>ツ</sup>一<sup>ツ</sup>人ノ学ナリ。明ハ之ヲ明〔ニ〕スル。明<sup>ツ</sup>一徳

トハ。人ノ天ニ得タル所〔ニ〕シテ虚<sup>ツ</sup>一靈。昧<sup>6</sup>ラカ

ラス。以〔テ〕衆<sup>ツ</sup>一理ヲ〔具<sup>ツ</sup>ヘ〕テ万<sup>ツ</sup>一<sup>ツ</sup>事ニ応スル

者ノナリ。但<sup>ツ</sup>。氣<sup>7</sup>一稟<sup>ヒシ</sup>ノ拘<sup>カケフル</sup>。所。人<sup>ツ</sup>一欲<sup>ツ</sup>ノ蔽<sup>カクス</sup>。所

〔ノ〕為<sup>ツ</sup>ニ時トシテ昏<sup>クラキ</sup>。コト有〔リ〕。然レトモ其

〔ノ〕本<sup>ツ</sup>一<sup>ツ</sup>体ノ明ハ未タ嘗テ息〔マ〕〔サ〕ルコト有

ル者ノナリ。故ニ学<sup>ツ</sup>一者。當ニ其ノ發スル所ニ因

〔リ〕テ遂ニ之ヲ明ニシ以テ其ノ初ニ復〔ヘシ〕。新

トハ。其〔ノ〕旧キヲ革<sup>アラタムル</sup>。謂ナリ。言ハ既ニ自

〔ラ〕其〔ノ〕明<sup>ツ</sup>一徳ヲ明シテ又當ニ推シテ以テ人

ニ及ホシテ之ヲ使テ亦其ノ旧<sup>ツ</sup>一<sup>ツ</sup>染ノ汚<sup>ケカレ</sup>ヲ去<sup>サクル</sup>コト有

ラ〔シム〕〔ヘシ〕。止〔トハ〕必〔ス〕是ニ至〔リ

テ〕遷<sup>ツ</sup>ラ〔サル〕意ナリ。至<sup>ツ</sup>一善〔トハ〕事<sup>ツ</sup>一理ノ

當ニ然〔ル〕（ヘ）キ極ナリ。言ハ明一徳ヲ明ニシ

。民ヲ新ニシテ皆 當ニ至一善之地ニ止〔リテ〕

遷ラ（サ）ルヘシ。蓋〔シ〕。必ス 以テ夫（ノ）

天一理ノ極ヲ尽〔シテ〕一毫ノ人一欲ノ私クシ無

〔シ〕。此ノ三ツノ者ハ大一學ノ綱一領ナリ

止コトヲ知〔リ〕テ。而 后ニ定 有リ。定〔マリ〕

テ而 后ニ能〔ク〕静。静ニシテ而 后ニ能〔ク〕

安。安シテ而テ后ニ能〔ク〕慮。慮テ而テ后ニ能

〔ク〕得

后 後ト。同シ。後此ニ倣へ○止トハ當ニ止ルヘキ

所ノ地ナリ。即〔チ〕至一善ノ在〔ル〕所ナリ。之

ヲ知〔ル〕トキハ志 定テ向フコト有〔リ〕。静ト

ハ心ノ妄 動〔カ〕（サル）ヲ謂。安トハ 處所トシ

テ安〔キ〕ヲ謂。慮トハ事ニ処スルコト精一詳ナル

ヲ謂。得トハ其ノ止ル所ヲ得〔ル〕ヲ謂

物。本一未有り。事。終一始 有リ。先一後スル所ヲ知

〔ル〕トキハ道ニ近シ

徳ヲ明〔ニ〕スルヲ本ト為ス。民ヲ新〔ニ〕スルヲ

末ト為ス。止コトヲ知ヲ始ト為ス。能 得ヲ終ト為

ス。本一始ハ先ニスル所ナリ。末一終ハ後ニスル所

ナリ 此ハ上文兩一節ノ意ヲ結〔フ〕

古ノ明一徳ヲ天一下ニ明 一ト欲〔スル〕者ノハ先其

ノ国ヲ治ム。其ノ国ヲ治ムト欲スル者ノハ先其ノ家ヲ齊

ト。其ノ家ヲ齊 一ト欲スル者ノハ先其ノ身ヲ脩〔メ〕

ム。其ノ身ヲ脩〔メム〕ト欲〔スル〕者ノハ先其ノ心ヲ

正 其ノ心ヲ正サント欲スル者ノハ先其ノ意ヲ誠ニス。

其ノ意ヲ誠〔ニ〕セント欲スル者ノハ先其ノ知ヲ致ス

知ヲ致 一ハ物ヲ格ニ在〔リ〕

治ハ平一。聲。後 此ニ倣。明一徳ヲ天一下ニ明〔ニ

スル〕トハ。天一下ノ人ヲ使テ皆以テ其〔ノ〕明一

徳〔ヲ〕明〔ニ〕スルコト有ラシム。心ハ。身ノ主

トスル所ナリ。誠ハ実 一。意ハ心ノ發〔スル〕所ナリ。

其ノ心ノ發スル所ヲ実ニシテ其ノ善ニ一ニシテ自

〔ラ〕欺クコト無ランコトヲ欲ス。致ハ推 一。極ルソ。

知ハ猶ヲ識ノ（コトシ）。吾カ知一識ヲ推一極メ其ノ知ル所 尽（サ）（ス）ト云コト無ランコトヲ欲ス。格ハ至。物ハ猶ヲ事ノ（コトシ） 事一物ノ理ヲ窮一<sup>メ</sup>至シ其ノ極一処到ラ（サル）コト無（ラン）

コトヲ欲ス。此ノ八ノ者ノハ大一学ノ条一目ナリ

物格<sup>コトイタリ</sup>而<sup>テ</sup>后<sup>ニ</sup>知<sup>至</sup>ル。知<sup>至</sup>（リ）而<sup>テ</sup>后<sup>ニ</sup>意<sup>誠</sup>アリ

意誠（アリ）テ而<sup>テ</sup>后<sup>ニ</sup>心<sup>正</sup>シ。心<sup>正</sup>シテ而<sup>テ</sup>后<sup>ニ</sup>身<sup>脩</sup>ル

身脩（リ）而<sup>テ</sup>后<sup>ニ</sup>家<sup>齊</sup>。家<sup>齊</sup>テ而<sup>テ</sup>后<sup>ニ</sup>国<sup>治</sup>ル。国<sup>治</sup>テ而<sup>テ</sup>后<sup>ニ</sup>天<sup>一</sup>下<sup>一</sup> 平<sup>カ</sup>ナリ

治ハ去一<sup>声</sup> 後此ニ倣 ○物一<sup>格</sup>トハ物一<sup>理</sup>ノ極一<sup>一</sup>

処。到（ラ）（ス）ト云コト無ソ。知一<sup>至</sup>トハ吾カ

心ノ知（ル）所。無ソ<sup>18</sup>尽（サ）（ス）ト云コト。知

既（ニ）<sup>19</sup>尽ストキハ意得<sup>テ</sup>実<sup>19</sup> 可シ。意既ニ実ア

ルトキハ。心得<sup>テ</sup>正<sup>シ</sup>クシツ可（シ）身ヲ脩ルヨリ

以一上ハ明一<sup>徳</sup>ヲ明（ニ）スル事ナリ。家ヲ齊ルヨ

リ以一下ハ民ヲ新（ニ）スル事ナリ。物一<sup>格</sup>リ知

至<sup>レ</sup>ハ止（ル）所ヲ知ル。意誠ト云ヨリ以一下ハ皆

至<sup>レ</sup>ハ止（ル）所ヲ知ル。意誠ト云ヨリ以一下ハ皆

。止ル所ヲ得ル<sup>21</sup>序ナリ

天一子 自（リ）。以テ庶一人ニ至ルマテニ是ヲ<sup>22</sup>壺ツ

（ニ）。皆身ヲ脩ヲ以テ本ト為ス

是<sup>23</sup>ヲ<sup>24</sup>壺ニトハ。一一切スルソ。正一心ヨリ以一下

皆身ヲ脩ムル所一以ナリ 齊一家ヨリ以一下ハ此ヲ

举（ケ）而テ之ヲ措<sup>25</sup>耳<sup>26</sup>

其ノ本乱レ未治マルコトハ否<sup>27</sup>。其ノ厚スル所ノ者ノハ

薄<sup>28</sup>テ其ノ薄（スル）所ノ者ハ厚キハ未タ有（ラ）シ

本ハ身ヲ謂。厚（クスル）所トハ家ヲ謂。此ノ両一

節ハ上ノ文ノ両一節ノ意ヲ結ス

右經一<sup>一</sup>章ハ蓋（シ）。孔一子ノ言ナリ 而ルヲ曾一

子 之ヲ述ス

凡二百五字

其ノ伝ノ十一<sup>一</sup>章ハ曾一子カ意ナリ。而ルヲ門一人。之

ヲ記ス。旧一本。頗（ル）。錯一簡 有リ。今。程一

子カ定ムル所ニ因（リ）而テ更<sup>30</sup>ニ經一<sup>一</sup>文ヲ考<sup>31</sup>テ別ニ

序一<sup>一</sup>次ヲ為<sup>ナ</sup>コト左ノ如シ

凡一一千 五一百 四一十 六一字 ○凡伝一文雜<sup>32マ</sup>

テ経一伝ヲ引〔ク〕コト。統一紀無キカ若シ。然<sup>シク</sup>

トモ文一理。接一統シ血一脈。貫一通シ深一浅。始一

終。至テ精一密ナリト為ス。熟一読<sup>ヨク</sup>。詳ラカニ味ハ、

ハ久シテ當ニ之ヲ見〔ル〕〔ヘ〕シ。今。尽〔ク〕

ニ釈セ〔ス〕

峻ヲハ書ニ俊ニ作ル ○帝一典ハ堯一典。虞一書。

峻ハ大

皆自〔ラ〕明ニスルソ

引〔ク〕所ノ書ハ皆自〔ラ〕己カ徳ヲ明〔ニ〕スル

意ヲ言〔フ〕コトヲ結ス

右伝ノ首ノ章 明一徳ヲ明〔ニ〕スルコトヲ釈ス

此ヨリ下ノ三ノ章ノ信ニ止ト云ニ至ルマテヲ旧一本

誤〔テ〕世〔ヲ〕没マテ忘レ〔ス〕ト云 下ニ在

〔リ〕

康一誥ニ曰。克。徳ヲ明ニス

康一誥ハ周一書 克ハ能

大一甲ニ曰。顧。テ天ノ明一命ヲ諱ス

大カ読ヲハ。泰ニ作〔ル〕。諱ハ古ニ是字 ○大

甲ハ商一書。顧トハ常に目 之ニ在〔ル〕ヲ謂。諱

猶ヲ此ノ〔コトシ〕。或ハ曰。審。天ノ明一命ト

ハ即天ノ我ニ與 所一以ニシ〔テ〕我カ徳ト為所

以ノ者ノナリ。常ニ目 之ニ在〔ル〕トキハ時トシ

〔テ〕明ナラ〔ス〕〔ト〕云無シ

帝ノ典ニ曰。克。峻一徳ヲ明ニ〔ス〕ハ

湯ノ盤ノ銘ニ曰。苟ニ日ニ新タナリ。日ニ新ニシテ

又日ニ新タナリ

盤ハ沐一浴ノ盤ナリ。銘ハ其〔ノ〕器ニ名ケテ以テ

自一警 辞ナリ。苟ハ誠。湯。人ノ其〔ノ〕心ヲ

洗一濯シテ以テ惡〔ヲ〕去コト其ノ身ヲ沐一浴シ

テ以〔テ〕垢ヲ去ルカ如クナルヲ以〔テ〕。故〔ニ〕

其ノ盤ニ銘〔ス〕。言ハ誠ニ能。一一日モ以テ其ノ

其ノ盤ニ銘〔ス〕。言ハ誠ニ能。一一日モ以テ其ノ

伝二章 伝三章

旧一染ノ汚ケカレヲ滌スイテ自ラ新ニスルコト有ト

キハ。當ニ已ステニ新ニスル者ニ因リテ日

日ニ之ヲ新ニシテ又日ニ之ヲ新ニスル

(ヘシ) 略4 間一断 有ル可カラ(ス)

康一誥二曰。民ヲ新ニスルコトヲ作フス

之ヲ鼓シ。之ヲ舞スル。作ト謂。言ハ其ノ

自ラ新ニスル民ヲ振フル起ラス

詩二曰。周ハ旧一邦ナリト雖ヘトモ。其ノ命。維新ナリ

詩 大一雅。文一王ノ篇ナリ。言ハ周ノ国。旧シト

雖モ。文一王ニ至テ能其ノ徳ヲ新ニシテ以

テ民ニ及ホシテ始テ天ノ命ヲ受ク

是故ニ君一子ハ其ノ極ヲ用イスト云所無シ

自ラ新ニシ。民ヲ新ニシテ皆 至一善ニ止マル

コトヲ欲ス

右 伝ノ二ノ章 民ヲ新ニスルコトヲ積ツス

詩ハ商一頌。玄一鳥一篇ナリ。邦一畿ハ王一者ノ都

止ハ居。言ハ物。各當ニ止ルヘキ所ノ処有リ

詩ニ云。緡1一蠻タル黄一鳥。丘一隅ニ止マル子曰。止

マルニ於テ其ノ止マル所ヲ知ル。人ヲ以テ鳥ニタモ

如シ(サ)ル可ケン乎ヤ

緡1ハ詩ニハ綿ニ作ル ○詩 小一雅。緡一蠻ノ篇

ナリ。緡一蠻ハ鳥ノ声。丘一隅ハ岑シウ蔚ノ処ナリ。子一

曰ト云ヨリ以下ハ孔子 詩ヲ説ク辞ナリ。

言ハ人當ニ當ニ止ル(ヘキ)所ノ処ヲ知ル(ヘ

シ)

詩ニ云。穆一穆タル文一王。於ア緡3熙 止マルコト

ヲ敬メリ。人ノ君ト為シテハ。仁ニ止ル。人ノ臣ト為シ

テハ敬ニ止ル。人ノ子ト為シテハ孝ニ止ル 人ノ父ト為

シテハ。慈ニ止ル。国4人ト。交ルトキハ信ニ止ル

於一緡ノ於ハ音鳥 ○詩。文一王ノ篇ナリ。穆一穆

ハ深一遠ノ意。於ハ歎一美ノ辞5。緡6ハ繼一統。熙ハ

光一明7。止マルコトヲ敬ムトハ。言ハ其レ

詩ニ云。邦一畿。千一里。惟民ノ止マル所ナリ

敬セ（サル）コト無シ 止ル所ヲ安ナリ。此ヲ引  
〔キ〕テ聖一人ノ止<sup>9</sup> 至一善ニ非（ス）ト云コト無  
〔キ〕コトヲ言 五<sup>ツ</sup>者ハ乃〔チ〕其ノ目ノ大<sup>ナル</sup>者  
ノナリ 学一者 此ニ於テ其ノ精一微ノ蘊ヲ究メテ  
又類ヲ推シ以〔テ〕其ノ余ヲ尽〔ク〕サハ天一下ノ  
事ニ於テ皆 以テ其〔ノ〕止〔ル〕所ヲ知〔リ〕テ  
疑無コト有〔リ〕

詩ニ云。彼ノ淇一澳<sup>11</sup>ヲ瞻ハ菘一竹 猗一猗タリ。斐タル  
君一子 有〔リ〕。切スルカ如ク。磋スルカ如〔ク〕。琢  
スルカ如〔ク〕。磨スルカ如シ。瑟タリ。憊タリ。赫タ  
リ。喧<sup>12</sup>タリ。斐タル君一子 有〔リ〕。終ニ誼<sup>ツイ</sup>可〔ラ〕  
（ス）。切スルカ如ク。磋スル〔カ〕如シト者。学ヲ道<sup>イフソ</sup>。  
琢スル如ク。磨スル如シト者。自〔ラ〕脩<sup>オサムルソ</sup>。瑟タリ  
。憊タリト者恟一慄ナルソ。赫タリ。喧タリト者威一儀  
アルソ。斐タル君一子 有〔リ〕。終ニ誼<sup>フスル</sup>可〔ラ〕（ス）  
〔ト〕者。盛一徳 至一善ニシテ民ノ忘<sup>フスル、コト</sup> 能〔ハ〕（サ  
ル）コトヲ道<sup>イフソ</sup>

伝三章

澳ハ於一六ノ反。菘ハ詩ニハ緑ニ作ル。猗ハ叶一韻  
音阿。憊ハ下一版ノ反。喧ハ詩ニハ咍ニ作ル。誼  
ヲハ詩ニハ諼ニ作〔ル〕。並ニ況一晩ノ反。恟ヲハ  
鄭一氏ハ読テ峻ト作〔ス〕 ○詩。衛一風。淇一澳  
ノ篇ナリ。淇ハ水ノ名。澳ハ隈<sup>アイ</sup>。猗一猗ハ美一盛ノ  
貌。興ナリ。斐ハ文〔ノ〕貌。切ハ刀一鋸ヲ以〔テ〕  
ス。琢ハ椎一鑿ヲ以〔テ〕ス。皆 物ヲ裁シテ形一  
質ヲ成サ使ム。磋ハ鑪<sup>ロ</sup>一錫ヲ以〔テ〕ス。磨ハ沙一  
石ヲ以〔テ〕ス 皆。物ヲ治メテ其ヲ（シテ）滑一  
沢ナラ（シム）。骨一角ヲ治（ムル）者ノハ既〔ニ〕  
切シ復〔タ〕<sup>13</sup> 磋〔ス〕。玉一石ヲ治ル者ノハ既ニ琢  
シテ復〔タ〕<sup>14</sup> 磨ス 皆 其〔ノ〕之ヲ治ルコト緒有  
〔リ〕テ益<sup>16</sup> 其ノ精ヲ致〔ス〕コトヲ言。瑟ハ嚴一  
密ノ貌。憊ハ武一毅ノ貌。赫一喧ハ宣一著 盛一大  
ノ貌。誼ハ忘。道ハ言。学ハ講一習 討一論スル事<sup>17</sup>  
ヲ謂。自一脩トハ。省察<sup>18</sup> 克一治スル功ソ。恟一慄  
ハ戰<sup>ヲノ、キ</sup>一懼ル、ソ。威アテ畏〔ル〕可〔シ〕。儀アリ



テ象トル可〔シ〕。詩ヲ引〔テ〕之ヲ釈シテ以テ明一  
徳ヲ明〔ニ〕スル者ノ至一善ニ止〔マル〕コト〔ヲ〕  
明〔ニ〕ス。道一学 自一脩ハ其ノ之ヲ得〔ル〕所一  
以ノ由ヲ言。恂一慄 威一儀ハ其ノ徳一容 表一裏  
ノ盛ナルヲ言。卒<sup>19</sup>乃其〔ノ〕<sup>ツイニ</sup>実ヲ指シテ歎一美ス  
ルソ

詩ニ云。於<sup>ア</sup>戲 前一王。忘レ〔ス〕。君一子ハ其〔ノ〕  
賢〔ヲ〕賢トシテ其〔ノ〕親ヲ親トス 小一人ハ其〔ノ〕  
樂〔ヲ〕樂<sup>21</sup>テ其ノ利ヲ利トス 此<sup>ヲ</sup>以テ世ヲ没<sup>20</sup>ニ  
忘〔レ〕〔ス〕

於一戲 音 烏一呼。樂カ音ハ洛 ○詩。周一頌。  
烈一文ノ篇ナリ。於一戲ハ歎スル辞。前一王ハ文一  
武ヲ謂。君一子ハ其〔ノ〕後一賢。後一王〔ヲ〕謂。  
小一人トハ後一民ヲ謂。此ハ言ハ前一王 民ヲ新ニ  
スル所一以ノ者ノ至一善ニ止〔マリ〕テ能〔ク〕天一  
下ノ後一世ヲ〔シテ〕一物モ其ノ所ヲ得〔サル〕  
〔ト〕云コト無〔ラ〕使〔ム〕。所<sup>コノユヘ</sup>以〔ニ〕既ニ

世ヲ没マテニ。人之ヲ思<sup>ヒ</sup>慕フコト。愈久シテ忘レ  
〔ス〕。此ノ兩一節ハ咏一歎 淫一泆スレハ其ノ味  
深一長ナリ。當<sup>22</sup>ニ熟玩<sup>ヨクモテアツ</sup>〔ヘシ〕  
右 伝ノ三ノ章 至一善ニ止<sup>ト、マルコトヲ</sup> 釈ス  
此ノ章ノ内。淇ノ澳ノ詩ヲ引〔ク〕自〔リ〕。以一  
下。旧一本 誤テ誠一意ノ章ノ下ニ在〔リ〕

子曰。訟ヲ聽〔ク〕コト。吾猶ヲ人ノ〔コトシ〕。必  
〔ス〕。訟無ラシメンカ。情<sup>マコト</sup>無キ者ノハ其ノ辞ヲ尽コト  
ヲ得ス。大キニ民ノ志ヲ畏<sup>ヲチシム</sup>。此ヲ本ヲ知ト謂フ

猶ヲ人ノ〔コトシ〕ト云ハ。人ニ異ナラ〔サル〕ソ。  
情ハ実。夫一子ノ言ヲ引テ言ク。聖一人 能〔ク〕  
<sup>マコト</sup>実 無キ人ヲ〔シテ〕敢テ其〔ノ〕虚<sup>タシ</sup>一誕ノ辞ヲ尽  
サ〔サ〕ラ使ム。蓋〔シ〕。我カ明一徳。既ニ明ナ  
レハ自一然ニ以テ民ノ心一志ヲ畏<sup>ヲチ</sup>服セシムルコト  
有ル。故ニ訟 聽コトヲ待〔タ〕〔ス〕シテ自〔ラ〕  
無シ。此ノ言ヲ觀テ以テ本一末ノ先一後ヲ知〔ル〕

可シ

右伝ノ四ノ章 本一末ヲ釈ス

此ノ章 旧本誤〔テ〕信ニ止ト云。下ニ在〔リ〕

此ヲ本ヲ知〔ル〕ト謂フ

程一子カ曰。衍一文ナリ

此ヲ知ノ至ルト謂フ

此ノ句ノ上ニ。別ニ闕一文 有〔リ〕。此ハ特 其ノ

結一語 耳ナリ

右伝ノ五ノ章 蓋〔シ〕物ヲ格知〔ヲ〕致ス義ヲ釈

ス。而シテ今亡

此ノ章。旧一本。下ノ章ニ通シテ誤テ經ノ文ノ下ニ

在〔リ〕

間<sup>3</sup> 嘗竊<sup>3</sup> 程一子カ意ヲ取〔リ〕以テ之ヲ補〔フ〕

テ曰。所<sup>イ</sup> 謂知ヲ致〔ス〕コトハ物ヲ格<sup>イ</sup>ニ在〔ル〕

ハ言<sup>イ</sup>ハ吾カ知ヲ致サント欲セハ物ニ即<sup>ツ</sup>テ其ノ理ヲ窮

ムルニ在〔リ〕。蓋〔シ〕。人ノ心ノ靈。知〔ル〕有

伝四章 伝五章 伝六章

〔ラ〕(ス)ト云莫シ。而シテ天一<sup>モ</sup>下ノ物。理有〔ラ〕

(ス)ト云コト莫シ。惟理<sup>タ</sup>ニ於テ未<sup>キ</sup>タ窮サルコト有

〔リ〕。故ニ其ノ知<sup>サ</sup>尽サ(サ)ル有〔リ〕。是<sup>レ</sup>以テ大

学 始メノ教。必〔ス〕。学一者〔ヲ〕(シ)テ凡<sup>ヲ</sup>天

下ノ物ニ即<sup>ツ</sup>テ其〔ノ〕已<sup>ス</sup>ニ知ル理ニ因〔リ〕益<sup>マ</sup>之ヲ

窮メテ以テ其ノ極ニ至ランコトヲ求メ(シム)。カヲ

用〔イル〕コト久シ〔ウシ〕テ一<sup>旦</sup> 豁<sup>然</sup>トシテ

貫<sup>一</sup>通スルニ至テハ衆一物ノ表一裏。精一粗。到〔ラ〕

(ス)ト云コト無〔シ〕。而シテ吾カ心ノ全<sup>一</sup>体 大

用。明ナラ(ス)ト云コト無〔シ〕。此ヲ物格<sup>コトイタルト</sup> 謂フ。

此ヲ知ノ至ルト謂フ

所<sup>レ</sup> 謂 其ノ意ヲ誠〔ニスル〕トハ自〔ラ〕欺<sup>アサムク</sup> 毋シ。

悪<sup>ニクム</sup>一臭ヲ悪カ如ク。好<sup>ヨミスル</sup>一色ヲ好<sup>ニクム</sup> 如シ。此ヲ自<sup>ニケウ</sup>謙ト

謂フ。故ニ君一子ハ必ス其〔ノ〕独<sup>ヒ</sup>アルコトヲ慎〔ム〕

好<sup>ニクム</sup>一悪 上ノ字ハ皆去<sup>一</sup>声。謙カ読ヲハ謙ト為ス。

苦<sup>ク</sup>一劫ノ反 ○其ノ意ヲ誠〔ニスル〕トハ自<sup>レ</sup>脩ル

首ハシメナリ。母ハ。禁シ止ムル辞ナリ。自シ欺ト云ハ。善ヲ為以ナシテ〔テ〕悪ヲ去コトヲ知トモ心ノ発所ヲコル。未夕実ナラ（サル）コト有〔リ〕。慊ケウハ快クワイ也。足也。独トハ。人ノ知ラ（サル）所ニシテ己カ独リ知ル所ノ地ナリ。言ハ自（ラ）脩メンコトヲ欲スル者ノハ善ヲ為シテ以テ其（ノ）悪ヲ去コト（ヲ）知ラハ當ニ実ニ其ノカヲ用テ其（ノ）自（ラ）欺ヲ禁シ止ム（ベシ）其（ノ）悪ヲ惡ニクムコト。惡（ノ）臭ニクムカヲ惡（ノ）如ニシ。善ヲ好コト好（ノ）色ヲ好スルカ如ナラ使シメシ皆務メテ決（ラ）去シテ求メテ必（ス）之ヲ得テ以テ自（ラ）己（ノ）快（ラ）足シ徒イタツラニ苟（ス）且ニシテ以（テ）外ニ徇シタカテ人ノ為ニス可（ラ）（ス）。然トモ其（ノ）実ト不（ラ）実トハ。蓋シ他（ノ）人ハ知（ル）及（ハ）（サル）所ニシテ己（ノ）独（リ）之ヲ知レル者ノ有（リ）故ニ必（ス）之ヲ此ニ謹テ以テ其ノ幾ヲ審ニス

小一人。間一居シテ不（ラ）善ヲ為（ル）コト至ラ（ス）ト云所無（シ）。君一子ヲ見。而（シ）后ニ厭（ス）然トシテ其ノ不（ラ）善ヲ

拵オホウ其（ノ）善（ヲ）著アラハス。人ノ己ヲ視ミルコト。其ノ肺一肝ヲ見ルカ如ク然カリ。何ノ益カアラン。此ヲ中ニ誠アテ外ニ形アラハルト謂。故ニ君一子ハ必（ス）其（ノ）独アルコトヲ慎ム

間（ノ）力音ハ閑。厭ハ鄭一氏ハ誦テ厭（ス）ト為ス。○間一居トハ独（リ）処（ル）。厭（ス）然ハ銷一沮。閉一藏ノ貌。此ハ言ハ小一人陰ヒツカニ不（ラ）善ヲ為テ陽アラハニ之ヲ拵ハント欲ス。是。善ノ當ニ為スヘキト惡ノ當ニ去ベキトヲ知（ラ）（サル）ニハ非ス。但 実ニ其ノカヲ用コト能（ハ）（ス）以テ此ニ至ルラク耳。然ルニ其ノ惡ヲ拵ハント欲（シ）テ。卒ニ拵フ可（ラ）（ス）。詐テ善ヲ為ト欲トモ卒ニ詐ル可（ラ）（ス）。亦何ノ益カ有ラン哉。此 君一子ノ重（ク）以テ戒ト為（シ）必（ス）其（ノ）独アルコトヲ謹ム所（ニ）以ナリ

曾一子 曰。十目ノ視所。十手ノ指所。其レ嚴イツクシイ乎カナ

此ヲ引〔キ〕以〔テ〕上ノ文ノ意ヲ明〔ニス〕。言

ハ幽一独ノ中ト雖〔モ〕。而モ其〔ノ〕善一悪ノ拵  
〔フ〕可〔ラ〕〔サル〕コト此ノ如シ 畏ル可コト甚  
シ

富 屋ヲ潤<sup>ウルホシ</sup>。徳 身ヲ潤ス。心 広ク。体 胖<sup>13オホイナリ</sup>。

故ニ君一子ハ必〔ス〕其ノ意ヲ誠ニス

胖ハ歩一丹〔ノ〕反 ○胖ハ安一舒。言ハ富<sup>トメルトキハ</sup> 能

〔ク〕屋ヲ潤ス。徳アルトキハ能〔ク〕身ヲ潤ス。

故ニ心 愧 怍ルコト無トキハ広一大 寛一平ニシ

テ体ハ常ニ舒一泰ナリ。徳ノ身ヲ潤コト然<sup>シカナリ</sup>。蓋シ

善ノ中ニ実<sup>ミチ</sup> 外ニ形ハルルコト此ノ如シ 故ニ又此

ヲ言テ以〔テ〕結ス<sup>14</sup>

右伝ノ六ノ章 意ヲ誠〔ニスル〕ヲ釈ス。

經ニ曰。其ノ意ヲ誠セント欲〔スル〕トキハ。先

〔ツ〕。其ノ知ヲ致ス。又曰。知 至〔リ〕而<sup>テ</sup>后ニ

意 誠。蓋〔シ〕。心一体ノ明。未タ尽サ〔サ〕ル

所有〔リ〕。其ノ発スル所。必〔ス〕実ニ其〔ノ〕

カヲ用ルコト能〔ハ〕〔ス〕シテ苟<sup>15</sup>一焉<sup>エントシ</sup> テ以テ自

伝六章 伝七章

欺コト有〔リ〕 然ハ或ハ已<sup>ス</sup>ニ明〔ニ〕スレトモ

此ヲ謹〔マ〕〔サ〕ルハ。其〔ノ〕明ニスル所。又

己カ有<sup>1</sup>ニ非〔ス〕シ〔テ〕以テ徳ニ進〔ム〕基ト為<sup>ナル</sup>

コト無シ。故ニ此ノ章ノ指<sup>ムネ</sup>。必ス上ノ章ニ承〔ケ〕

通〔シ〕テ之ヲ考テ然<sup>テ</sup> 後ニ以テ其カカヲ用〔イル〕

ニ始一終〔スル〕ヲ見コト有〔リ〕。其〔ノ〕序<sup>ツイテ</sup>。

乱ル可〔ラ〕〔ス〕<sup>17</sup> 功。闕〔ク〕可〔ラ〕〔ス〕。

此ノ如〔シ〕ト云フ

所謂 身ヲ脩〔ムル〕コトハ其ノ心ヲ正<sup>ク、シウスル</sup> 二在〔リ〕

ト者 身 忿<sup>フシ</sup>一憶<sup>チ</sup>〔スル〕所有トキハ。其ノ正ヲ得〔ス〕。

恐一懼スル所有トキハ。其ノ正ヲ得〔ス〕。好一樂スル

所有トキハ。其ノ正ヲ得〔ス〕。憂<sup>クワンスル</sup>一患 所有トキハ。

其ノ正ヲ得〔ス〕

程一子カ曰。身一有ノ身ハ當ニ心ニ作〔ル〕〔ヘシ〕。

忿ハ弗一粉ノ反。憶ハ敕一値ノ反。好一樂ハ並ニ去一

声 ○忿一憶ハ怒。蓋〔シ〕。是カ四<sup>1</sup>者ハ皆 心

ノ用ニシテ人無〔キ〕コト能〔ハ〕〔サル〕所ノ者。  
然ニ一モ之有テ察スル能〔ハ〕〔サル〕トキハ欲一  
動キ。情一勝テ其ノ用ノ行フ所。或ハ其ノ正ヲ失  
セ〔サ〕ルコト能〔ハ〕〔ス〕

心。焉ニ在〔ラ〕〔サル〕トキハ視見ス。聴トモ聞ヘ  
〔ス〕。食スレトモ。其ノ味ヲ知〔ラ〕〔ス〕

心存〔セ〕〔サル〕コト有トキハ以テ其ノ身ヲ檢  
スルコト無シ。是以テ君子必〔ス〕此ヲ察シ  
テ敬以ヲモテ之ヲ直ク〔シ〕テ然後ニ此ノ心常  
ニ存〔シ〕テ身脩〔ラ〕〔スト〕云コト無シ

此ヲ身ヲ脩〔ムル〕コトハ其ノ心ヲ正〔ス〕ニ在リト謂  
右伝ノ七〔ノ〕章 心ヲ正〔シ〕身〔ヲ〕脩〔ムル〕  
コトヲ釈ス

此亦上ノ章ニ承〔ケ〕以テ下ノ章ヲ起ス。蓋  
〔シ〕。意誠アルトキハ真ニ惡無〔ク〕シテ実ニ善  
有〔リ〕。能〔ク〕是ノ心ヲ存シテ以テ其ノ身ヲ檢  
スル所以然ナリ。或ハ但意ヲ誠〔ニ〕スルコ

トヲ知レトモ密ニ此ノ心ノ存一否ヲ察スル能〔ハ〕  
〔サル〕トキハ又以テ内ヲ直〔ク〕シテ身ヲ脩コト  
無シ 此自〔リ〕以一下ハ並ニ旧一文ヲ以テ正ト  
為ス

所謂其〔ノ〕家ヲ齊スルコトハ其ノ身ヲ脩ルニ在  
〔リ〕ト者。人其ノ親一愛スル所ニ之テ辟ス。其ノ賤一  
惡スル所ニ之テ辟ス。其ノ畏一敬スル所ニ之テ辟ス。其  
ノ哀一矜スル所ニ之テ辟ス。其ノ敖一惰スル所ニ之テ辟  
ス。故ニ好其ノ惡ヲ知り惡其ノ美ヲ知ル者ノ  
ハ天一下鮮シ

辟 讀ハ僻ト為〔ス〕 惡一而ノ惡ト敖一好トハ並  
ニ去一声。鮮ハ上一声 ○人トハ衆一人ヲ謂。之ハ  
猶ヲ於ノ〔コト〕シ。辟ハ猶ヲ偏〔ノ〕〔コト〕シ。  
五者ノ人ニ在コト。本一有當一然ノ則ナリ。然  
トモ常一人ノ情。惟其ノ向〔フ〕所ノミニシテ審  
コトヲ加〔ヘ〕〔サ〕レハ必〔ス〕一偏ニ陷テ身

。脩マラ（ス）

故ニ諺コトワサニ之有リ。曰。人其ノ子ノ惡アシキコトヲ知ルコト莫シ〔シ〕。其ノ苗ヲホイナルノ碩コトヲ知〔ル〕コト莫シ〔シ〕

諺カ音ハ彦。碩セキハ叶韻時一若ノ反。○諺ハ俗ノ語。愛ニ溺ル、者ノハ明ナラ（ス）。得チコトヲ貪ル者ノハ厭アウコト無シ〔シ〕。是偏ノ害ヲ為ナシテ家ノ齊ラ

（サル）所一以ナリ

右 伝ノ八ノ章 身ヲ脩〔メ〕家ヲ齊〔フル〕コトヲ積ス

所謂。国ヲ治コトハ必ス先ス其ノ家ヲ齊トノフトハ。其〔ノ〕家 教フ可〔ラ〕（ス）シテ能〔ク〕人ニ教フル者ノハ 無ナシ。故ニ君一子ハ家ヲ出（ス）シテ教ヲ国ニ成ス。孝ハ君ニ事マツル所一以ナリ 弟ハ。長ニ事ル所一以ナリ 慈ハ。衆ヲ使ツカフ所一以ナリ

弟ハ去一声。長ハ上一声 ○身一脩トキハ家 教フ可〔シ〕 孝 弟 慈ハ身ヲ脩メテ家ヲ教フル所一

伝八章 伝九章

以ノ者ナリ 然トモ国ニ君ニ事リ。長ニ事リ衆ヲ使

フ所一以ノ道。此ヨリ外ニアラ（ス）。此 家 上ニ齊テ教 下ニ成〔ル〕所一以ナリ

康一誥ニ曰。赤一子ヲ保ヤスンスルカ如〔シ〕ト云リ。心 誠ニ之ヲ求〔ムル〕トキハ。中アタラ（ス）ト雖ヘトモ遠カラ（ス）。未一夕有〔ラ〕シ。子ヲ養フコトヲ学テ后ニ嫁スル者ノハ

中ハ去一声 ○此ハ書ヲ引テ之ヲ積ス。又。教ヲ立〔ツル〕本。強カテ為スルコトヲ假カラ（ス）其ノ端ヲ識〔リ〕テ推テ之ヲ広ルニ在コトヲ明〔ラカニ〕ス〔ル〕耳ノミ

一一家 仁アルトキハ。一一国 仁ヲ興ス。一一家 讓アルトキハ 一一国 讓ヲ興ス 一一人。貪クシ一一戾ナルトキハ 一一国 乱ヲ作ス。其ノ機 此ノ如シ。此 一一言。事ヲ償ヤラリ。一一人 国ヲ定ムト謂フ

債カ音ハ奮 ○一一人トハ君ヲ謂 機ハ発一動 由ヨル所ナリ。債ハ覆一敗。此ハ教ノ国ニ成〔ル〕效ヲ言 堯 舜 天一下ヲ帥ヒキ井ルニ。仁ヲ以シテ民従フ。桀 紂

天一<sup>下</sup>ヲ帥井ルニ。暴<sup>ヲ</sup>以シテ民從フ。其ノ令スル所。其ノ好ム所ニ反スルトキハ。民。從ハ（ス）。是<sup>レ</sup>故ニ君一<sup>子</sup>ハ己ニ有（リ）テ而<sup>テ</sup>后<sup>ニ</sup>人ヲ求<sup>ム</sup>己ニ無（ク）シテ而<sup>テ</sup>后<sup>ニ</sup>人ヲ非<sup>ル</sup>身<sup>ニ</sup>藏<sup>ル</sup>所。恕<sup>（ス）</sup>シテ能<sup>ク</sup>〔ク〕人ヲ諭<sup>ス</sup>者ハ未<sup>タ</sup>有〔ラ〕シ

好ハ去<sup>一</sup>声 ○此<sup>レ</sup>又。上ノ文 一<sup>一</sup>人国ヲ定ト云

ニ承テ言フ。己ニ善有（リ）テ然<sup>レ</sup>後<sup>ニ</sup>以テ人ノ善ヲ責<sup>ム</sup>可（シ）。己ニ惡無（ク）シテ然<sup>レ</sup>後<sup>ニ</sup>以テ人ノ惡ヲ正ス可（シ）。皆。己ヲ推シ以（テ）人ニ及〔ボ〕ス。所謂<sup>レ</sup>恕ナリ。是ノ如（ク）ナラ（ス）シテ令スル所。其ノ好（ム）所ニ反（スル）トキハ民。從ハ（ス） 諭ハ曉

故ニ国ヲ治コトハ。其ノ家ヲ死フルニ在（リ）

通（シ）テ上ノ文ヲ結ス

詩ニ云 桃<sup>ノ</sup>夭<sup>（ク）</sup>夭<sup>（ク）</sup>タル。其ノ葉 蓼<sup>（シ）</sup>蓼<sup>（タ）</sup>リ。之ノ子<sup>（ト）</sup>于<sup>（キ）</sup>婦<sup>（ト）</sup>。其ノ家<sup>（一）</sup>人ニ宜<sup>（シ）</sup>。其ノ家<sup>（一）</sup>人ニ宜<sup>（シ）</sup>フ<sup>（シ）</sup>テ而<sup>（テ）</sup>后<sup>（ニ）</sup>以テ国<sup>（一）</sup>人ヲ教フ可シ

夭ハ平<sup>一</sup>声。蓼カ音ハ臻 ○詩。周<sup>一</sup>南。桃<sup>一</sup>夭ノ篇ナリ 夭<sup>一</sup>夭ハ少<sup>（ク）</sup>好<sup>（ク）</sup>貌。蓼<sup>一</sup>蓼ハ美<sup>（シ）</sup>盛ナル貌。興。之<sup>一</sup>子ハ猶<sup>（ク）</sup>是<sup>（ク）</sup>子<sup>一</sup>言<sup>（ハ）</sup>カ（コトシ）此ハ女<sup>一</sup>子ノ嫁スル者ノヲ指シテ言フ。婦<sup>一</sup>人嫁ヲ謂テ婦ト曰（フ） 宜ハ猶<sup>（ク）</sup>善ノ（コトシ）

詩ニ云。兄<sup>（ニ）</sup>宜シク。弟<sup>（ニ）</sup>宜シ。兄<sup>（ニ）</sup>宜ク。弟<sup>（ニ）</sup>宜シウシテ而<sup>（テ）</sup>后<sup>（ニ）</sup>以テ国<sup>（一）</sup>人ヲ教フ可シ

詩。小<sup>一</sup>雅 蓼<sup>（リ）</sup>蕭<sup>（篇）</sup>

詩ニ云。其ノ儀<sup>（ト）</sup>忒<sup>（ス）</sup>。是ノ四<sup>一</sup>国ニ正<sup>（ス）</sup>。其ノ父<sup>一</sup>子 兄<sup>一</sup>弟<sup>一</sup>為<sup>（ル）</sup>法<sup>（ニ）</sup>足<sup>（ク）</sup>テ而<sup>（テ）</sup>后<sup>（ニ）</sup>二民<sup>（ト）</sup>法<sup>（ト）</sup>

詩。曹<sup>一</sup>風。鴈<sup>一</sup>鳩<sup>一</sup>篇。忒<sup>（ハ）</sup>差<sup>（サ）</sup>

此ヲ国ヲ治コトハ。其ノ家ヲ齊フルニ在リト謂（フ）

此ニ三<sup>一</sup>タヒ詩ヲ引（ク）コトハ。皆<sup>（レ）</sup>以テ上ノ文ノ事ヲ詠<sup>（シ）</sup>歎シテ又之ヲ結ス 此ノ如（ク）シテ其ノ

味。深<sup>（ク）</sup>長ナリ。最<sup>（モ）</sup>宜ク潜<sup>（シ）</sup>玩ス（ヘ）シ

右 伝ノ九ノ章 家ヲ齊（ヘ）国（ヲ）治（ムル）コトヲ釈ス。

所謂 天<sup>一</sup>下ヲ平ニスルコトハ其ノ国ヲ治〔ル〕ニ在〔リ〕トハ上<sup>カミ</sup> 老ヲ老トシテ民 孝ヲ興ス<sup>オコ</sup> 上 長ヲ長トシテ民 弟ヲ興ス。上 孤ヲ恤<sup>メクシテ</sup> 民 倍〔ス〕。是<sup>ヲ</sup>以〔テ〕君<sup>一</sup>子ハ契<sup>ケツ</sup>一矩<sup>ク</sup>ノ道有〔リ〕

長ハ上<sup>一</sup>声。弟ハ去<sup>一</sup>声。倍ハ背ト同シ。契ハ胡<sup>一</sup>

結ノ反 ○老ヲ老トハ。所<sup>一</sup>謂吾カ老ヲ老スルナリ。

興トハ感<sup>一</sup>發スル所有〔リ〕テ興<sup>一</sup>起〔スル〕ヲ謂。

孤ハ幼<sup>イ</sup>シテ父無〔キ〕ノ称。契ハ度。矩ハ方ヲ為<sup>ナス</sup>所

以ナリ。言ハ小ノ三ツノ者ハ上<sup>一</sup>行テ下<sup>一</sup>效<sup>ナラフ</sup>コ

ト影<sup>一</sup>響ヨリモ捷トシ。所<sup>一</sup>謂 家<sup>一</sup>齊テ国<sup>一</sup>治ル。

亦以テ人ノ心ノ同〔シ〕所ニシテ<sup>一</sup>夫モ獲〔サル〕

有〔ラ〕〔シム〕〔ヘカラ〕〔サル〕ヲ見〔ル〕〔ヘシ〕

是<sup>ヲ</sup>以テ君<sup>一</sup>子ハ必ス當ニ其ノ同キ所ニ因テ推シ

テ以テ物ヲ度<sup>ハカリ</sup> 彼<sup>一</sup>我ノ間ヲシテ各。分<sup>一</sup>願ヲ得

〔シム〕〔ヘシ〕。上<sup>一</sup>下 四<sup>一</sup>旁。均<sup>一</sup>齊。方<sup>一</sup>正

ニシテ天<sup>一</sup>下 平ナリ

伝十章

上ニ惡<sup>ニクム</sup>所ヲハ。以テ下ニ使<sup>ツカフ</sup>母<sup>2</sup>シ。下ニ惡〔ム〕所ヲハ以テ上ニ事マツルコト母<sup>ス</sup>シ。前ニ惡〔ム〕所ヲハ。以テ後<sup>サキンスル</sup>ニ先<sup>コト</sup>母<sup>ス</sup>シ。後<sup>ニ</sup>惡〔ム〕所ヲハ。以テ前ニ從カフ母<sup>ス</sup>シ。右ニ惡〔ム〕所ヲハ。以テ左ニ交フルコト母<sup>ス</sup>シ。左ニ惡〔ム〕所ヲハ。以テ右ニ交ル母<sup>ス</sup>シ。此ヲ契<sup>一</sup>矩ノ道ト謂フ

惡<sup>ヲ</sup>一先ハ並ニ去<sup>一</sup>声 ○此 覆<sup>カサネ</sup> テ上ノ文ノ契<sup>一</sup>矩

ノ二<sup>一</sup>字ノ義ヲ解ク。如上<sup>モシ</sup>ノ我ニ礼無ランコトヲ欲

セ〔スン〕ハ。必〔ス〕此ヲ以テ下ノ心ヲ度<sup>ハカリ</sup>テ亦

敢テ此ノ無<sup>3</sup>一礼ヲ以テ之ヲ使<sup>ツカハ</sup>〔サ〕レ。下ノ我ニ

忠<sup>4</sup>アラ〔サル〕コトヲ欲〔セ〕〔スン〕ハ。必〔ス〕

此ヲ以テ上ノ心ヲ度〔リ〕テ亦敢テ此ノ不<sup>一</sup>忠ヲ以

〔テ〕之ニ事ツラ〔サ〕レ。前<sup>一</sup>後 左<sup>一</sup>右ニ至

〔ルマ〕テニ。皆然ラ〔ス〕ト云コト無<sup>5</sup>レ。身ノ処

〔ス〕所。上<sup>一</sup>下。四<sup>一</sup>旁。長<sup>一</sup>短。広狭<sup>ケウ</sup>。彼<sup>一</sup>此

。一ノ如ニシテ方ナラ〔ス〕ト云コト無シ。彼。同

ク是ノ心有〔リ〕テ興<sup>一</sup>起セハ。又豈<sup>一</sup>夫ノ獲



〔サル〕コト有〔ラ〕ムヤ。操所ノ者ハ約ニシテ及  
フ所ノ者ノ広シ。此 天一下ヲ平〔ニ〕スル 要一  
道ナリ。故ニ章一内ノ意。皆此自〔リ〕シテ推スヘ  
シ

詩ニ云 只ノ君一子ヲ樂ス。民ノ父一母ナリ。民ノ好  
所ヲハ。好シ。民ノ惡 所ヲハ惡ミス。此ヲ民ノ父一  
母ト謂フ

樂カ音ハ洛 只カ音ハ紙。好一惡ハ並ニ去一声。下  
並ニ同シ ○詩。小一雅。南一山 有一台ノ篇ナ  
リ 只ハ語ノ助ケノ辞。言ハ契一矩ヲ能〔ク〕シテ  
民一心ヲ以〔テ〕己カ心ト為トキハ。是 民ヲ愛ス  
ルコト。子ノ如シテ民 之ヲ愛スルコト父一母ノ如  
シ

詩ニ云。節タル彼〔ノ〕南一山。維〔レ〕。石。巖一巖  
タリ。赫赫 師一尹。民 具ニ爾チヲ瞻。国ヲ有  
者ハ以テ慎シマ〔ス〕ハアル可〔ラ〕〔ス〕。辟ナルトキ  
ハ天一下ノ僂ト為

節カ読ヲハ截ト為 辟カ読ヲハ僻ト為。僂 戮ト同

○詩。小一雅。節一南一山ノ篇ナリ。節ハ截一然  
トシテ高一一大ナル貌。師一尹ハ周ノ大一師 尹一氏。  
具ハ俱。辟ハ偏。言ハ上ニ在〔ル〕者ハ人ノ瞻一仰  
ク所ナリ。謹〔マ〕〔ス〕ハアル可〔ラ〕〔ス〕。若  
契一矩スルコト能〔ハ〕〔ス〕シテ好一惡 一己  
ノ偏ニ徇トキハ。身一弑。国亡一テ天一下ノ大戮  
ト為

詩ニ云。殷ノ未夕師 一喪 一サシトキニ。克一上―帝ニ  
配ス 儀 一シク殷ニ監 一ヘシ。峻一命。易カラ〔ス〕ト  
イヘリ。道。衆ヲ得トキハ国ヲ得。衆ヲ失フトキハ国  
ヲ失フ

喪ハ去一声。儀ヲ詩ニハ宜ニ作〔ル〕。峻ヲ 詩ニ  
ハ駿ニ作〔ル〕。易ハ去一声 ○詩。文一王ノ篇。  
師ハ衆。配ハ对。上―帝ニ配〔ス〕トハ。言ハ天一  
下ノ君ト為〔リ〕テ上―帝ニ対スルソ。監ハ視。峻  
ハ大。易カラ〔ス〕トハ。言ハ保 一難〔イ〕ソ。道

ハ言 詩ヲ引〔キ〕テ此ヲ言テ以テ上ノ文ノ兩一節

施ス

ノ言ヲ結ス。天一ト下有〔ツ〕者ノ能〔ク〕。此ノ

人一君。徳ヲ以テ外ト為シ。財ヲ以テ内ト為<sup>スルトキハ</sup>。

心ヲ存シテ失ハ〔サ〕ルトキハ契一矩アリテ民ト欲

則。是。其ノ民ヲ争<sup>ヒ</sup>鬪ハシメテ之ニ施〔ス〕ニ劫一

ヲ同スル所一以ノ者ノ自〔ラ〕。已<sup>ヤム</sup>コト能〔ハ〕〔ス〕

奪ノ教ヲ以〔テ〕ス。蓋〔シ〕。財ハ人ノ同ク欲ス

是<sup>レ</sup>故ニ君一子ハ先ツ徳ヲ慎ム。徳有〔ル〕トキハ。此<sup>レ</sup>

ル所ナリ。契一矩スルコト能〔ハ〕〔ス〕シテ之ヲ

。人有〔リ〕。人有〔ル〕トキハ此。土有〔リ〕。土有

專ニセント欲スルトキハ。民。亦。起テ争<sup>ヒ</sup>奪フ

〔ル〕トキハ。此。財有〔リ〕。財有〔ル〕トキハ。此。

是<sup>レ</sup>故ニ財<sup>アツマルトキハ</sup>。聚。則。民散<sup>ス</sup>。財散スルトキハ。

用有〔リ〕

則 民。聚マル

先〔ツ〕徳ヲ謹〔ム〕トハ。上ノ文ノ謹〔マ〕〔ス〕

本ヲ外〔ニ〕シ。末ヲ内〔ニ〕ス。故ニ財一聚ル。

〔シハ〕アル可〔ラ〕〔ス〕ト云ニ承〔ケ〕テ言フ。

民ヲ争シメテ奪フコトヲ施ス。故ニ民 散ス 是ニ

徳ハ即〔チ〕所<sup>レ</sup>謂 明<sup>レ</sup>徳ナリ。人有〔ル〕トハ

反スルトキハ。則 徳有〔リ〕テ人有リ

。衆ヲ得〔ル〕ヲ謂。土有〔ル〕トハ。国ヲ得〔ル〕

是<sup>レ</sup>故ニ言<sup>コトサカヘ</sup>悖<sup>テ</sup>出ルルトキハ亦。悖<sup>ヘテ</sup>入ル。貨<sup>サカヘ</sup>悖<sup>テ</sup>入

ヲ謂。国有〔ル〕トキハ。財一用無〔キ〕コトヲ患

トキハ亦悖テ出ツ

〔ハ〕〔ス〕

悖ハ布内ノ反 ○悖ハ逆。此ハ言ノ出<sup>レ</sup>入ヲ以テ貨

徳ハ。本<sup>モトナリ</sup>。財ハ末<sup>スエナリ</sup>

ノ出<sup>レ</sup>入ヲ明〔ラカニ〕ス。先ツ。徳ヲ謹〔ム〕ト

上ノ文ニ本ツイテ言

云。以<sup>シモツカテ</sup>下。此ニ至ルマテハ又。財一貨ニ因〔リ〕

本ヲ外<sup>12</sup>ニシ。末ヲ内ニスルトキハ民ヲ争<sup>アラソハシメウハウ</sup> 奪<sup>コトヲ</sup>

テ以テ契一矩ヲ能<sup>ヨクスルトヨクセ</sup> 能〔サ〕ル者ノトノ得<sup>レ</sup>失ヲ

伝十章

明〔ラカニ〕ス

康詰二曰。惟レ命。常ニ于<sup>ワイテセ</sup>（ス）〔ト〕イヘリ。道<sup>イハク</sup>

善ナルトキハ得<sup>14</sup>。不<sup>レ</sup>善ナルトキハ失フ<sup>14</sup>

道ハ言。上<sup>ノ</sup>文ノ文<sup>ノ</sup>王ノ詩ヲ引〔ク〕意ニ因〔リ〕

〔テ〕申<sup>カサネ</sup>テ言フ。其ノ丁<sup>ノ</sup>寧<sup>ノ</sup>反<sup>レ</sup>覆ノ意。益<sup>マス</sup>

深<sup>レ</sup>切ナリ

楚<sup>ノ</sup>書ニ曰。楚<sup>ノ</sup>国ニハ以テ宝<sup>タカラ</sup>ト為<sup>スル</sup>コト無シ。惟善以<sup>タ</sup>

〔ヲモ〕テ宝ト為ス

楚<sup>ノ</sup>書ハ楚<sup>ノ</sup>語。言ハ金<sup>ノ</sup>玉ヲ宝〔ト〕セ（ス）シ

テ善<sup>ノ</sup>人ヲ宝トス

舅<sup>キウ</sup>犯<sup>ハ</sup>カ曰。亡<sup>ハウ</sup>人ハ以テ宝<sup>タカラ</sup>ト為<sup>スル</sup>コト無シ。仁<sup>ノ</sup>親

以〔ヲモ〕テ宝ト為ス

舅<sup>ノ</sup>犯ハ晋ノ文<sup>ノ</sup>公<sup>ノ</sup>舅<sup>キウ</sup>。狐<sup>ノ</sup>偃<sup>ノ</sup>。字ハ子<sup>ノ</sup>犯<sup>ノ</sup>。亡<sup>レ</sup>

人トハ文<sup>ノ</sup>公<sup>ノ</sup>時ニ公<sup>ノ</sup>子ト為シテ出<sup>レ</sup>亡シテ外ニ

在リ。仁ハ愛。事。檀弓ニ見タリ。此ノ両<sup>ノ</sup>節ハ又

。本ヲ外ニシ〔テ〕末ヲ内ニセ（サ）ル意ヲ明〔ラ

カニ〕ス

秦<sup>シン</sup>誓<sup>セイ</sup>二曰。若<sup>16</sup>一<sup>カ</sup>ノ臣有ラン 断<sup>タン</sup>断トシテ他ノ

技無ラン。其ノ心 休<sup>レ</sup>休タラン。其<sup>17</sup>如<sup>18</sup>容<sup>コト</sup>有

ラン。人ノ技有ルヲ。己カ有ルカ若クシ。人ノ彦<sup>ノ</sup>聖ナ

ルニ其ノ心ニ好<sup>ヨミ</sup>セン。啻<sup>タ</sup>。其〔ノ〕口自〔リ〕。出カ<sup>19</sup>

若<sup>コトクセ</sup>〔サ〕ラン。寔<sup>20</sup>能〔ク〕容ム<sup>21</sup>。以テ能〔ク〕我カ

子<sup>ノ</sup>孫 黎<sup>ノ</sup>民ヲ保<sup>ヤス</sup>。尚<sup>コヒ</sup>〔ヒ〕テ亦利有〔ラ〕ムカ。

人ノ技有〔ル〕ヲ。媚<sup>ノ</sup>疾シテ以〔テ〕惡<sup>ニクム</sup>。人ノ彦<sup>ノ</sup>聖

ナルヲ而モ違<sup>22</sup>〔ヒ〕テ通セ（サ）〔ラ〕俾ム<sup>シメ</sup>。寔<sup>コト</sup>容<sup>イル</sup>コ

ト能〔ハ〕（ス）。以テ我カ子<sup>ノ</sup>孫 黎<sup>ノ</sup>民ヲ保スルコト

能〔ハ〕シ。亦曰。殆<sup>アヤウイカナ</sup>哉

今ハ古<sup>ノ</sup>賀ノ反。書ニハ介ト作〔ス〕 断ハ丁<sup>ノ</sup>乱

ノ反。媚カ音ハ冒 ○秦<sup>ノ</sup>誓ハ周<sup>ノ</sup>書。断<sup>ノ</sup>断ハ誠<sup>ノ</sup>

一ノ貌。彦ハ美<sup>ノ</sup>士。聖ハ通<sup>ノ</sup>明。尚ハ庶<sup>ノ</sup>幾。媚

ハ忌。違ハ扞<sup>フツ</sup>戻<sup>レイ</sup>。殆ハ危

唯<sup>タ</sup>。仁<sup>ノ</sup>人ノミ。放<sup>ノ</sup>流シテ四<sup>ノ</sup>夷ニ进<sup>23</sup> 與<sup>ニ</sup>中<sup>ノ</sup>国ヲ

同セ（サ）ラン。此ヲ唯。仁<sup>ノ</sup>人。能〔ク〕人ヲ愛シ。

能〔ク〕人ヲ惡<sup>24</sup> コトヲ為スト謂フ

進<sup>ヒヤウ</sup>カ読ヲハ屏ト為 古二字 通<sup>シ</sup>用フ ○進ハ猶

性<sup>30</sup>ニ<sup>モトル</sup>私ト謂〔ヒ〕 蓄<sup>ワサハイ</sup>。必。夫<sup>カ</sup>ノ身<sup>オヨフ</sup>ニ逮

ヲ逐〔ノコトシ〕。言ハ此ノ媚<sup>シ</sup>疾ノ人有〔リ〕テ

蓄<sup>サイ</sup>ハ古ノ灾ノ字。夫カ音ハ扶 ○私<sup>フツ</sup>ハ逆<sup>ケキ</sup>。善ヲ好

賢ヲ妨ケテ国ヲ病シムルトキハ。仁<sup>一</sup>人。必〔ス〕

〔シ〕テ悪ヲ悪スルハ。人ノ性ナリ。人ノ性ニ私<sup>モトレル</sup>

。深<sup>ク</sup>悪〔ミ〕テ痛<sup>25</sup>之ヲ絶<sup>タクツ</sup>。其ノ至<sup>一</sup>公ニシテ私

ニ至〔リ〕テハ不<sup>一</sup>仁ノ甚<sup>シキ</sup>者ノナリ。秦<sup>一</sup>誓 自

無〔ヲ〕以〔テ〕ノ。故ニ。能〔ク〕好<sup>一</sup>悪ノ正ヲ

〔リ〕。此ニ至〔ル〕マテハ。又 皆。以〔テ〕申<sup>カ</sup>

得〔ル〕コト此ノ如〔シ〕

〔ネ〕テ好<sup>一</sup>悪 公<sup>一</sup>私ノ極ヲ言〔ヒ〕テ以テ上ノ

賢ヲ見テ拳スルコト能〔ハ〕ス。拳<sup>一</sup>スレトモ先<sup>サキンスルコト</sup> 能

文〔ノ〕引〔ク〕所ノ南<sup>一</sup>山<sup>一</sup>有<sup>一</sup>台。節<sup>一</sup>南<sup>一</sup>山

〔ハ〕〔サ〕ルハ。命<sup>27</sup>ナリ。不<sup>一</sup>善ヲ見テ退クルコト能

ノ意ヲ明〔ニ〕ス

〔ハ〕〔ス〕。退クレトモ遠<sup>サケル</sup>コト能〔ハ〕〔サル〕ハ。過

是<sup>ノ</sup>故ニ君<sup>一</sup>子ニハ大<sup>一</sup>道 有〔リ〕。必。忠<sup>一</sup>信。以<sup>コ</sup>

ナリ

ヲ〔モ〕テ得 驕<sup>一</sup>秦 以<sup>コ</sup>ヲ〔モ〕テ失フ

命ヲ鄭<sup>一</sup>氏カ云。當ニ慢<sup>マシ</sup>ニ作〔ル〕〔ヘシ〕。程<sup>一</sup>子

君<sup>一</sup>子トハ位ヲ以テ之ヲ言フ。道トハ其ノ位ニ居テ

カ云。當〔ニ〕怠<sup>一</sup>ニ作〔ル〕〔ヘシ〕。未<sup>一</sup>タ孰〔レ〕

己ヲ脩メテ人ヲ治ル術ヲ謂〔フ〕。己ニ発<sup>シ</sup>自〔ラ〕

カ是ナリト云コトヲ詳〔ニセ〕〔ス〕。遠<sup>一</sup>ハ去<sup>一</sup>声

尽スヲ忠ト為ス。物ニ循<sup>シテ</sup>テ違フコト無ヲ。信ト謂

○此ノ若〔シト〕ハ。愛<sup>一</sup>悪スル所ヲ知トモ。而モ

〔フ〕。驕ハ矜<sup>一</sup>高。泰ハ侈<sup>シ</sup>肆<sup>シ</sup>。此ハ上ノ引〔ク〕

未<sup>一</sup>タ愛<sup>一</sup>悪ノ道ヲ尽〔ス〕コト能〔ハ〕〔ス〕。蓋

所ノ。文<sup>一</sup>王 康<sup>一</sup>誥ノ意ニ因〔リ〕テ言フ。章ノ

〔シ〕。君<sup>一</sup>子ニシテ未<sup>一</sup>タ仁アラ〔サル〕者ノナリ

内三タヒ得<sup>一</sup>失ヲ言〔ヒ〕テ語<sup>カケル</sup>コト益<sup>31</sup>切ナルコト

人ノ惡<sup>ニクミスル</sup> 所ヲ好<sup>28</sup>ヨシ。人ノ好スル所ヲ惡<sup>29</sup>ミス。是ヲ人ノ

ヲ加〔フ〕。蓋〔シ〕此ニ至〔リ〕テ天<sup>一</sup>理。存<sup>一</sup>

亡ノ幾。決シヌ

財ヲ生ニ。大―道 有リ。之ヲ生者ノハ衆。之ヲ食スル者ノハ寡。之ヲ為者ノハ疾。之ヲ用ル者ノハ舒。

財。恒ニ足。

恒ハ胡―登ノ反。○呂―氏カ曰。国ニ遊―民 無

〔キ〕トキハ。生者ノ衆シ。朝 幸―位 無〔キ〕

トキハ。食スル者ノ寡シ。農―時ヲ奪ハ〔サル〕ト

キハ。之ヲ為コト疾シ。入ル、コトヲ量テ出スコ

トヲ為。之ヲ用〔イル〕コト舒。愚此ヲ按スル

ニ土有リ。財有ト云ニ因〔リ〕テ言テ以テ国ヲ足ス

道。本ヲ務〔メ〕テ庸ヲ節スルニ在〔リ〕テ必〔ス〕

本ヲ外ニシ。末ヲ内ニシテ而後ニ財聚ル可キニ非

〔サル〕コトヲ明〔ラカニ〕ス。此自〔リ〕篇ヲ終

フルニ以至ハ。皆。一―意ナリ

仁―者ハ財ヲ以テ身ヲ発。不―仁―者ハ身ヲ以テ財ヲ

発

発ハ猶ヲ起ノ〔コトシ〕。仁―者ハ財ヲ散シテ以テ

民ヲ得。不―仁―者ハ身ヲ亡シテ以テ殖―貨ス。

未夕有〔ラ〕シ。上 仁ヲ好〔ミ〕テ下。義ヲ好〔マ〕

スト云ハ。未夕有〔ラ〕〔シ〕。義ヲ好〔ミ〕テ其ノ事終

スト云コトハ。未夕有〔ラ〕〔シ〕。府―庫 財。其ノ財

ニ非〔ス〕ト云コトハ

上 仁ヲ好〔ミ〕以テ其ノ下ヲ愛スルトキハ。下

義ヲ好〔ミ〕テ以テ其ノ上ニ忠アリ 事。必〔ス〕

終コト有〔リ〕テ府―庫ノ財。悖―出ル患 無キ所

以ナリ

孟献子カ曰。馬―乗ヲ畜ハ。雞―豚ヲ察セ〔ス〕。伐―

氷ノ家ニハ牛―羊ヲ畜〔ス〕。百―乗ノ家ニハ聚―斂ノ

臣ヲ畜〔ス〕。其ノ聚―斂ノ臣有ラン與ハ。寧―盜―臣

有ラン。此ヲ国 利ヲ以テ利ト為〔ス〕シテ義ヲ以テ利

ト為スト謂フ

畜ハ許―六ノ反。乘―斂ハ並ニ去―声。孟―献―

子ハ魯ノ賢―大―夫。仲―孫―蔑。馬―乗ヲ畜トハ

。士 初メテ試テ大―夫 為者ノ〔ナリ〕。伐―

冰ノ家トハ卿一夫 以一上ノ喪一祭ニ冰ヲ用ル  
者ノナリ。百一乗ノ家トハ采一地 有〔ル〕者ノナ  
リ。君一子は寧<sup>タトヒ</sup>。己カ財ヲ亡<sup>ウシナヘトモ</sup>。民ノ力ヲ傷ル  
ニ忍〔ハ〕(ス)ト云。故ニ寧<sup>40</sup>。盜一臣 有トモ。  
聚一斂ノ臣ヲ畜〔ハ〕(ス)ト云。此<sup>ヲ</sup>謂<sup>イフト云ヨリ</sup> 以一  
下 猷一子カ言ヲ釈ス

国一<sup>ヨル</sup>家ニ長トシテ財一用ヲ務<sup>ツトムル</sup> 者ノハ必〔ス〕小一人ニ  
自<sup>42</sup>彼為善之 小一人ヲシテ国一<sup>オサメシムルトキハ</sup>家ヲ為使<sup>ト</sup>。菑一  
害。並<sup>ニ</sup>至ル。善一者 有ト雖フトモ亦。如<sup>43</sup>之何ト  
云コト無ケン。此ヲ国 利ヲ以テ利ト為〔サ〕スシテ義  
ヲ以テ利ト為スト謂フ

長ハ上―声 ○彼 善ヲ為ト云。此ノ句ノ上―下  
疑ラクハ闕―文カ誤字カ有ラン ○自ハ由。言ハ小―  
人ニ由<sup>ヨリ</sup> 之ヲ導ク。此ノ一―節ハ深ク利ヲ以テ利ト  
為<sup>スル</sup> 害ヲ明〔ニ〕シテ重<sup>カサネ</sup>テ言テ以テ之ヲ結ス 其  
ノ丁―寧ノ意。切ナリ

右 伝ノ十ノ章。国ヲ治メ。天―下ヲ平〔ニ〕スルコ

伝十章 中庸序

トヲ釈〔ス〕

此〔ノ〕章ノ義。務<sup>ツトメ</sup>〔テ〕民ト好一惡ヲ同シテ其  
ノ利ヲ專<sup>モハラニセ</sup> (サル)ニ在リ。皆。契一矩ノ意ヲ推  
―広ム。能〔ク〕是ノ如〔ク〕ナルトキハ。親<sup>44</sup>。賢  
。樂。利。各 其ノ所ヲ得テ天―下。平〔ナリ〕  
凡ソ伝ノ十―章。前ノ四―章ハ統テ綱―領<sup>ス</sup> 旨―趣ヲ  
論ス。後ノ六―章ハ細<sup>コマカ</sup> 二条―目 工夫ヲ論ス。其ノ  
第一五ノ章ハ乃〔チ〕善ヲ明ニスル要ナリ。第一六ノ  
章ハ乃〔シ〕身ヲ誠ニスル本<sup>モトナリ</sup>。初―学ニ在〔リ〕。  
尤モ當<sup>47</sup>ニ務<sup>ツトム</sup>ヘキ急<sup>ツクリ</sup>為<sup>ヨマン</sup>。読―者ノ其ノ近キヲ以テ之ヲ  
忽<sup>イルカセニス</sup> 可〔ラ〕(ス)

大学章句畢

中庸章句ノ序

中庸ハ何ト為<sup>1</sup>作セル。子―思―子<sup>シ</sup> 道―学ノ其ノ伝<sup>テ</sup>

ヲ失<sup>2</sup>ハンコトヲ憂<sup>ウレハサクセリ</sup>作<sup>ケタ</sup>。蓋シ。上<sup>ケタ</sup>古ノ聖<sup>ケタ</sup>一神。天  
 二繼<sup>ツイテ</sup>極<sup>カタテシ</sup>ヲ立<sup>タテシ</sup>自<sup>ヨ</sup>〔リ〕。道<sup>キタレ</sup>一統<sup>キタレ</sup>ノ伝<sup>キタレ</sup>。自<sup>ヨ</sup>テ来<sup>キタレ</sup>コト有  
 リ。其ノ經<sup>ミヘタル</sup>二見<sup>マコト</sup>ハ。允<sup>マコト</sup>二厥<sup>トレトイヘル</sup>ノ中<sup>ハ</sup>ヲ執<sup>ハ</sup>。堯ノ  
 舜<sup>ハ</sup>ニ授<sup>ハ</sup>タル所<sup>ハ</sup>以<sup>ナリ</sup>ナリ。人ノ心。惟<sup>レ</sup>危<sup>シ</sup>道ノ心。  
 惟<sup>レ</sup>微<sup>ナリ</sup>。精<sup>ニ</sup>惟一<sup>ニ</sup>シテ允<sup>ニ</sup>厥<sup>ノ</sup>中<sup>ヲ</sup>執<sup>ト</sup>。  
 トイヘル  
 ハ舜ノ禹<sup>ニ</sup>授<sup>タル</sup>所<sup>以</sup>ナリ。堯ノ一<sup>言</sup>。至<sup>イタレリ</sup>。  
 尽<sup>ツクセリ</sup>。而<sup>シカワシ</sup>テ舜。復<sup>マタ</sup>之<sup>ヲ</sup>益<sup>マス</sup>ニ。三<sup>言</sup>ヲ以<sup>テ</sup>セ  
 ルコトハ夫ノ堯<sup>ノ</sup>一<sup>言</sup>。必<sup>コトクシ</sup>〔ス〕是<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>テ后<sup>ノ</sup>二庶<sup>一</sup>  
 幾<sup>キ</sup>可<sup>カ</sup>〔キ〕コトヲ明<sup>アカス</sup>所<sup>以</sup>ナリ。蓋<sup>コ、ロミ</sup>シ嘗<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>  
 論<sup>ネカフ</sup>セン。心ノ虚<sup>ニ</sup>一靈。知<sup>ヒ</sup>一覺<sup>ハ</sup>一<sup>而</sup>已<sup>シカワシ</sup>。而<sup>テ</sup>  
 以<sup>テ</sup>〔テ〕人<sup>ノ</sup>心。道<sup>ノ</sup>心ノ異<sup>ナリ</sup>有<sup>リ</sup>〔リ〕ト為<sup>スル</sup>コトハ。其  
 レ或<sup>アルイ</sup>〔ハ〕形<sup>ノ</sup>氣<sup>ノ</sup>私<sup>ニ</sup>生<sup>アルイ</sup>。或<sup>アルイ</sup>〔ハ〕性<sup>ノ</sup>一命<sup>ノ</sup>正<sup>ニ</sup>  
 原<sup>モトツケ</sup>テ知<sup>ヒ</sup>一覺<sup>ヲ</sup>為<sup>スル</sup>所<sup>以</sup>一以<sup>テ</sup>者<sup>ノ</sup>同<sup>シ</sup>シカラ〔サル〕ヲ以  
 〔テ〕ナリ。是<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>或<sup>ハ</sup>危<sup>ニ</sup>一殆<sup>タイニシ</sup>テ安<sup>ヤスカラ</sup>ス。或<sup>ハ</sup>〔ハ〕  
 微<sup>ニ</sup>一妙<sup>ニ</sup>シテ見<sup>ミ</sup>難<sup>キ</sup>ノミ。然<sup>シカ</sup>ニ。人<sup>ハ</sup>是<sup>ノ</sup>形<sup>有</sup>〔ラ〕  
 〔ス〕ト云<sup>フ</sup>コト莫<sup>シ</sup>。故<sup>ニ</sup>上<sup>ノ</sup>智<sup>ト</sup>雖<sup>ヘト</sup>モ人<sup>ノ</sup>心無<sup>ク</sup>  
 〔キ〕コト能<sup>ハ</sup>〔ハ〕〔ス〕。亦<sup>ハ</sup>是<sup>ノ</sup>性<sup>有</sup>〔ラ〕〔ス〕ト

云<sup>フ</sup>コト莫<sup>シ</sup>〔シ〕。故<sup>ニ</sup>下<sup>ノ</sup>一愚<sup>ト</sup>雖<sup>ヘト</sup>モ道<sup>ノ</sup>心無<sup>ク</sup>  
 〔キ〕コト能<sup>ハ</sup>〔ハ〕〔ス〕。二<sup>ツノ</sup>者<sup>ノ</sup>方<sup>ハ</sup>一寸<sup>ノ</sup>間<sup>ニ</sup>雜<sup>マシハリ</sup>  
 テ治<sup>ム</sup>ル所<sup>以</sup>ヲ知<sup>ラ</sup>〔ラ〕〔サル〕トキハ。危<sup>ウキ</sup>者<sup>ハ</sup>  
 愈<sup>イヨ</sup>。危<sup>フ</sup>シテ微<sup>ナル</sup>者<sup>ノ</sup>愈<sup>イヨ</sup>微<sup>ナリ</sup>。而<sup>シテ</sup>天<sup>ノ</sup>理<sup>ノ</sup>公  
 卒<sup>ツイ</sup>ニ以<sup>テ</sup>夫<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>欲<sup>ノ</sup>私<sup>ニ</sup>勝<sup>カ</sup>コト無<sup>シ</sup>。精<sup>ナル</sup>ト  
 キハ夫<sup>ノ</sup>二<sup>ツノ</sup>者<sup>ノ</sup>間<sup>ヲ</sup>察<sup>シ</sup>テ雜<sup>マシヘ</sup>〔ス〕。一ナルトキ  
 ハ。其<sup>ノ</sup>本<sup>心</sup>ノ正<sup>ヲ</sup>守<sup>テ</sup>離<sup>ハナレ</sup>〔ス〕。事<sup>ニ</sup>斯<sup>ニ</sup>二從<sup>シタカ</sup>  
 〔ヒ〕テ少<sup>シハラクモ</sup>間<sup>タツコト</sup>断<sup>タツコト</sup>無<sup>シ</sup>。必<sup>コトクシ</sup>〔ス〕。道<sup>ノ</sup>心<sup>ヲ</sup>使<sup>シ</sup>テ常  
 ニ一<sup>身</sup>ノ主<sup>ト</sup>為<sup>ナリ</sup>テ人<sup>ノ</sup>心<sup>ヲ</sup>シテ每<sup>ニ</sup>命<sup>ヲ</sup>聽<sup>キカ</sup>シムルト  
 キハ。危<sup>キ</sup>者<sup>ノ</sup>安<sup>ク</sup>。微<sup>ナル</sup>者<sup>ノ</sup>著<sup>アラハレ</sup>テ動<sup>シ</sup>一靜<sup>ウム</sup>。云<sup>フ</sup>  
 為<sup>ハ</sup>。自<sup>ラ</sup>過<sup>ラ</sup>一不<sup>一</sup>及<sup>タカヒ</sup>ノ差<sup>無</sup>〔シ〕。夫<sup>ソレ</sup>堯<sup>舜</sup>禹<sup>ハ</sup>天<sup>ノ</sup>  
 下<sup>ノ</sup>大<sup>一</sup>聖<sup>ナリ</sup>。天<sup>ノ</sup>下<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>相<sup>伝</sup>フルハ天<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>  
 大<sup>一</sup>事<sup>ナリ</sup>。天<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>大<sup>一</sup>聖<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>天<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>大<sup>一</sup>事<sup>ヲ</sup>  
 行<sup>フ</sup>。而<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>授<sup>シウ</sup>受<sup>シユ</sup>ノ際<sup>アイタ</sup>。丁<sup>寧</sup>告<sup>戒</sup>此<sup>ノ</sup>如<sup>ナ</sup>  
 ル二過<sup>スキ</sup>〔サ〕レ〔ハ〕天<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>理<sup>。豈</sup>以<sup>テ</sup>此<sup>ニ</sup>加<sup>マサレ</sup>  
 有<sup>ラム</sup>哉<sup>ヤ</sup>。是<sup>自</sup>〔リ〕。以<sup>テ</sup>来<sup>カ</sup>。聖<sup>ノ</sup>相<sup>承</sup>成<sup>一</sup>  
 湯<sup>文</sup>武<sup>ノ</sup>君<sup>為</sup>。臯<sup>陶</sup>伊<sup>傅</sup>周<sup>召</sup>ノ臣<sup>為</sup>カ若<sup>ク</sup>。

既二皆。此レヲ以テ夫ノ道一統ノ伝ヲ接 吾カ夫一子  
 ノ若キハ其ノ位ヲ得(ス)ト雖ヘトモ往一聖ニ繼テ来一  
 学ヲ開ク所一以ナリ。其ノ功。反テ堯舜ニ賢 コト有  
 ル者ノナリ。然 是ノ時〔二〕當〔リ〕テ見テ知  
 〔ル〕者ノハ。惟 顔一氏。曾一氏カ伝。其ノ宗ヲ得  
 タリ。曾一氏カ再一伝シテ復 夫一子ノ孫。子一思ヲ  
 得ルニ及テハ聖ヲ去コト遠 テ異一端 起ル。子一思  
 夫ノ愈。久シ〔テ〕愈。其ノ真ヲ失ハンコトヲ懼  
 是ニ堯舜ヨリ以 来 相一伝 意ヲ推 本 テ質  
 二平一日 父一師ニ聞 所ノ言ヲ以テ更 互ニ演一繹  
 シ此ノ書ヲ作一為シテ以テ後ノ学一者ニ詔。蓋〔シ〕  
 其レ之ヲ憂 コト。深シ。故〔二〕其レ之ヲ言コト  
 切ナリ。其レ之ヲ慮 コト遠シ。故二其レ之ヲ説  
 コト詳ナリ。其ノ天ノ命セル。性ニ率 〔ト〕曰 道  
 ノ心ノ謂ナリ。其ノ善ヲ扱 テ固ク執ルト曰ヘルハ。  
 精一ニスル謂ナリ。其ノ君一子ハ中ヲ時 ト曰ヘル  
 ハ。中ヲ執ル謂ナリ。世ノ相 後 コト。千一有

中庸序

余一年。而シテ其〔ノ〕言ノ異 〔サ〕ルコト。符一  
 節〔ヲ〕合〔セタル〕カ如シ。前一聖ノ書ヲ歴一選ス  
 ルニ綱一維ヲ堤一絜。蘊一奥ヲ開一示スル所一以ナ  
 リ 未夕有〔ラ〕シ。是ノ若ク其レ明 テ且 尽セ  
 ル者ハ 是レ自シテ又 再一伝シテ以テ孟一氏ヲ得タ  
 リ。能〔ク〕是ノ書ヲ推 明ニシテ以〔テ〕先一聖ノ  
 統ニ承 コトヲ為ス。其ノ没スルニ及テ遂ニ其ノ伝ヲ  
 失フ。吾カ道ノ寄 所。言一語。文一字ノ間夕ニ越ヘ  
 (ス)。而テ異一端ノ説。日ニ新ニ。月ニ盛 テ以テ  
 老一仏ノ徒ノ出ツルニ至〔リ〕テハ。彌。理ニ近クシ  
 テ大ニ真ヲ乱。然 而。尚 幸 二此ノ書 泯ス。  
 故二程一夫一子 兄一弟ノ者ノ出テ考 所有〔リ〕  
 テ以テ夫〔ノ〕千一載 不一伝ノ緒ヲ統コトヲ得 夫  
 ノニ一家ノ是ニ似ル非ヲ斥 コトヲ得。蓋シ。子一  
 思カ功。是ニ大 ト為ス 而シテ程一夫一子 微  
 〔ハ〕。亦夕能〔ク〕其ノ語ニ困〔リ〕テ其ノ心ヲ得コ  
 ト莫。惜乎。其ノ説ヲ為所一以ノ者ノ伝 サルコ



中庸序 第一章

ト。而シテ凡ソ石<sup>18</sup>氏カ輯<sup>18</sup>録<sup>18</sup>所。僅ニ其ノ門<sup>18</sup>人ノ記<sup>18</sup>所<sup>18</sup>ニ出<sup>18</sup>。是<sup>18</sup>以テ大<sup>18</sup>義<sup>18</sup>。明ナリト雖ヘトモ。微<sup>18</sup>言<sup>18</sup>未<sup>18</sup>タ析<sup>18</sup>ス。其<sup>18</sup>ノ門<sup>18</sup>人ノ自<sup>18</sup>説<sup>18</sup>ヲ為ル所<sup>18</sup>ニ至<sup>18</sup>〔リ〕テハ頗<sup>18</sup>フル詳<sup>18</sup>ニ尽<sup>18</sup>クシテ発<sup>18</sup>明<sup>18</sup>〔スル〕所<sup>18</sup>多<sup>18</sup>ト雖ヘトモ。然<sup>18</sup>モ其ノ師<sup>18</sup>ノ説<sup>18</sup>ヲ倍<sup>18</sup>テ老<sup>18</sup>一<sup>18</sup>佞<sup>18</sup>ニ淫<sup>18</sup>者<sup>18</sup>ノ亦<sup>18</sup>。之<sup>18</sup>有<sup>18</sup>。熹<sup>18</sup>蚤<sup>18</sup>歳<sup>18</sup>自<sup>18</sup>〔リ〕。即<sup>18</sup>嘗<sup>18</sup>テ受<sup>18</sup>讀<sup>18</sup>テ竊<sup>18</sup>ニ之<sup>18</sup>ヲ疑<sup>18</sup>フ。沈<sup>18</sup>潜<sup>18</sup>。反<sup>18</sup>復<sup>18</sup>スルコト。蓋<sup>18</sup>〔シ〕。亦<sup>18</sup>年<sup>18</sup>有<sup>18</sup>リ。一<sup>18</sup>旦<sup>18</sup>恍<sup>18</sup>然<sup>18</sup>トシテ以<sup>18</sup>〔テ〕其<sup>18</sup>ノ要<sup>18</sup>領<sup>18</sup>ヲ得<sup>18</sup>コト有<sup>18</sup>〔ル〕ニ以<sup>18</sup>タリ。然<sup>18</sup>後<sup>18</sup>ニ乃<sup>18</sup>敢<sup>18</sup>テ衆<sup>18</sup>一<sup>18</sup>説<sup>18</sup>ヲ会<sup>18</sup>シテ其<sup>18</sup>ノ中<sup>18</sup>ヲ折<sup>18</sup>。既<sup>18</sup>ニ為<sup>18</sup>ニ定<sup>18</sup>テ章<sup>18</sup>一<sup>18</sup>句<sup>18</sup>一<sup>18</sup>篇<sup>18</sup>ヲ著<sup>18</sup>テ以<sup>18</sup>テ後<sup>18</sup>ノ君<sup>18</sup>一<sup>18</sup>子<sup>18</sup>ヲ俟<sup>18</sup>。而<sup>18</sup>シテ一<sup>18</sup>一<sup>18</sup>二<sup>18</sup>ノ同<sup>18</sup>志<sup>18</sup>。復<sup>18</sup>。石<sup>18</sup>氏<sup>18</sup>カ書<sup>18</sup>ヲ取<sup>18</sup>テ其<sup>18</sup>ノ繁<sup>18</sup>乱<sup>18</sup>ヲ刪<sup>18</sup>〔リ〕テ名<sup>18</sup>ニ輯<sup>18</sup>略<sup>18</sup>ヲ以<sup>18</sup>〔テ〕ス。且<sup>18</sup>嘗<sup>18</sup>テ論<sup>18</sup>辯<sup>18</sup>。取<sup>18</sup>一<sup>18</sup>舍<sup>18</sup>所<sup>18</sup>ノ意<sup>18</sup>ヲ記<sup>18</sup>別<sup>18</sup>ニ或<sup>18</sup>一<sup>18</sup>問<sup>18</sup>ト為<sup>18</sup>テ以<sup>18</sup>テ其<sup>18</sup>ノ後<sup>18</sup>ニ附<sup>18</sup>然<sup>18</sup>後<sup>18</sup>ニ此<sup>18</sup>ノ書<sup>18</sup>ノ旨<sup>18</sup>支<sup>18</sup>分<sup>18</sup>節<sup>18</sup>解<sup>18</sup>テ脉<sup>18</sup>絡<sup>18</sup>貫<sup>18</sup>通<sup>18</sup>。詳<sup>18</sup>略<sup>18</sup>相<sup>18</sup>一<sup>18</sup>困<sup>18</sup>〔リ〕テ巨<sup>18</sup>細<sup>18</sup>畢<sup>18</sup>ニ挙<sup>18</sup>ス。而<sup>18</sup>シテ凡<sup>18</sup>ソ。諸<sup>18</sup>一<sup>18</sup>説<sup>18</sup>ノ同<sup>18</sup>異<sup>18</sup>得<sup>18</sup>一<sup>18</sup>失<sup>18</sup>亦<sup>18</sup>以

中庸

朱熹章句

テ曲<sup>1</sup>暢<sup>1</sup>。旁<sup>1</sup>通<sup>1</sup>テ各<sup>1</sup>。其<sup>1</sup>ノ趣<sup>1</sup>極<sup>1</sup>コトヲ得<sup>1</sup>。道<sup>1</sup>一<sup>1</sup>統<sup>1</sup>ノ伝<sup>1</sup>ハ敢<sup>1</sup>テ妄<sup>1</sup>議<sup>1</sup>スト雖<sup>1</sup>。然<sup>1</sup>初<sup>1</sup>一<sup>1</sup>学<sup>1</sup>ノ士<sup>1</sup>。或<sup>1</sup>取<sup>1</sup>有<sup>1</sup>ラン。亦<sup>1</sup>遠<sup>1</sup>二<sup>1</sup>行<sup>1</sup>高<sup>1</sup>二<sup>1</sup>升<sup>1</sup>一<sup>1</sup>ノ助<sup>1</sup>ヲ庶<sup>1</sup>ト云<sup>1</sup>爾<sup>1</sup>。淳<sup>1</sup>熙<sup>1</sup>己<sup>1</sup>酉<sup>1</sup>。春<sup>1</sup>三<sup>1</sup>月<sup>1</sup>。戊<sup>1</sup>申<sup>1</sup>二<sup>1</sup>。新<sup>1</sup>一<sup>1</sup>安<sup>1</sup>ノ朱<sup>1</sup>熹<sup>1</sup>序<sup>1</sup>ス。

中ハ偏<sup>1</sup>ナラ(ス)。倚<sup>1</sup>ナラ(ス)。過<sup>1</sup>一<sup>1</sup>不<sup>1</sup>一<sup>1</sup>及<sup>1</sup>無<sup>1</sup>キ名<sup>1</sup>。庸<sup>1</sup>ハ平<sup>1</sup>一<sup>1</sup>常<sup>1</sup>子<sup>1</sup>一<sup>1</sup>程<sup>1</sup>一<sup>1</sup>子<sup>1</sup>曰<sup>1</sup>。偏<sup>1</sup>ナラ(サ)ル。之<sup>1</sup>ヲ中<sup>1</sup>ト謂<sup>1</sup>。易<sup>1</sup>サル。之<sup>1</sup>ヲ庸<sup>1</sup>ト謂<sup>1</sup>。中<sup>1</sup>ハ天<sup>1</sup>一<sup>1</sup>下<sup>1</sup>ノ正<sup>1</sup>一<sup>1</sup>道<sup>1</sup>。庸<sup>1</sup>ハ天<sup>1</sup>一<sup>1</sup>下<sup>1</sup>ノ定<sup>1</sup>理<sup>1</sup>ナリ。此<sup>1</sup>ノ篇<sup>1</sup>ハ乃<sup>1</sup>チ。孔<sup>1</sup>一<sup>1</sup>門<sup>1</sup>ノ心<sup>1</sup>ヲ伝<sup>1</sup>授<sup>1</sup>スル法<sup>1</sup>ナリ。子<sup>1</sup>一<sup>1</sup>思<sup>1</sup>其<sup>1</sup>ノ久<sup>1</sup>シテ差<sup>1</sup>コトヲ恐<sup>1</sup>ル。故<sup>1</sup>ニ之<sup>1</sup>ヲ書<sup>1</sup>ニ筆<sup>1</sup>シテ以<sup>1</sup>テ孟<sup>1</sup>一<sup>1</sup>子<sup>1</sup>ニ授<sup>1</sup>ク。其<sup>1</sup>〔ノ〕書<sup>1</sup>。始<sup>1</sup>メハ一<sup>1</sup>一<sup>1</sup>理<sup>1</sup>ヲ言<sup>1</sup>。中<sup>1</sup>ハ散<sup>1</sup>シテ万<sup>1</sup>一<sup>1</sup>事<sup>1</sup>ト為<sup>1</sup>。末<sup>1</sup>ハ復<sup>1</sup>合<sup>1</sup>テ一<sup>1</sup>一<sup>1</sup>理<sup>1</sup>ト為<sup>1</sup>之<sup>1</sup>ヲ放<sup>1</sup>トキハ六<sup>1</sup>一<sup>1</sup>合<sup>1</sup>ニ彌<sup>1</sup>。之<sup>1</sup>ヲ卷<sup>1</sup>トキハ退<sup>1</sup>テ密<sup>1</sup>ニ藏<sup>1</sup>。其<sup>1</sup>ノ味<sup>1</sup>窮<sup>1</sup>マルコト無<sup>1</sup>シ

。皆 実学。善ヨク 読ヨマム者モノ玩モテアソビ索トメテ得ウルコト有ラハ。  
身ヲ終ルマテニ。之ヲ用ルトモ。尽ツケルコト能ハ（ハ）（サ  
ル）コト有ラム者モノナリ  
天ノ命5（ヲ）性ト謂。性ニ率シタカフヲ道ト謂。道オサムルヲ脩  
ヲ教ト謂フ

命ハ猶ヲ令ノ（コト）シ。性ハ即（チ）理ナリ。天  
。陰一陽 五行ヲ以テ万一物ヲ化一生ス。氣。以  
〔モ〕テ形ヲ成ス。而テ理。亦。賦シク。猶ヲ命一令  
ノ（コト）シ。是コトニ。人一物ノ生。各。其ノ賦所ノ  
理ヲ得（ル）ニ因（リ）以（テ）健一順 五一常ノ  
徳ト為ス。所一謂ル。性ナリ。率ソツハ循。道ハ猶ヲ  
路ノ（コト）シ。人一物。各。其ノ性ノ自然ニ循シタカフ  
トキハ 其ノ日一用 事一物 ノ間アヒタ。各 當ヲニ行（フ）  
ヘキ路有（ラ）（ス）ト云コト莫シ。是レ則。所一  
謂ル道ナリ。脩ト云ハ之ヲ品一節スルナリ。性ハ道  
同シ（ト）雖〔モ〕氣一稟ヒム。或ハ異ナリ。故ニ過一  
不一及タカヒノ差無キコト能（ハ）（ス）。聖一人。人一

第一章

物ノ當ヲニ行（フ）ヘキ所ノ者ニ因テ之ヲ品一節シテ  
以テ天一下ニ法ト為ス。則。之ヲ教ト謂。礼一樂。  
刑一政ノ属タケヒノ若キ是ナリ。蓋シ人ノ人タル為所一以。  
道ノ道タル為所一以。聖一人ノ教ヲ為所一以 其ノ自ヨレル  
所ヲ原7ニ。一（ト）シテ天二本モトツケテ我ニ備へ（ス）  
ト云無シ。学一者。之ヲ知ヌルトキハ。其レ。学ニ  
於テカヲ用（イル）所ヲ知リテ自ヲラヤム已コト能（ハ）  
（ス）。故ニ子一思。此コトニ於テ首ハシメニ之ヲ發一明ス。  
読一者。宜ク深ク体サト（リ）テ默モクシテ識シル（ヘキ）所  
道ハ。須シハラクモ一與ハナルヘカラサル離ハ可ス。離（ル）可ヘキハ道ニ非ス。是  
故ニ君一子ハ其ノ睹ミヘ（サ）ル所ヲ戒慎ツ、シミテ其ノ聞（ヘ）  
（サル）所ヲ恐ヲチ懼10  
離ハ去一声 ○道ハ。日ヒニ用井ル事一物。當一行ノ  
理ナリ。皆 性ノ徳ニシテ心ソナヘタリニ具。物（トシ）  
テ有（ラ）（ス）（ト）云コト無シ。時トシテ然（ラ）  
（ス）（ト）云コト無シ。須一與（モ）離ル可（ラ）  
（サル）所一以ナリ。若モシ其レ。離ル可キハ外11一物

ト為テ道ニ非〔ス〕。是<sup>ヲ</sup>以テ君一子ノ心。常ニ敬  
 畏ル、コト〔ヲ〕存シ見<sup>ミ</sup>聞<sup>ク</sup>へ〔ス〕ト雖〔ト  
 モ〕。亦。敢テ忽<sup>イルカセニセ</sup>〔ス〕。天一理ノ本一然ヲ存シ  
 テ須<sup>アヒタモ</sup>與ノ頃<sup>アヒタモ</sup>離レ使<sup>シメ</sup>〔サ〕ル所<sup>ヲ</sup>以ナリ  
 隱ヨリ見<sup>アラハナル</sup>ハ莫〔シ〕。微ヨリ顕<sup>アキラカナル</sup>ハ莫。故ニ君一子  
 ハ其ノ独アルコトヲ慎シム

見カ音ハ現 ○隱ハ暗一処<sup>シユ</sup>。微ハ細一事。独トハ。  
 人ノ知ラ〔サル〕所ニシテ己<sup>オソレ</sup>カ独リ知レル所ノ地  
 ナリ。言ハ幽一暗ノ中。細一微ノ事。跡ハ未〔タ〕  
 形<sup>アラハレ</sup>〔ス〕ト雖〔トモ〕。幾ハ已<sup>ステ</sup>ニ動〔ク〕。人。知  
 〔ラ〕〔ス〕ト雖〔トモ〕。己<sup>オソレ</sup>独リ。之ヲ知レハ。是  
 。天一下ノ事。著一見。明一顕ナルコト。而モ此ニ  
 過<sup>スキタル</sup>者ノ有コト無シ是<sup>ヲ</sup>以テ君一子ハ既ニ常ニ戒  
 懼<sup>メ</sup>テ此ニ於テ尤〔モ〕謹<sup>フシム</sup>ヲ加フ。人一欲 將ニ  
 萌<sup>キサム</sup>トスルニ 遏<sup>トメ</sup>テ其ヲ隱一微ノ中ニ滋一長シテ  
 以〔テ〕道ヲ離ルノ遠ニ至ラ使〔サ〕ル所<sup>ヲ</sup>以ナリ  
 喜。怒。哀。樂ノ未タ發<sup>ヲコラ</sup>〔サ〕ル之ヲ中ト謂。發〔リ〕

テ皆。節ニ中<sup>アタル</sup>。之ヲ和ト謂。中ハ天一下ノ大一本ナリ。  
 和ハ。天一下ノ達一道ナリ

樂<sup>ラク</sup>音ハ洛。中一節ノ中ハ去声 ○喜。怒。衰。樂  
 ハ。情。其ノ未〔タ〕發ラ〔サ〕ルハ性ナリ。偏一  
 倚スル所無シ。故ニ之ヲ中ト謂フ。發〔リテ〕皆  
 節〔ニ〕中ル〔ハ〕情ノ正ナリ 乖<sup>ソムキ</sup>戾<sup>モトル</sup>所無〔シ〕  
 故〔ニ〕之〔ハ〕和〔ト〕謂 大一本ハ。天ノ命セ  
 ル性ナリ。天一下ノ理。皆 此ニ由〔リ〕テ出ツ  
 道ノ体ナリ。達一道ハ性ニ循<sup>シタカフイヒ</sup>謂。天一下。古一今  
 共ニ由〔ル〕所。道ノ用ナリ。此ハ性一情ノ徳ヲ  
 言<sup>イ</sup>テ以テ道ノ離〔ル〕可〔ラ〕〔サル〕意ヲ明<sup>アカ</sup>ス  
 中一和ヲ致<sup>イタシ</sup>天一地。位<sup>タ、シク</sup>。萬一物。育<sup>イ</sup>ス  
 致<sup>イタスト</sup>ハ推<sup>オシ</sup>テ之ヲ極ムルソ。位<sup>タ、シイト</sup>ハ其ノ所ニ安<sup>イ</sup>キ  
 〔ソ〕。育ハ其ノ生ヲ遂<sup>トクルソ</sup> 自〔ラ〕戒<sup>メ</sup>懼<sup>ヲ</sup>之ヲ約<sup>メ</sup>  
 シ以テ至一静ノ中ニ至〔リ〕テ少<sup>スコシキモ</sup> 偏一倚スルコ  
 ト無シテ。其ノ守ルコト失セ〔サル〕トキハ。其ノ  
 中〔ハ〕極メテ天一地。位<sup>タ、シ</sup>。自〔ラ〕。独アルコト

ヲ謹テ之ヲ精ニシテ以テ物ニ応スル処ニ至〔リ〕少<sup>ス</sup>シモ。差<sup>シモ</sup>。タカヒ。アヤマル。コト無シテ適<sup>ユクトシテ</sup>。然ラ（ス）ト云コト無トキハ其ノ和ヲ極メテ萬一物。育セラル。蓋〔シ〕。天一<sup>シ</sup>地。萬一物ハ本〔ト〕吾カ一<sup>シ</sup>体ナリ。吾カ心。正<sup>タ、シキトキハ</sup>。天一<sup>シ</sup>地ノ心モ亦。正シ。吾カ氣。順〔ナル〕トキハ天一<sup>シ</sup>地〔ノ〕氣モ亦。順。故ニ其ノ效一<sup>シ</sup>驗。此ノ如ナルニ至ル。此レ学一<sup>シ</sup>問ノ極一<sup>シ</sup>功。聖一人ノ能一<sup>シ</sup>事。初〔ヨリ〕外<sup>ニ</sup>待コト有ニ非〔ス〕。道ヲ脩ムルノ教。亦其ノ中ニ在〔リ〕。是レ其ノ一ツハ体。一ツハ用。動一<sup>シ</sup>静ノ殊<sup>コトナル</sup>。有ト雖ヘトモ。然モ。必。其ノ体。立テ後ニ用。以テ行<sup>ヲコナハル</sup>。コト有〔リ〕。其ノ実ハ亦両一<sup>シ</sup>事。有ニ非〔ス〕。故ニ此ニ於テ合セテ之ヲ言テ以テ上ノ文ノ意ヲ結ス

右 第一ノ章。子一<sup>シ</sup>思カ伝フル所ノ意ヲ述テ以テ言ヲ立ツ。首<sup>29</sup>ハ道ノ本一<sup>シ</sup>原。天ヨリ出テ易<sup>30</sup>（ヘカラス）。其ノ実一<sup>シ</sup>体。己<sup>ヲノレ</sup>ニ備<sup>ソナヘ</sup>テ離<sup>ハナレ</sup>（ヘカラ）サルコトヲ明<sup>ア</sup>ス。次<sup>ツキ</sup>ニ存一<sup>シ</sup>養。省一<sup>シ</sup>察ノ要ヲ言<sup>イヒ</sup>。終<sup>オワリ</sup>ニ聖一<sup>シ</sup>神。功一<sup>シ</sup>

第一章 第二章

化ノ極ヲ言フ。蓋〔シ〕。学ヒムコトヲ欲セム者ノ此ニ於テ身ニ反<sup>カヘシ</sup>。求メテ自<sup>ミ</sup>〔ラ〕之ヲ得テ以テ夫ノ外一<sup>シ</sup>誘<sup>ユラ</sup>ノ私<sup>ワタクシ</sup>ヲ去テ其ノ本一<sup>シ</sup>然ノ善ヲ充<sup>ミテヨ</sup>。楊一<sup>シ</sup>氏カ所<sup>ニ</sup>謂。一<sup>シ</sup>篇ノ体一<sup>シ</sup>要。是ナリ。其ノ下ノ十一<sup>シ</sup>章ハ蓋〔シ〕。子思。夫一<sup>シ</sup>子ノ言ヲ引テ以テ此ノ章ノ義ヲ終フ

仲一<sup>シ</sup>尼ノ曰。君一<sup>シ</sup>子ハ中一<sup>シ</sup>庸ヲス。小一人ハ中一<sup>シ</sup>庸ニ反<sup>ス</sup>

中一<sup>シ</sup>庸ハ。不<sup>1</sup>一<sup>シ</sup>偏。不<sup>1</sup>一<sup>シ</sup>倚。過一<sup>シ</sup>不<sup>1</sup>一<sup>シ</sup>及。無クシテ平一<sup>シ</sup>常ノ理ナリ。乃<sup>ス</sup>。天一<sup>シ</sup>命ノ當ニ然ルヘキ所。精一<sup>シ</sup>微ノ極一<sup>シ</sup>致ナリ。唯<sup>タ</sup>。君一<sup>シ</sup>子ノミ能〔ク〕之ニ体スル〔コトヲ〕為ス。小一人ハ是レニ反ス

君一<sup>シ</sup>子ノ中一<sup>シ</sup>庸ハ。君一<sup>シ</sup>子ニシテ中<sup>2</sup>ヲ時<sup>トキナフ</sup>。小一人ノ中一<sup>シ</sup>庸ハ小一人ニシテ忌<sup>イミ</sup>。憚<sup>ハバカル</sup>。コト無シ

王一<sup>シ</sup>肅カ本ハ小一人ノ反一<sup>シ</sup>中一<sup>シ</sup>庸ト作ル。程一<sup>シ</sup>子。亦。以テ然ト為ス。今。之ニ従フ。○君一<sup>シ</sup>子ノ中一<sup>シ</sup>庸ヲ為所一<sup>スル</sup>以ハ其ノ君一<sup>シ</sup>子ノ德。有〔ル〕ヲ以テ又

能〔ク〕。時ニ隨テ中ニ処レルヲ以〔テ〕ナリ。小一人ノ中一庸ニ反スル所一以ハ。其ノ小一人之心有〔ル〕ヲ以テ又。忌憚〔ル〕所無〔シ〕。蓋〔シ〕中ハ定レル体無〔シ〕。時ニ隨テ在リ。是レ乃。平一常ノ理ナリ。君一子。其ノ我ニ在ルコトヲ知ル。故ニ能〔ク〕賭〔サル〕ヲ戒〔シメ〕謹シミ。聞〔サル〕ヲ恐〔チ〕懼〔テ〕時トシテ中〔ラ〕〔ス〕ト云無シ。小一人ハ此有コトヲ知〔ラ〕〔サ〕レハ欲ヲ肆〔ホシイマニシ〕テ妄ニ行〔フコナ〕〔ヒ〕テ忌憚〔ル〕所無シ

右 第二ノ章

此ヨリ下ノ十ノ章ハ皆 中一庸ヲ論シテ以〔テ〕首ノ章ノ義ヲ釈ス。文 屬〔シヨクセ〕〔ス〕ト雖〔トモ〕意。実ニ相承〔ウケタリ〕。和ヲ変シテ庸〔ト〕言〔フ〕コトハ游一氏カ曰。性一情ヲ以テ之ヲ言トキハ。中一和ト曰〔フ〕。德一行ヲ以テ之ヲ言トキハ。中一庸ト曰ヘルハ。是〔ナリ〕。然レハ中一庸ノ中ハ実〔ニ〕中一和ノ義ヲ兼タリ

子曰。中一庸ハ。其レ至レル矣乎。民。能鮮コト久シ

鮮ハ上ノ声。下同 ○過ハ。中ヲ失〔ヒ〕。及〔ハ〕〔サ〕レハ未タ至ラス。故ニ惟。中一庸ノ徳ヲ至レリト為。然モ亦。人ノ同〔ク〕得タル所ニシテ初ヨリ難一事 無〔シ〕。但。世一教。衰テ民。興テ行〔ス〕。故ニ之ヲ能コト鮮キコト。今已ニ久シ。論一語ニハ能ノ字無シ

右 第三ノ章

子曰。道ノ行〔サル〕コトハ。我。之ヲ知レリ。知一者ハ過ス。愚一者ハ及ハ〔ス〕。道ノ明ナラ〔サル〕コトハ。我レ。之ヲ知レリ。賢一者ハ過ス 不肖一者ハ及ハ〔ス〕

知一者ノ知ハ去一声 ○道ハ。天一理ノ當一然。中而一已ナリ。知。愚。賢。不肖ノ過一不一及ハ

。生ヒム一稟ヒムノ異ニシテ其ノ中ヲ失ヘリ。知一者ハ知

過スキテ既ニ道ヲ以テ行フニ足ラ〔ラ〕〔ス〕ト為 愚一

者ハ知ルニ及ハ〔ハ〕〔ス〕シ〔テ〕又。行ナハム所

以ヲ知ラ〔ラ〕〔ス〕。此レ。道ノ常ツ二行ヲコナハ〔レ〕

〔サ〕ル所以ナリ。賢一者ハ行 過スキテ既ニ道ヲ以

テ知シニ足ラ〔ラ〕〔ス〕ト為ス。不一肖一者ハ行ヲニ及

〔ハ〕〔ス〕。又。知シ所レ以ヲ求メ〔ス〕。此レ道ノ

當ニ明ナラ〔サ〕ル所レ以ナリ

人。飲一食シヨクセ スト云コト莫シ 能ク〔ク〕味アチハヒ ヲ知コト鮮

シ

道ハ離ル可ラ〔ラ〕〔ス〕。人。自ラ察セ〔ス〕。是レ

以テ過一不一及ヘイノ幣 有リ〔リ〕

#### 右 第四ノ章

子曰。道ハ。其レ行ハレ〔サ〕ルカ

夫カ音ハ扶 ○明ニセ〔サ〕ルニ由ヨル。故ニ行ハレ

〔ス〕

#### 第四章 第五章 第六章

#### 右 第五ノ章

此ノ章ハ上ノ章ニ承ケ〔ケ〕テ其ノ行ハ〔ハレ〕〔サ〕

ル端ハシヲ拳ケテ以テ〔テ〕下ノ章ノ意ヲ起ス

子曰。舜ハ其レ大一知カ。舜ハ問トフコトヲ好コソテ好コソ 邇レ言

ヲ察ス 惡カクシヲ隱アケテ善ヲ揚 其ノ兩一端ヲ執トテ其ノ中ヲ

民ニ用ル。其レ〔レ〕斯コレラ以テ舜ト為カ

知ハ去一声。與ハ〔ハ〕平一声。好ハ去一声 ○舜ノ

大一知 為ケル所レ以ハ。其ノ自ラハ用モ〔イ〕〔ス〕シ

テ人ニ取レ〔ルヲ〕以テ〔ナリ〕。邇一言ト云ハ。淺一

近ノ言ヲモ。猶。必。察ハ〔ス〕。其レ〔ノ〕善ヲ遺ノコ

ト無キ〔キ〕コト知ヌ可シ。然モ。其ノ言未〔タ〕善

ナラ〔サ〕ル者ニ於テハ隱カクシテ宣ノ〔ス〕。其ノ善ナル

者ハ播ホトコシテ匿カクサ〔ス〕。其ノ広一大。光一明。又。

此ノ如ク〔ク〕ナレハ。人。孰カ告ルニ善ヲ以テ〔テ〕

セムコトヲ樂クソクシ〔サラ〕ム哉ヤ。兩一端ト云ハ。衆一

論 同カラ〔サ〕ル。ノ極一致ヲ謂フ。蓋シ凡ソ。

第六章 第七章 第八章

物。皆。両一端 有〔リ〕。小一。大。厚一薄ノ類ノ  
如〔シ〕。善ノ中ニ於テ 又。其ノ両一端ヲ執〔リ〕  
テ量〔度〕〔リ〕テ以テ中ヲ取〔リ〕テ然〔テ〕後ニ之ヲ  
用〔イル〕トキハ。扱コト審 〔テ〕行 コト至レ  
リ。然モ。我ニ在ル権一。度。精一。切ニシテ差〔カハ〕  
ルニ非〔サル〕ハ何〔ヲ〕以テ此ニ與〔アツカラム〕。此レ。知  
ノ過一。不一。及 無〔キ〕所一。以ニシテ道ノ行ハル、  
所一。以ナリ

右 第六ノ章

子曰。人。皆。曰。予。知。 驅テ罟一。獲。 陷一。阱ノ  
中ニ納 〔ニテ〕 辟コトヲ知〔ル〕莫シ。人。皆。曰  
。予レ知アルト。中一。庸ヲ扱テ期一。月〔モ〕守〔ル〕  
コト能〔ハ〕〔ス〕

予一。知ノ知ハ去一。声。罟カ音ハ古。獲ハ胡一。化ノ反。  
阱ハ才一。性ノ反。辟ハ避同。期ハ居之〔ノ〕反 ○  
罟ハ綱。獲ハ機一。檻。 陷一。阱ハ坑一。坎。 皆。禽一。獸

ヲ拵一。取ル者ノナリ。中一。庸ヲ扱トハ衆一。理ヲ辨一  
別シテ以テ所 謂 中一。庸ヲ求ルソ。即〔チ〕上ノ  
章。問コトヲ好テ中ヲ用ル事ナリ。期一。月ハ一。月  
ヲ匝。言ハ禍 ヲ知〔リ〕テ辟コトヲ知〔ラ〕〔ス〕  
。以テ況 能〔ク〕。扱〔ン〕テ守ルコト能〔ハ〕  
〔サル〕ニ。皆 知ト為〔ス〕コトヲ得〔ス〕

右 第七ノ章

上ノ章ノ大知ニ承テ言。又。明〔ナラ〕〔サ〕ルノ  
端ヲ拳〔ケ〕テ下ノ章ヲ起ス

子曰。回カ人ト為。中一。庸ヲ扱テ一。善ヲ得 拳一  
服一。膺 テ失セ〔ス〕

回ハ孔一。子ノ弟一。子。顔一。淵カ名。拳一。拳ハ奉一。持  
スル貌。服ハ猶ヲ著ノ〔コト〕シ。膺ハ胸。奉一。持  
シテ之ヲ心一。胸ノ間ニ著。言ハ能ク守ルソ。顔一。子  
蓋〔シ〕。真ニ知レリ。故ニ能一。扱ヒ。能一。守ル  
此ノ如〔ク〕此レ行ノ過一。不一。及 無キ所一。以

〔二〕シテ道ノ明ナル所<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>〔ナリ〕

右 第八ノ章

子曰。天<sub>一</sub>下。国<sub>一</sub>家ヲハ均<sub>ヒトシメツ</sub>可シ。爵<sub>一</sub>禄ヲハ辞<sub>シ</sub>可シ。白<sub>一</sub>刃ヲハ蹈<sub>フムツ</sub>可シ。中<sub>一</sub>庸ヲハ能<sub>ヨクス</sub>可<sub>レ</sub>〔ラ〕〔ス〕

均ハ平<sub>一</sub>治。三<sub>ツ</sub>者ハ亦。知。仁。勇ノ事ハ天<sub>一</sub>下

ノ至<sub>一</sub>難ナリ。然モ必。其。中<sub>一</sub>庸ニ合<sub>カナハ</sub>〔サ〕レ

ハ之ヲ質<sub>ク</sub>ス。近<sub>一</sub>似ナルハ。皆。能<sub>ク</sub>以<sub>レ</sub>〔テ〕カ

テ之ヲ為<sub>レ</sub>〔ス〕。中<sub>一</sub>庸ノ若<sub>レ</sub>〔キ〕ハ。必シモ皆

三<sub>一</sub>者ノ難キカ如クナラ〔ス〕ト雖〔トモ〕。然モ

義<sub>クハシク</sub> 精<sub>クハシク</sub> 仁 熟シテ<sub>一</sub>毫ノ人<sub>一</sub>欲ノ私 無<sub>レ</sub>〔キ〕

ニ非<sub>レ</sub>〔サル〕者ノハ及<sub>レ</sub>〔フ〕コト能<sub>レ</sub>〔ハ〕シ。三<sub>一</sub>

者ノ難<sub>カタクシ</sub> テ易<sub>ヤスシ</sub> 中<sub>一</sub>庸ハ易シテ難シ。民ノ能スルコ

ト鮮キ所<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>ナリ

右 第九ノ章

亦。上ノ章ニ承テ以テ下ノ章ヲ起ス

第八章 第九章 第十章

子<sub>一</sub>路 強ヲ問<sub>レ</sub>〔フ〕

子<sub>一</sub>路ハ孔<sub>一</sub>子ノ弟<sub>一</sub>子。仲<sub>一</sub>由 子<sub>一</sub>路 勇ヲ好

ム。故ニ強ヲ問<sub>レ</sub>〔フ〕

子曰 南<sub>一</sub>方ノ強カ 北<sub>一</sub>方ノ強カ 抑<sub>ソモ、ナムチ</sub>而<sub>レ</sub>力強カ

與ハ平声 ○抑<sub>ヨク</sub>ハ語ノ辞<sub>コトハ</sub>。而<sub>シ</sub>ハ汝<sub>シヨ</sub>

寬<sub>一</sub>柔<sub>一</sub>テ以テ教<sub>レ</sub>ヘテ無<sub>レ</sub>道ヲ報<sub>ムクヒ</sub>〔サ〕ルハ。南<sub>一</sub>方

ノ強ナリ。君<sub>一</sub>子<sub>一</sub>。居<sub>一</sub>

寬<sub>一</sub>柔ニシテ以テ教<sub>レ</sub>〔フル〕コトハ含<sub>カム</sub>一容<sub>ソム</sub>。巽<sub>一</sub>順

ニテ以テ人ノ及<sub>レ</sub>〔ハ〕〔サル〕ヲ誨<sub>ヨシフル</sub>ヲ謂<sub>レ</sub>。無<sub>レ</sub>道

ヲ報<sub>レ</sub>〔ヒ〕〔ス〕トハ。横<sub>一</sub>逆ノ来ルヲハ。直ニ之

ヲ受<sub>ウケ</sub>テ報<sub>ムクヒ</sub>〔サル〕ヲ謂<sub>レ</sub>。南<sub>一</sub>方ハ風<sub>一</sub>氣。柔<sub>一</sub>弱。

故ニ含<sub>一</sub>忍ノ力 人ニ勝<sub>マサレル</sub>ヲ以テ強ト為ス 君<sub>一</sub>子

ノ道ナリ

金<sub>一</sub>革ヲ衽<sub>シキイニシ</sub>テ死<sub>スレトモイトハ</sub>シテ厭<sub>レ</sub>〔サ〕ル。北<sub>一</sub>方ノ強ナリ。

而<sub>シ</sub>テ強<sub>一</sub>者<sub>一</sub>。居<sub>フリ</sub>

衽<sub>シム</sub>ハ席。金ハ戈<sub>一</sub>兵ノ属<sub>タクヒ</sub>。革ハ甲<sub>カウ</sub>一冑<sub>ナウ</sub>ノ属<sub>タクヒ</sub>。北<sub>一</sub>

方ハ風<sub>一</sub>氣。剛<sub>コハクツヨシ</sub>勁。故ニ果<sub>一</sub>敢ノ力。人ニ勝タル



〔ヲ〕強ト為〔ス〕強一者ノ事ナリ

故ニ君一子ハ和シテ流セ〔ス〕。強一哉<sup>サイトシ</sup>テ矯<sup>ケウ</sup>ナリ 中

立シテ倚セ〔ス〕。強一哉トシテ矯ナリ 国。道有〔ル〕

トキハ。変セ<sup>2</sup>〔ス〕シテ塞<sup>ソク</sup>ス 強一哉トシテ矯ナリ。国

道無〔キ〕トキハ。死ニ至〔ル〕マテニ。変セ〔ス〕。

強一哉トシテ矯ナリ

此ノ四ツノ者ハ。汝 當ニ強<sup>コハク</sup>スヘキ所ナリ。矯ハ

強<sup>フバキ</sup>貌。詩ニ曰。矯一矯タル虎一臣トイヘルハ是ナ

リ。倚〔ハ〕偏<sup>ツクソ</sup>ニ著。塞ハ未タ達セサルソ。国。

道有〔ル〕トキハ。変セ〔ス〕ハ。未一達ノ守ル所

ナリ。国 道無〔キ〕トキハ。変セ〔ス〕ハ。平一

生ノ守ル所ナリ。此。則。所一謂 中一庸ノ能<sup>ヨク</sup>ス可

〔ラ〕〔サ〕ル者<sup>モノ</sup>ナリ。自ラ其ノ人一欲ノ私ニ勝〔ル〕

コト有〔ル〕ニ非〔スン〕ハ。扱〔ン〕テ守〔ル〕

コト能〔ハ〕〔ス〕。君一子ノ強。孰<sup>イツレ</sup>カ是 大ナラ

ム。夫一子。是ヲ以テ子一<sup>1</sup>路ニ告〔ク〕コトハ。其

ノ血一<sup>1</sup>氣ノ剛ヲ抑<sup>フサヘ</sup>テ之ヲ進ムルニ徳一義ノ勇ヲ以

〔テ〕スル所一以ナリ

右 第十ノ章

子曰 隱<sup>カクレタルヲモトメ</sup> 素<sup>アヤシキ</sup>。恠<sup>ヲコナ</sup>ヲ行〔ヒ〕テ後一<sup>1ノヘラル、</sup>世ニ述<sup>1</sup> コ

ト有ルコトハ。吾レ之ヲ為〔ス〕

素ハ漢一書ヲ按スルニ。當ニ索<sup>サク</sup>ニ作〔ル〕〔ヘ〕シ。

蓋〔シ〕。字ノ誤ナラン。隱ヲ索<sup>モトメ</sup>テ恠ヲ行フトハ。

言ハ深ク隱<sup>イム</sup>一僻ノ理ヲ求ム 而テ過<sup>スコシ</sup>テ詭<sup>クヰ</sup>一異ノ行

ヲ為<sup>ナス</sup>。然モ。其レ以テ世ヲ欺<sup>アサムイテ</sup> 名ヲ盜<sup>ヌスム</sup>ニ足レルヲ

以〔テ〕ス 故ニ。後一<sup>1</sup>世。或ハ之〔ヲ〕称一述ス

ル者ノ有〔リ〕。此 知<sup>1</sup>ノ過<sup>アヤマ</sup>テ善ヲ扱〔ハ〕〔ス〕。

行ノ過<sup>アヤマ</sup>テ其ノ中ヲ用〔ヒ〕〔ス〕。當ニ強<sup>2</sup>ヘカラス

シテ強<sup>ツトメタル</sup>者ノナリ。聖一人。豈ニ之ヲ為<sup>セムヤ</sup>哉

君一子ハ道ニ遵<sup>シタカ</sup>〔ヒ〕テ行フ。半一塗ニシテ廢<sup>ヤム</sup>。吾

已<sup>ヤム</sup>コト能〔ハ〕〔ス〕

道ニ遵〔ヒ〕テ行〔フ〕ト云ハ。則。能〔ク〕善ヲ

扱〔フ〕。半一塗ニシテ廢〔ト云ハ〕カノ足ラ〔サ

ル)ナリ。此 其ノ知。以テ及フニ足レリト雖〔モ〕  
而モ行 遠〔サル〕コト有〔リ〕 當ニ強ヘクシテ  
強〔サル〕者ノナリ。已ハ止。聖一人 此ニ於テ勉  
ニ非〔ス〕。敢テ廢〔ス〕。蓋〔シ〕至一誠。息  
コト無レハ。自〔ラ〕止コト能〔ハ〕〔サル〕所有  
リ

君一子ハ中一庸ニ依。世ニ遯テ知レサレトモ。悔〔ヒ〕  
〔ス〕。唯。聖一者。能ス

隱タルヲ索テ恠ヲ行〔フ〕コトヲ為〔サ〕〔ス〕  
。中一庸ニ依ル而一已。半一塗ニシテ廢コト能〔ハ〕  
〔ス〕。是以テ世ニ遯テ知〔ラ〕レ〔サレ〕トモ  
。悔〔ヒ〕〔ス〕。此レ。中一庸ノ成一徳。知 尽。  
仁ノ至レル。勇ニ頼〔ス〕シテ裕一如ナル者ナリ  
正ニ吾カ夫一子ノ事ナリ。而〔テ〕。猶。自〔ラ〕  
居〔ス〕。故ニ唯。聖一者。之ヲ能スルト曰〔フ〕  
而一已

右 第十一ノ章

第十一章 第十二章

子一思カ引〔ク〕所ノ。夫一子ノ言ナリ。以テ首ノ  
章ノ義ヲ明〔ス〕コトノ此ニ止ル。蓋〔シ〕此ノ篇  
ノ大旨。知。仁。勇。三ヲ以テ徳ニ達シテ道ニ入  
ルノ門ト為ス。故ニ篇ノ首〔メ〕ニ於テ即。大舜  
顔一淵 子一路カ事ヲ以〔テ〕之レヲ明ス 舜ハ  
。知。顔一淵ハ。仁。子一路ハ。勇。三ノ者ノ其ノ  
一ヲ廢 以テ道ニ造テ徳ヲ成スコト無〔シ〕 餘  
ハ第二十ノ章ニ見〔ヘ〕タリ

君一子ノ道ハ費ニシテ隱ナリ

費ハ符一味ノ反 ○費ハ用ノ広キナリ。隱ハ体ノ微  
ナルナリ

夫一婦ノ愚モ。以テ知ルニ與 可シ。其ノ至 二及〔ン〕  
テハ。聖一人ト雖〔モ〕。亦。知〔サル〕所有リ。夫一  
婦ノ不肖モ。以テ能〔ク〕行フ可〔シ〕。其ノ至レル  
〔ニ〕及〔ン〕テハ。聖一人ト雖〔ヘ〕トモ。亦。能  
〔サル〕所有〔リ〕。天一地ノ大ヲモ。人。猶。憾 所有

〔リ〕。故ニ君一子 大ヲ語カタルトキハ 天一下 能ク載ノスル コト莫

シ。小ヲ語〔ル〕トキハ天一下 能ク破ヤブル コト莫シ

與ハ去一声 ○君一子ノ道ハ。近ク夫一婦。居一室

ノ間 自〔リ〕遠クシテ聖一人 天一地ノ尽 コト

能〔ハ〕〔サ〕ル所ニ至ル。其〔ノ〕大。外無ク。

其〔ノ〕小。内無シ 費ナリト謂ツ可シ。然モ。其

ノ理ノ然ル所 以ハ隱ニシ〔テ〕之ヲ見ル莫シ。蓋

〔シ〕。知〔ル〕可〔シ〕。能クス可キ者ハ道一中ノ

一事ナリ。其ノ至レルニ及〔ン〕テ聖一人モ知

〔ラ〕〔ス〕。能〔ハ〕〔ス〕ト云〔ハ〕。全一体ヲ 挙

テ言トキハ。聖一人モ。固ニマコト 尽〔ス〕コト能〔ハ〕

〔サル〕所有リ。侯一氏カ 曰。聖一人ノ知〔ラ〕〔サ

ル〕ト云ハ。孔一子 礼ヲ問ヒ。官ヲ問フ類ノ如ソ。

能〔サル〕所ト云ハ孔一子ノ位ヲ 得〔ス〕。堯 舜

博ク施〔ス〕コトヲ病ヤムト云 類ノ如ソ 愚。謂オモヘラク。

人ノ天一地ヲ 憾ウラムル 所ト云ハ。覆一載 生一成ノ 偏。

及〔ヒ〕。寒一暑 災一祥ノ 其ノ正ヲ得〔サル〕如

キ者ナリモノ

詩ニ云。鳶エム。飛テ天ニイタル 戾。魚フチ。淵ニヲトル 躍。言ハ其レ。上

下 察アキラカ ナリ

鳶ハ余一專ノ 反 ○詩。大一雅。早一麓ノ 篇ナリ。

鳶ハ鷓〔ノ〕類。戾ハ至。察ハ著チヨ。子一思。此ノ詩

ヲ引〔テ〕以テ化一育。流一行。上一下 昭一著ニ

シテ此ノ理ノ用ニ非〔スト〕云コト莫〔キ〕コトヲ

明ス。所 謂。費ナリ。然モ。其ノ然ル所 以ノ者

ノハ。見一聞ノ 及〔フ〕所〔ニ〕非〔ス〕。所 謂

隱ナリ。故〔ニ〕程一子カ 曰。此ノ一節ハ 子一

思 喫緊〔ニ〕人〔ノ〕為タメニスル。処。活一潑一 潑一

地ナリ。読マム者ノ宜〔シ〕ク思ヲ致〔ス〕ヘシ

君一子ノ 道ハ。端ヲ夫一婦ニ 造ナス。其ノ至レルニ及〔ン〕

テハ。天一地ニ 察アキラカナリ

上ノ文ヲ結ス

右第十二ノ章ハ子一思カ 言コトナリ。蓋〔シ〕。以テ首ノ章

ノ道ハ離ル可〔ラ〕〔ス〕ト云意ヲ申カサネ 明ス。其ノ下モ

ノ八一章ハ雜<sup>マシヘ</sup>テ孔<sup>コト</sup>子<sup>コト</sup>ノ言<sup>コト</sup>ヲ引<sup>コト</sup>テ以<sup>アカ</sup>テ明<sup>アカ</sup>ス

子曰 道<sup>ト</sup>ハ人<sup>ト</sup>ニ遠<sup>ト</sup>シカ<sup>ラ</sup>ス。人<sup>ノ</sup>道<sup>ヲ</sup>ヲ為<sup>シ</sup>テ人<sup>ニ</sup>遠<sup>キ</sup>ハ。以<sup>テ</sup>道<sup>ト</sup>為<sup>ス</sup>可<sup>ク</sup>〔ラ〕〔ス〕

道<sup>ハ</sup>性<sup>ニ</sup>率<sup>テ</sup>而<sup>レ</sup>已<sup>マ</sup>。固<sup>マ</sup>ニ衆<sup>一</sup>人<sup>ノ</sup>能<sup>ク</sup>知<sup>リ</sup>。能<sup>ク</sup>行<sup>フ</sup>所<sup>〔</sup>ノ<sup>〕</sup>者<sup>ナ</sup>リ。故<sup>ニ</sup>常<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>遠<sup>カラ</sup>〔ス〕。

若<sup>モシ</sup>道<sup>ヲ</sup>為<sup>ス</sup>者<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>卑<sup>一</sup>近<sup>ナル</sup>コト<sup>ヲ</sup>厭<sup>イ</sup>テ以<sup>テ</sup>為<sup>ス</sup>二足<sup>〔</sup>ラ<sup>〕</sup>〔ス〕ト<sup>シ</sup>テ反<sup>カ</sup>ヘテ務<sup>ツ</sup>テ高<sup>一</sup>遠<sup>ニ</sup>シテ行<sup>ヒ</sup>

難<sup>キ</sup>事<sup>〔</sup>ヲ<sup>〕</sup>為<sup>セ</sup>ハ道<sup>ト</sup>為<sup>ス</sup>所<sup>一</sup>以<sup>テ</sup>二非<sup>ス</sup>

詩<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup>。柯<sup>ヲ</sup>伐<sup>キ</sup>リ。柯<sup>ヲ</sup>伐<sup>キ</sup>ル。其<sup>ノ</sup>則<sup>一</sup>。遠<sup>カラ</sup>〔ス〕。

柯<sup>ヲ</sup>執<sup>〔</sup>リ<sup>〕</sup>テ以<sup>テ</sup>柯<sup>ヲ</sup>伐<sup>キ</sup>ル。睨<sup>テ</sup>視<sup>ル</sup>。猶<sup>以</sup>テ遠<sup>ト</sup>ト為<sup>ス</sup>。故<sup>ニ</sup>君<sup>一</sup>子<sup>ハ</sup>。人<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>人<sup>ヲ</sup>治<sup>ム</sup>。改<sup>ルト</sup>キニシテ止<sup>ム</sup>

睨<sup>ハ</sup>研<sup>一</sup>計<sup>ノ</sup>反<sup>一</sup>。○詩。豳<sup>一</sup>風。伐<sup>一</sup>柯<sup>ノ</sup>篇。柯<sup>ハ</sup>斧<sup>ノ</sup>柄<sup>。則</sup>ハ法<sup>。睨</sup>ハ邪<sup>一</sup>視<sup>。言</sup>ハ人<sup>。柯</sup>ヲ執

〔リ〕テ木<sup>ヲ</sup>伐<sup>キ</sup>テ柯<sup>ニ</sup>為<sup>者</sup>ノ。彼<sup>ノ</sup>柯<sup>ノ</sup>長<sup>一</sup>短<sup>ノ</sup>法。此<sup>ノ</sup>柯<sup>ニ</sup>在<sup>〔</sup>ル<sup>〕</sup>耳<sup>。然</sup>モ。猶<sup>。彼</sup>一此<sup>ノ</sup>別<sup>有</sup>

第十二章 第十三章

〔リ〕。故<sup>ニ</sup>伐<sup>者</sup>ノ之<sup>ヲ</sup>視<sup>テ</sup>猶<sup>以</sup>テ遠<sup>シ</sup>ト為<sup>ス</sup>。若<sup>シ</sup>人〔ヲ〕以<sup>テ</sup>人<sup>ヲ</sup>治<sup>〔</sup>メ<sup>〕</sup>ハ。人<sup>ノ</sup>道<sup>ト</sup>為<sup>ス</sup>所<sup>一</sup>以<sup>テ</sup>。

各<sup>。當</sup>一<sup>人</sup>ノ身<sup>ニ</sup>在<sup>〔</sup>リ<sup>〕</sup>テ初<sup>ヨリ</sup>彼<sup>一</sup>此<sup>ノ</sup>別<sup>無</sup>シ。

故<sup>ニ</sup>君<sup>一</sup>子<sup>ノ</sup>人<sup>ヲ</sup>治<sup>〔</sup>ム<sup>〕</sup>コト。即<sup>。人</sup>ノ道<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>還<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>身<sup>ヲ</sup>治<sup>ム</sup>。其<sup>ノ</sup>人<sup>。能</sup>ク。改<sup>〔</sup>メ<sup>〕</sup>

ハ。即<sup>止</sup>テ治<sup>メ</sup>〔ス〕。蓋<sup>シ</sup>。之<sup>ヲ</sup>責<sup>ム</sup>。其<sup>ノ</sup>能<sup>〔</sup>ク

知<sup>リ</sup>。能<sup>〔</sup>ク行<sup>フ</sup>所<sup>ヲ</sup>以<sup>〔</sup>テ。人<sup>ニ</sup>遠<sup>シ</sup>〔テ〕

道<sup>ト</sup>為<sup>ス</sup>。欲<sup>ス</sup>ルニ非<sup>ス</sup>。張<sup>一</sup>子〔カ〕所<sup>一</sup>謂<sup>。衆</sup>

人<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>人<sup>ニ</sup>望<sup>〔</sup>ハ<sup>〕</sup>從<sup>カ</sup>ヒ易<sup>シ</sup>トイ<sup>ヘル</sup>。是<sup>ナ</sup>

リ

忠<sup>一</sup>恕<sup>ノ</sup>道<sup>ヲ</sup>違<sup>コト</sup>。遠<sup>カラ</sup>〔ス〕。己<sup>ニ</sup>施<sup>シ</sup>テ願<sup>ハ</sup>

〔サル〕ヲハ。亦<sup>。人</sup>ニ施<sup>〔</sup>ス<sup>〕</sup>コト勿<sup>レ</sup>

己<sup>カ</sup>心<sup>ヲ</sup>尽<sup>〔</sup>ス<sup>〕</sup>ヲ忠<sup>ト</sup>為<sup>ス</sup>。己<sup>レ</sup>ヲ推<sup>シ</sup>テ人<sup>ニ</sup>及

〔スヲ〕恕<sup>ト</sup>為<sup>ス</sup>。違<sup>ハ</sup>去<sup>。春</sup>一秋<sup>一</sup>伝<sup>ニ</sup>齊<sup>ノ</sup>師

穀<sup>ヲ</sup>違<sup>コト</sup>。七<sup>一</sup>里<sup>ト</sup>イ<sup>ヘル</sup>違<sup>ノ</sup>如<sup>シ</sup>。言<sup>ハ</sup>此<sup>レ</sup>自

〔リ〕。彼<sup>ニ</sup>至<sup>〔</sup>リ<sup>〕</sup>テ。相<sup>去</sup>コト遠<sup>カラ</sup>〔ス〕。

背<sup>テ</sup>之<sup>ヲ</sup>去<sup>謂</sup>ニハ非<sup>ス</sup>。道<sup>ハ</sup>即<sup>。其</sup>ノ人<sup>ニ</sup>遠<sup>カラ</sup>

ストイヘル者ノ是(ナリ)己(ニ)施シ(テ)願ハ(サ)ルヲ。亦。人ニ施(ス)コト勿キハ忠一恕

ハ行ヲ願<sup>カスリミ</sup>。行ハ言ヲ願ル。君一子。胡。慥一慥一爾<sup>5</sup>ニセサラム

ノ事 己(カ)心(ヲ)以(テ)人ノ心ヲ度<sup>ハカル</sup>(ハ)未タ嘗テ同(カラ)(ス)ハアラス。道ノ人ニ遠

子。臣。弟。友ノ四字ハ絶一旬 ○求ハ猶ヲ責ノ(コト)シ。道ノ人ニ遠(カラ)(サ)ルコトハ。凡

(カラ)(サル)ヲハ見ツ可シ。故ニ己カ欲セ(サル)所ヲハ。以テ之ヲ人ニ施(ス)コト勿レ 亦。人

。己ノ人ニ責<sup>6</sup>(ル)所一以ノ者ノハ皆 道ノ當ニ然ルヘキ所ナリ。故(ニ)之ヲ反<sup>カヘシ</sup>テ以テ自(ラ)責<sup>セメ</sup>

(ニ)遠(カラ)(ス)シテ以テ道ヲ為事ナリ。張一子カ所一謂。己ヲ愛スル心(ヲ)以テ人ヲ愛セハ仁

テ自(ラ)脩<sup>ヲサ</sup>ム。庸ハ平一常。行フト云ハ其ノ実ヲ踐<sup>フ</sup>(ム)。謹ハ。其ノ可ナルヲ扱フソ。徳。足(ラ)

ヲ尽セント云是ナリ 君一子ノ道。四ツ。丘 未タ一ヲモ能(ク)セス。子ニ

(サ)ルヲ勉<sup>ツトムルトキハ</sup>。則。行<sup>オコナフ</sup>コト益<sup>マス</sup>力<sup>コト</sup>。言。餘有(リテ) 訥<sup>カタウスルトキハ</sup>。謹<sup>ツツ</sup>コト益<sup>マス</sup>至<sup>ツツ</sup>ル。謹<sup>ツツ</sup>コト至

求<sup>4モトムル</sup>所。以(モ)テ父(ニ)事(フル)コト未タ能<sup>アタハ</sup>ス。臣ニ求(ル)所。以(モ)テ君ニ事(フル)コト

レハ言ハ行ヲ願ル 行<sup>ヲコナフ</sup>コト力<sup>ツトムレ</sup>ハ行。言ヲ願ル<sup>7</sup> 慥一慥ハ。篤一実ノ貌。言ハ君一子ノ言一<sup>7</sup>行。此ノ

未タ能<sup>アタハ</sup>ス。弟ニ求(ル)所。以(モ)テ兄ニ事(フル)コト

如シ。豈。慥一慥ニセ(サ)ラム乎<sup>ヤト云ハ</sup> 之レヲ賛一美(ス)。凡 此ハ皆。人ニ遠(カラ)(サル)以(ヲ)

之ヲ施(ス)コト未タ能ハス 徳ヲ庸<sup>ツネニシ</sup>テ行<sup>ヲコナヒ</sup>ス 言ヲ庸<sup>ツネニシ</sup>テ謹<sup>ツツ</sup>。足(サル)所有(ル)トキハ。敢テ勉メス

(モ)テ道ヲ為事ナリ。張一子カ所一謂。人ヲ責<sup>セムル</sup>心(ヲ)以テ己ヲ責<sup>セメ</sup>ハ道ヲ尽<sup>ツクサムト云</sup> 是ナリ

ハアラ(ス)。餘リ有(ル)トキハ。敢テ尽<sup>ツクサ</sup>(ス)。言<sup>コト</sup>

右 第十三ノ章

道。人ニ遠ラ（ス）ト云ハ。夫一婦ノ能<sup>8</sup>所<sup>ヨクスル</sup>。丘

未〔タ〕一能<sup>ツモ</sup>〔ク〕セスト云ハ。聖一人能<sup>9,10</sup>〔サ〕

ル所。皆。費。而テ其ノ然ル所一以ノ者ノハ至一隱

。存ス。下ノ章。此ニ放<sup>ナラハ</sup>

君一子ハ其ノ位ニ素<sup>ムカフ</sup>テ行<sup>オコナフ</sup>。其ノ外ヲ願ハ（ス）

素ハ猶ヲ見一在ノ（コト）シ。言ハ君一子。但見一

在ノ居ル所ノ位ニ因〔リ〕テ其ノ當<sup>マサニス</sup>為ヘキ所ヲ為<sup>シ</sup>

テ其ノ外ヲ慕<sup>ネカフ</sup>心無シ

富一貴〔ニ〕素<sup>ムカ</sup>テ富一貴ヲ行フ。貧一賤ニ素テ貧一賤ヲ

行フ。夷一狄ニ素テ夷一狄を行フ。患<sup>クワン</sup>一難ニ素テ患<sup>ナム</sup>一難

ヲ行フ。君一子ハ入ルトシテ自一得セスト云コト無シ

難ハ去一声 ○此ハ其ノ位ニ素〔テ〕行コトヲ言フ

上―位ニ在テ下―位ヲ陵<sup>シノカ</sup>（ス） 下―位ニ在テ上ヲ援<sup>ヒカ</sup>

（ス）。己<sup>ヨフレ</sup>ヲ正<sup>タ、シウシ</sup> 人ニ求〔メ〕（サル）トキハ。則<sup>ウラミ</sup>。怨

無〔シ〕。上<sup>カミ</sup>。天ヲモ怨〔ミ〕（ス）。人ヲモ尤<sup>トカメ</sup>（ス）

援ハ平―声 ○此ハ其ノ外ヲ願〔ハ〕（サル）コト

ヲ言フ

故ニ君一子ハ易<sup>ヤスキ</sup>ニ居テ以テ命ヲ侯<sup>マツ</sup>。小一人ハ險ヲ行テ

以テ徼<sup>ゲル</sup>一幸ス

易ハ去―声 ○易ハ平―地 易ニ居〔ル〕コトハ位

ニ素テ行<sup>ヲコナフ</sup>。命ヲ俟ト云ハ外ヲ願〔ハ〕（サル）ル。

徼ハ求。幸ハ謂ユル。當ニ得ヘカラ（サル）所ニシ

テ得タル者ナリ

子曰。射ハ君一子ニ似<sup>ノレル</sup>コト有〔リ〕。正一鵠ニ失スルト

キハ。反ヘテ其ノ身ニ求〔ム〕

正カ音ハ征。鵠ハ工一毒ノ反 ○布ニ画〔ク〕ヲ正

ト曰フ 皮ニ棲<sup>スマシムル</sup> ヲ鵠ト曰フ。皆侯ノ中。射ノ的<sup>テキ</sup>

ナリ。子一思。此ノ孔一子ノ言ヲ引テ以テ上文ノ意

ヲ結ス

右 第十四ノ章

子思カ言。凡。章ノ首<sup>ハシメ</sup>ニ子一曰ノ字無〔キ〕ハ。

此ニ放<sup>ナラハ</sup>

君一子ノ道ハ辟タトヘハ遠キニ行カユク必ス一チ邇自チカキヨリスルカ如シ  
辟タトヘハ高キニ登ルカト必ス一チ卑ミシカキ自スルカ如シ  
辟ハ譬ト同シ

詩二曰。妻一子。好一合ス。瑟一琴ヲ鼓コスルカ如シ。兄一弟。既二翁アフテ和一樂シテ且耽マタクノシク。爾ノ室一家ニ宜シ。爾ノ妻一帑ラクヲ樂ス

好ハ去声。耽タムハ詩ニハ謔タムニ作ル。亦ノ音ハ耽タム。樂ノ音ハ洛。○詩。小一雅。棠一棣テイノ篇。瑟一琴ヲ鼓コスルカ如シ。兄一弟。既二翁アフテ和一樂シテ且耽マタクノシク。爾ノ室一家ニ宜シ。爾ノ妻一帑ラクヲ樂ス

子一孫  
子曰。父一母ハ其レ順ナラムカ  
夫一子。此ノ詩ヲ誦シテ賛ホメテ曰。人。能。妻一子ヲ和ヤワラ一ケ。兄一弟ニ宜ヨロシキコト。此ノ如クナレハ。父一母。其レ。之レヲ安一樂セム。子一思。詩ヲ引キ。テ此ノ語ニ及ニ一ン。テ以テ遠トヲキニ行コト邇ユクキ自ヨリシ。高キニ登ト一ル。コト卑ヒキ自スル意ヲ明ス

右 第十五ノ章

子曰。鬼一神ノ徳タケ為コト。其レ盛ナル矣カナ乎  
程一子カ曰。鬼一神ハ天一地ノ功一用ニシテ造ザウ一化ノ迹ナリ。張一子カ曰。鬼一神ハ。二一氣ノ良一能ナリ。愚。謂ヲモムミルニ。二一氣ヲ以テ言トキハ。鬼ハ陰ノ靈ナリ。神ハ。陽ノ靈ナリ。一一氣ヲ以テ言ヘハ。至ニ一リテ伸ノブル者ノヲ神ト為ス。反カヘテ帰キスル者ノヲ鬼ト為ス。其ノ実ハ一物ナル而已。徳タケ為タリト云ハ。猶ナヲ性セイ一情。功一効カウト言カイハム一コトシ

視ミレトモ。見ミエ一ス。聽キケトモキコヘ。聞ク一ス。物ニ体シテ遺ノコス可カ一ラ鬼一神ハ。形ト声ヘト無ナシ一クシテ然シカリ。物ノ終一始。陰一陽。合一散ノ為所スルニ非ナシ一スト云コト莫シ。是レ其ノ物ノ体ト為テ物。遺ノココト能カ一ハ一サル所。物ニ体スト言ハ。猶ナヲ易ノ所ト云謂フ。事ナスト云ヲ幹カ一カ一コトシ

天一下ノ人ヲ使シテ齊セイ一明。盛一服シテ以テ祭一祀シニ承ツカフマ

ツラ  
シム。洋一洋一呼コトシテ其ノ上カミニ在アルカ如シ 其ノ左一右  
ニ在カ如シ

齊サイハ側一皆ソレ〔ノ〕反 ○齊サイカ言タル為スコト。齊。不レ齊サイヲ齊ト、ノ、ハテ其ノ齊サイヲ致ス所ヲ以テナリ。明ハ猶モヲ潔クノ

(コト)シ。洋一洋ハ。流一動。充一満ノ意ナリ。

能ク。人ヲ(シ)テ畏ラソリ敬ツ、シムテ奉一承シテ発一見。

昭一著ナラ使シムルコト。此ノ如シ。乃。其ノ物ニ体シテ

遺ノコス可レ〔ラ〕(サ)ル驗シルシナリ。孔子ノ曰。其ノ氣

。上ニ発一揚シ昭一明ヲ為ス。君一蒿。悽一愴ハ

。此 百一物ノ精ナリ。神ノ著アラハル、ナリ 正マサニ此ヲ謂

フ爾ノミ

詩〔二〕曰。神ノ格キタルヲハ。度ハカル可レ〔ラ〕(ス)。矧イハムヤイトフ射射

可ヘケムヤ

度ハ待一洛〔ノ〕反。射カ音 亦。詩ニハ數エキニ作ツクル

○詩。大一雅。抑ヨクノ篇。格ハ来。矧シムハ況キヤウ。射エキハ厭。

言ハ厭イトヒ怠オコトテ敬セ(サラ)ンヤ。思ハ語コトハノ辞

夫レ微レヨリ顯ユクニ之。誠オホフノ揜ホフ可レ〔ラ〕(サ)ルコト。此ノ

如キカ

夫カ音ハ扶 ○誠ハ。真一実 無一妄マウノ謂イヒ。陰一陽  
ノ合ツ散。実ニ非ル者ノ無〔シ〕。故ニ發アラハレミヘ見オホフテ揜

右 第十六章

見〔ヘ〕(ス)。聞〔ヘ〕(サ)ルハ。隱ナリ。物ニ体シ

テ在アルカ如〔ク〕ナルハ。亦費ナリ。此ノ前ノ三章

ハ其ノ費スコシキナル小者ヲ以〔テ〕言フ。此ノ後ノ三章

ハ。其ノ費ナルノ大者ヲ以テ言。此一章ハ費一隱

ヲ兼。大一小ヲ包カネテ言フ

子曰。舜ハ其レ大一孝カ。德。聖一人為。尊タリ天一子為タリ。

富トミ。四一海ノ内ウヲ有タモツ。宗一廟。饗ウケ。子一孫 保ヤスム

與ハ平一声 ○子一孫ト云ハ虞ノ思 陳ノ胡一公ノ

屬タクヒヲ謂

故ニ大一徳ハ必。其〔ノ〕位クラ井ヲ得。必 其ノ祿ウヲ得。

必 其ノ名ナヲ得。必其〔ノ〕壽シユウヲ得



第十七章 第十八章

舜ノ年。百一有十一歳

故二天 物ヲ生スルコト。必。其ノ材ニ因〔リ〕テ篤

ス。故二栽者ノヲハ培。傾者ノヲハ覆ス

材ハ質。篤ハ厚。栽ハ植。氣。至〔リ〕テ滋息

スルヲハ培ト為。氣反テ遊散スルトキハ覆ス

詩〔二〕曰 君一子〔ヲ〕嘉一樂〔ス〕 憲一憲タル令一

徳アリ 民ニ宜ク人ニ宜シ。禄ヲ天ニ受ク。保一佑シテ

命ス。天 自〔リ〕。申

詩。大一雅。假一樂ノ篇。假ハ當ニ此ニ依〔リテ〕

嘉ニ作ル〔ヘシ〕。憲〔ハ〕當ニ詩ニ依〔リ〕テ顯

ニ作〔ル〕〔ヘシ〕。申ハ重

故二大一徳ハ。必 命ヲ受ク

命ヲ受〔ク〕トハ天一命ヲ受〔ケ〕テ天一子為

右 第十七ノ章

此 庸一行ノ常ニ由〔リ〕テ之ヲ推〔シ〕テ以テ其

ノ至〔ル〕ヲ極〔ム〕 道ノ用ノ広キコト〔ヲ〕見

ハス。而シテ然ル所一以〔ノ〕者ヲ体一微ト為。後ノ

二一章。亦。此ノ意ナリ

子曰。憂無キ者ノハ。惟文一王カ。王一季ヲ以テ父ト

為。武一王ヲ以テ子ト為ス 父作。子述

此ハ文一王ノ事ヲ言。書ニ王一季 其レ王一家ニ勤

〔ヲ〕言 蓋〔シ〕。其ノ作所ハ。亦。功ヲ積

仁ヲ累 事ナリ

武一王。大一王。王一季。文一王ノ緒ニ續テ壹タヒ。戎一

衣テ天一ト下ヲ有。身。天一ト下ノ顯一ト名ヲ失〔ス〕 尊

天一子為。富。四一海ノ内ヲ有ツ。宗廟饗。子一孫

保ス

大カ音ハ泰。下モ同 ○此ハ武一王ノ事ヲ言。續ハ

繼 大一王ハ王一季ノ父ナリ。書云。大一王。肇

テ王一迹ヲ基。詩ニ云。大一王ニ至〔リ〕テ実ニ

始〔メ〕テ商ノ緒一業ヲ翦。戎一衣ハ甲一冑ノ

屬。壹タヒ。戎一衣ト云ハ武一成ノ文ナリ。言ハ

一タヒ戎一衣ヲ著テ以テ紂スルヲ伐ツ

武一王 末<sup>フビ</sup>テ命ヲ受ク。周一公。文武ノ徳ヲ成シテ大一王。王一季ヲ追<sup>ツイ</sup>一王シテ上<sup>カミ</sup>。先一公ヲ祀<sup>ヒ</sup>「ル」ニ天一子ノ礼ヲ以<sup>テ</sup>「テ」ス。斯<sup>シ</sup>礼。諸一侯。大一夫。及。士。庶一人ニ達ス。父<sup>チ</sup>。大一夫。為<sup>タリ</sup>。子士<sup>タルトキハ</sup>。為<sup>ス</sup>。葬フルニ大一夫ヲ以<sup>テ</sup>「テ」シ。祭ルニ士ヲ以<sup>テ</sup>「テ」ス。父士<sup>タリ</sup>。為<sup>ス</sup>。子大一夫。為<sup>ス</sup>トキハ葬フルニ士「ヲ」以<sup>テ</sup>「テ」シ。祭ルニ。大一夫ヲ以<sup>テ</sup>「テ」ス。期ノ喪ハ大一夫ニ達ス。三一年ノ喪ハ天一子ニ達<sup>ス</sup>「ス」父一母ノ喪ハ。貴一賤無<sup>ク</sup>「ク」一<sup>ヒトツナリ</sup>

追一王ノ王ハ。去一<sup>シ</sup>声 ○此ハ周一公ノ事ヲ言。末ハ猶ヲ老ノ<sup>コト</sup>シ。追一王。蓋<sup>シ</sup>「シ」。文武ノ意ヲ推<sup>シ</sup>「シ」テ以テ王一迹ノ起<sup>オコル</sup>所ニ及<sup>フ</sup>。先一公ト云ハ。組<sup>ソ</sup>一紺<sup>カムヨリ</sup>以<sup>テ</sup>上<sup>ジャウ</sup>。后一稷<sup>ニ</sup>至ルマテソ。上。先一公ヲ祀<sup>ル</sup>「ル」ニ。天一子ノ礼ヲ以<sup>テ</sup>「テ」ス。又 大一王。王一季ノ意ヲ推<sup>フシ</sup>テ以テ無一窮ニ及<sup>ホ</sup>「ホ」ス。制<sup>シ</sup>「シ」テ礼一法ト為テ以テ天一<sup>下</sup>「ニ」及<sup>ホシ</sup>「ホシ」葬ルニ死者ノ爵ヲ用井。祭ルニ

生一者ノ禄ヲ用井使 喪一服。期自<sup>リ</sup>。以一下。諸一侯。絶<sup>タツ</sup>。大一夫降<sup>クダ</sup>「リ」テ。父一母ノ喪ハ。上一下。同<sup>オナシク</sup>。己ヲ推<sup>シ</sup>「シ」テ以<sup>テ</sup>「テ」人ニ及<sup>ホ</sup>「ホ」ス

右 第十八ノ章

子曰。武一王。周一公ハ。其レ達一孝カ

達ハ通。上ノ章ヲ承<sup>ウケ</sup>テ武一王。周一公ノ孝ヲ言。乃天一下ノ人。通<sup>ス</sup>シテ之ヲ孝ト謂。猶ヲ孟一子ノ達一尊ト言カ<sup>コト</sup>シ

夫<sup>ソレ</sup>。孝ハ。善<sup>ヨク</sup>。人ノ志ヲ繼<sup>ツキ</sup>。善ク人ノ事ヲ述ル者ナリ

上ノ章ニハ武一王。大一王。王一季。文一王ノ緒ニ續<sup>ツイ</sup>テ以テ天一下ヲ有<sup>タモツ</sup>テ周一公 文一武ノ徳ヲ成<sup>オシ</sup>テ以テ追<sup>オツ</sup>テ先一祖ヲ崇<sup>アカメタルコト</sup>ヲ言。此レ志ヲ繼<sup>ツキ</sup>。事ヲ述<sup>オツ</sup>コトノ大ナル者ナリ。下ノ文。又。其ノ制スル所ノ祭<sup>セ</sup>一祀<sup>シ</sup>ノ礼。上一下ニ通<sup>ス</sup>「スル」者ヲ以<sup>テ</sup>「テ」之ヲ言

第十九章

春マウケ一秋ニハ其ノ祖オサメ一廟ヲ脩オサメ。宗オサメ一器ヲ陳シヤウイス。裳シヤウイ一衣ヲ設マウケ時シヨク一食スハムヲ薦スハム。

祖テキ一廟ハ。天テキ一子ハ七。諸オサメ一侯ハ五。大オサメ一夫ハ三。適オサメ一士ハ二。官オサメ一師ハ一。宗オサメ一器ハ先オサメ一世オサメ藏オサメ。

所オサメ一ノ重オサメ一器。周ノ赤オサメ一刀。大オサメ一訓。天オサメ一球。河オサメ一。凶オサメノ属オサメノ若オサメキソ。裳オサメ一衣ハ先オサメ一祖オサメノ遺オサメ。衣オサメ一服。

ナリ。祭オサメトキハ之オサメヲ設オサメケ以オサメテオサメ尸オサメヲ授オサメク。時オサメ一食ハ。四オサメ一時ノ食。各オサメ。其オサメノ物オサメ有オサメ一リ。春オサメハ羔オサメ一。

豚オサメヲ行オサメヒ。膏オサメ一香オサメヲ膳オサメ一スルノ類オサメノ如オサメキ。是オサメナリ。宗オサメ一廟オサメノ礼オサメハ。昭オサメ一穆オサメヲ序オサメ一スル所オサメ以オサメナリ。爵オサメヲ序オサメ一ハ。

貴オサメ一賤オサメヲ辨オサメ一スル所オサメ以オサメナリ。事オサメヲ序オサメルニ賢オサメヲ辨オサメ一スル所オサメ以オサメナリ。旅オサメ一酬オサメニ下オサメヲ上オサメト為オサメハ。賤オサメニ速オサメ一スル所オサメ以オサメナリ。

燕オサメ毛オサメコトハ齒オサメヲ序オサメ一スル所オサメ以オサメナリ。昭オサメハ字オサメノ如オサメ一シ。為オサメ一ハ去オサメ声オサメ。○宗オサメ一廟オサメノ次オサメ。

左オサメヲ昭オサメト為オサメシ。右オサメヲ穆オサメト為オサメ一シ子オサメ一孫オサメ。亦オサメ。以オサメテ序オサメト為オサメス。大オサメ一廟オサメニ事オサメ有オサメトキハ。子オサメ一姓オサメ。兄オサメ一弟オサメ。

羣オサメ一昭オサメ。羣オサメ一穆オサメ。咸オサメ在オサメテ其オサメノ倫オサメヲ失オサメ一セ一ス。

爵オサメハ公オサメ。侯オサメ。卿オサメ一大一夫オサメ。事オサメト云オサメハ宗オサメ一祝オサメ。有オサメ一司オサメノ職オサメ一事ソ。旅オサメハ衆オサメ。酬オサメハ導オサメ一飲オサメ。旅オサメ一酬オサメノ礼オサメ。弟オサメ一。

子オサメ。兄オサメ一弟オサメノ子オサメヲ賓オサメトシテ各オサメ。觶オサメヲ其オサメノ長オサメニ舉オサメ一ケ衆オサメ相オサメ一酬オサメ。蓋オサメ一シ。宗オサメ一廟オサメノ中オサメニハ。事オサメ。

有オサメ一ルヲ以オサメテ榮オサメト為オサメ。故オサメニ賤オサメ一者オサメニ逮オサメ一及オサメシテ亦オサメ。其オサメノ敬オサメヲ申オサメコトヲ得オサメ使オサメム。燕オサメ。毛オサメスト云オサメハ祭オサメリ。

畢オサメテ燕オサメスルトキハ。毛オサメ一髮オサメノ色オサメヲ以オサメテ長オサメ一幼オサメヲ別オサメテ坐オサメノ次オサメ一ト為オサメ。齒オサメハ年オサメ一數オサメ。

其オサメノ位オサメヲ踐オサメ。其オサメノ礼オサメヲ行オサメナヒ。其オサメ一ノ樂オサメヲ奏オサメシ。其オサメノ尊オサメスル所オサメヲ敬オサメシ。其オサメ一ノ親オサメスル所オサメヲ愛オサメシ。死オサメニ事オサメフル。

コト。生オサメニ事オサメ一フルカ如オサメク。亡オサメニ事オサメ一フルコト存オサメニ事オサメ一フルカ如オサメ一クスハ孝オサメノ至オサメレルナリ。

踐オサメハ猶オサメ一ヲ覆オサメノコト一シ。其オサメト云オサメハ。先オサメ一王オサメヲ指オサメス。尊オサメ一フ所オサメ。親オサメスル所オサメト云オサメハ。先オサメ一王オサメノ祖オサメ一。

考オサメ。子オサメ一孫オサメ。臣オサメ一庶オサメソ。始オサメテ死オサメセル。之オサメヲ死オサメト謂オサメ。既オサメニ葬オサメ一リテハ反オサメテ亡オサメ一ホスト曰オサメフ。皆オサメ。先オサメ一。

王オサメヲ指オサメ一ス。此オサメハ上オサメノ文オサメ。兩オサメ一節オサメヲ結オサメス。皆オサメ。志オサメ。

ヲ継キ。事ヲ述ル意ナリ

郊一社ノ礼ハ上一帝ニ事マツル所一以ナリ。宗一廟ノ礼ハ。其ノ先ヲ祀〔ル〕所一以ナリ。郊一社ノ礼。禘嘗ノ義ヲ明アキラカニシテ国ヲ治〔ル〕トキハ。其レ。掌タナコ、ロラシメス示如キカ

郊ハ天ヲ祀ル。社ハ地ヲ祭ル。后一土ヲ言〔ハ〕

〔サ〕ルコトハ。文ヲ省ハフク。禘ハ天一子宗一廟ノ大

祭ナリト云ハ追〔テ〕太一祖ノ自シタカテイテタル出所ヲ太一廟

ニ祭〔リテ〕太一祖ヲ以テ之ニ配ス。嘗ハ秋祭。四一

時。皆祭ル。其ノ一ヲ挙ル耳ノミ。礼ハ必。義有リ。

対シ〔テ〕之ヲ挙〔ケ〕テ文ヲ互タカヒニスルソ。示ハ視ト

。同シ。掌ニ視ト云ハ。言ハ見易ヤスキソ。此論一語ノ

文ノ意ト大ニ同ク。小異ナリ。記ニ詳一略有リ

右 第十九章

哀一公。政ヲ問

哀一公ハ魯ノ君。名ハ蔣

第十九章 第二十章

子曰。文。武ノ政ハ。布シテ方一策サクニ在リ。其ノ人。存スルトキハ。其ノ政。舉ス。其〔ノ〕人。亡スルトキハ。其ノ政。息イヤム

方ハ版。策ハ簡ヤム。息ハ猶〔ヲ〕滅〔ノ〕〔コト〕〔シ〕。是ノ君有〔リ〕是〔ノ〕臣有トキハ是ノ政有〔リ〕

人一道ハ政ヲ敏トク。地一道ハ樹ヲ敏トク。夫レ政ハ蒲盧ナリ

夫カ音ハ扶。○敏ハ速ソク。蒲一盧ハ沈一括シムクワツ。以テ蒲一

葦イトスル為是ナリ。人ヲ以テ政ヲ立ルコト。猶ヲ地ヲ

以テ樹ヲ種ウラル。其ノ成コト速ナルカ〔コト〕シ。蒲一

葦ハ又生シ易ヤスキ物ニシ〔テ〕其ノ成ルコト尤モ速

ナリ。言〔ハ〕人存シテ政ノ舉スルコト其ノ易ヤスキ

コト此ノ如シ

故ニ政〔ヲ〕為スルコト人ニ在〔リ〕。人ヲ取ルニ身ヲ以

〔テ〕ス。身ヲ脩ムルニ道ヲ以〔テ〕ス。道ヲ脩〔ムル〕

ニ仁ヲ以〔テ〕ス

此ハ上ノ文ノ人一道ハ政ヲ敏ト云ニ承テ言。政ヲ為コト人ニ在リト云。家一語ニハ政ヲ為コト人〔ヲ〕

得〔二〕在〔リ〕ト作ナス 語一意 尤モ備ナリ 人  
〔トハ〕賢一臣〔ヲ〕謂 身〔トハ〕君身〔ヲ〕指

〔ス〕道〔ハ〕天一ノ下ノ達一ノ道ナリ。仁ハ天一ノ地ノ  
物ヲ生スル心ナリ。而テ人ノ以テ生スルコト〔ヲ〕

得ル者ナリ。所一謂。元ハ善ノ長ナリ。言ハ人一君

ノ政ヲ為コト人ヲ得〔ル〕ニ在〔リ〕テ。人ヲ取ル

則。又。身ヲ脩ムルニ在〔リ〕。能〔ク〕其ノ身ヲ

仁スルトキハ。君 有〔リ〕。臣 有〔リ〕テ。政

。挙〔ケ〕〔サル〕ト云コト無シ

仁ハ。人ナリ。親ヲ親スルヲ大オホキト為ス。義ハ宜ナリ。

賢ヲ尊タトフルヲ大ナリト為ス。親ヲ親スル殺セキ。賢ヲ尊シテ等。

礼ノ生ナル 所ナリ

殺ハ去一ノ聲 ○人トハ人ノ身ヲ指〔シ〕テ言。此ノ

生一ノ理ヲ具ソナヘテ自一然〔二〕。便。惻一怛 慈一愛ノ

意 有〔リ〕。深ク体シテ之ヲ味アチハヒ 見ツ可シ。宜

〔ハ〕。事一ノ理ノ各 所一宜 有コトヲ分一別スル。

礼ハ斯ノ二ノ者ヲ節一文スル而クミ已ナリ

下位ニ在〔リ〕テ上ニ獲エラレ〔サル〕トキハ。民。得テ  
治〔ム〕可〔ラ〕〔ス〕

鄭一氏カ曰。此ノ句。下ニ在リ。誤テ重カサネ〔テ〕此  
ニ在〔リ〕

故〔二〕君一子ハ以テ身ヲ脩〔メ〕〔ス〕ハアル可〔ラ〕

〔ス〕 身ヲ脩ムルコトヲ思テ以テ親ニ事〔ヘ〕〔ス〕ハ

アル可〔ラ〕〔ス〕 親ニ事ツカフルコトヲ思〔テ〕以テ人ヲ知

〔ラ〕〔ス〕ハアル可〔ラ〕〔ス〕。人ヲ知〔ル〕コトヲ思

テ以テ天ヲ知〔ラ〕〔ス〕ハアル可〔ラ〕〔ス〕

政ヲ為コト人ニ在〔リ〕。人ヲ取〔ル〕ニ身ヲ以

〔テ〕ス。故ニ以テ身ヲ脩〔メ〕〔ス〕ハアル可〔ラ〕

〔ス〕。身ヲ脩ムルニ道ヲ以〔テ〕ス 道ヲ脩〔ムル〕

ニ仁〔ヲ〕以〔テ〕ス。故ニ身ヲ脩〔ムル〕コトヲ

思テ以テ親ニ事〔ヘ〕〔ス〕ハアル可〔ラ〕〔ス〕。親ヲ

親スル仁ヲ尽サムト欲セハ。必。賢ヲ尊フル義ニ由ヨル。

故ニ又。當ニ人ヲ知〔ル〕〔ヘシ〕。親ヲ親スル殺セキ。

賢ヲ尊フル等シテハ皆 天一ノ理ナリ。故ニ又。當ニ天ヲ

知〔ル〕（へ）シ

天―下ノ達―道 五。之ヲ行フ所 以ノ者ノ三。曰。君―臣。父―子。夫―婦。昆―弟。朋―友ノ交。五。者ノハ天―下ノ達―道ナリ。知。仁。勇。三。者ノハ天下ノ達―徳ナリ。之ヲ行フ所 以ノ者ノハ―ツナリ

知ハ去―声 ○達―道ハ。天―下 古―今ノ共ニ由所ノ路ナリ。即 書ノ所 謂。五―典ナリ。孟―子

ニ所 謂。父―子。親有〔リ〕。君―臣 義有〔リ〕。夫―婦。別 有〔リ〕。長―幼。序有〔リ〕。朋―友 信 有〔リ〕ト云ル是ナリ。知ハ此ヲ知ル所 以ナリ。仁〔ハ〕此ヲ体スル所 以ナリ

勇ハ此ヲ強 所 以ナリ。之ヲ達―徳ト謂コトハ。天―下 古―今ノ同〔ク〕得ル所ノ理ナリ。一ハ誠而 已。達―道ハ人ノ共ニ由所ナリト雖〔モ〕。然モ是ノ三ノ徳 無トキハ以テ之ヲ行〔フ〕コト無シ。達―徳ハ人ノ同ク得ル所ナリト雖〔モ〕然モ一 誠アラ〔サル〕コト有トキハ。人―欲。之ヲ問 而テ

第二十章

徳 其ノ徳ニ非〔ス〕。程―子カ曰。所 謂。誠ト

云ハ。止 是レ此ノ三ノ者ヲ誠―実ニスルナリ 三ノ者ノ外ニ。更ニ別〔ニ〕誠 無〔シ〕

或ハ生 知ル。或ハ学 テ知ル。或ハ困テ知ル。其ノ知ニ及テハ―ナリ。或ハ安 行フ 或ハ利トシ行〔フ〕。或〔ハ〕勉―強シテ行フ 其ノ功ヲ成〔ス〕ニ及テハ―ナリ

強ハ上―声 ○之ヲ知ル者ノ知〔ル〕所 之ヲ行フ者ノ行〔フ〕所トハ。謂ル達―道。其ノ分ヲ以テ言トキハ。知〔ル〕所 以ノ者ハ知ナリ。行〔フ〕所 以ノ者ハ。仁ナリ 所 以知ノ功ヲ成〔ス〕ニ至

〔リ〕テ―ナル者ハ勇。其ノ等ヲ以テ言トキハ生ナカラニシテ知リ。安シテ行フ者ハ知ナリ。学テ知リ。利トシテ行〔フ〕者ハ仁。困 テ知リ。勉 行フ者ハ勇。蓋〔シ〕人〔ノ〕性。不―善 無〔シ〕ト雖〔モ〕氣―稟 同カラ〔サル〕者有〔リ〕故〔ニ〕道ヲ聞〔ク〕ニ蚤―莫 有〔リ〕。道ヲ行フニ

難一易 有〔リ〕。然モ能〔ク〕。自〔ラ〕 強<sup>ツトメ</sup>テ息<sup>ヤマ</sup>  
 (サル) トキハ。其ノ至ルコト一ナリ。呂一氏カ曰  
 。入〔ル〕所ノ塗<sup>ミチ</sup> 異〔ナル〕ト雖〔モ〕。至ル所  
 ノ域<sup>サカヒ</sup>。同シ。此 中一庸ヲ為<sup>スル</sup> 所<sup>スル</sup>以ナリ。若  
 乃。生ナカラニシテ知り。安シテ行フ資ヲ企<sup>ネカフ</sup>テ幾<sup>ホト</sup>  
 及フ可〔ラ〕(ス)ト為シ。困〔リ〕テ知り。勉<sup>ツトメ</sup>  
 テ行フコトヲ輕<sup>カロムシ</sup> 成<sup>ナス</sup> 有コト能〔ハ〕(ス)〔ト〕  
 謂ハ此レ道ノ明〔ナラ〕(ス)行ハレ(サル)所<sup>スル</sup>  
 以ナリ

子曰 好<sup>4</sup>テ学<sup>マナフル</sup> ハ 知ニ近シ 力<sup>ツトメ</sup>テ行フハ仁ニ近シ。  
 恥<sup>ハチ</sup>ヲ知〔ル〕ハ勇ニ近シ

子一曰ノ二一<sup>エム</sup>字ハ衍一<sup>エム</sup>文ナリ 好<sup>カウ</sup>一<sup>コ</sup>近 乎<sup>コ</sup>一<sup>コ</sup>知ノ知  
 ハ並 去一<sup>イフ</sup>声 ○此ハ未タ徳ニ達スルニ及〔ハ〕  
 (ス)シテ求メテ以テ徳ニ入ル事ヲ言<sup>イフ</sup>。上ノ文ニ通  
 シテ三一知ヲ知ト為。三一<sup>イフ</sup>行ヲ仁ト為ス。此ノ三一  
 近ハ勇ノ次キナリ 呂一氏カ曰。愚一<sup>ミ</sup>者ハ自<sup>シトシ</sup>。是<sup>シトシ</sup>  
 求<sup>モトメ</sup> (ス)。自<sup>ワタクシスル</sup>ラ私<sup>シタカ</sup> 者ノハ人一<sup>シタカ</sup>欲ニ徇<sup>シタカ</sup>テ反ルコ

トヲ忘ル。懦<sup>タム</sup>一<sup>シモ</sup>者ハ人ノ下 為コトヲ甘<sup>ネカフ</sup> (テ) 辞<sup>シ</sup>  
 セ(ス)。故ニ好<sup>ツトメ</sup>テ学フルハ 知ニ非〔ス〕トモ。  
 然モ以テ愚<sup>ヤブル</sup>ヲ破<sup>ヤブル</sup>ニ足レリ。力<sup>ツトメ</sup>テ行フハ仁ニ非〔ス〕  
 トモ。然モ以テ私<sup>ワ</sup>ヲ忘〔ル〕ニ足レリ 恥<sup>ハチ</sup>ヲ知ルコ  
 ト勇ニ非〔ス〕トモ然モ以テ懦<sup>タム</sup>ヲ起<sup>ヲコス</sup>ニ足レリ  
 斯〔ノ〕三者〔ヲ〕知<sup>シンスルトキハ</sup> 身ヲ脩ル所<sup>スル</sup>以ヲ知ル 身  
 ヲ脩〔ル〕所<sup>スル</sup>以ヲ知ヌル〔トキハ〕人ヲ治〔ル〕所<sup>スル</sup>  
 以ヲ知ル。人ヲ治〔ル〕所<sup>スル</sup>以〔ヲ〕知トキハ天一<sup>ス</sup>下  
 国一<sup>ス</sup>家ヲ治ル所<sup>スル</sup>以ヲ知ル

斯ノ三ノ者ト云ハ三一近ヲ指シテ言フ。人ト云ハ。  
 己ニ対〔ス〕ル称。天一<sup>ス</sup>下 国一<sup>ス</sup>家ハ人ニ尽<sup>ツク</sup>ス。此  
 ヲ言テ以テ上ノ文ノ身ヲ脩ル意ヲ結シテ下ノ文ノ九一  
 経ノ端ヲ起<sup>ハシ</sup>ヲ<sup>ヲコス</sup>

凡ソ天一<sup>ス</sup>下 国一<sup>ス</sup>家ヲ為<sup>オサムル</sup> 二九一<sup>ケイ</sup>経 有〔リ〕。曰ハク  
 。身ヲ脩ム。賢ヲ尊フ。親ヲ親ス。大<sup>キ</sup>一<sup>キタ</sup>臣ヲ敬ス。羣一<sup>ヤス</sup>  
 臣ヲ体ス。庶一<sup>シ</sup>民ヲ子トス。百一<sup>シ</sup>工ヲ来ス。遠一<sup>シ</sup>人ヲ柔<sup>ヤス</sup>  
 ス。諸一<sup>シ</sup>侯ヲ懷<sup>ナツク</sup>

經ハ常。体スト云ハ謂ル。設〔ケテ〕身ヲ以テ其〔ノ〕地ニ処〔シ〕テ其ノ心ヲ察ストナリ。子トスト云ハ父―母ノ其ノ子ヲ愛スルカ如〔ク〕ニ。遠―人ヲ柔ストハ。所謂 賓―旅ヲ忘〔ル〕コト無キソ。此ハ九―經ノ目ヲ列。呂―氏カ曰。天―下。國―家ノ本ハ身ニ在〔リ〕。故ニ。身ヲ脩〔ムル〕ヲ九―經ノ本ト為。然シテ必 師―友ヲ親ス。然〔シ〕テ後 身ヲ脩ル道。進ム。故ニ賢ヲ尊ルコト之ニ次ク 道ノ進ム所。其〔ノ〕家ヨリ先ナルハ莫〔シ〕。故ニ親ヲ親スルヲ之ニ次〔ク〕。家 由以テ朝―庭ニ及〔ホス〕。故ニ大―臣ヲ敬シ。羣―臣ヲ体スルコト之ニ次〔ク〕 朝―庭 由以テ其ノ國ニ及〔ホス〕。故ニ庶―民ヲ子トシ。百―工ヲ来コト。之ニ次〔ク〕。其〔ノ〕國 由以テ天―下ニ及〔ホス〕。故ニ遠―人ヲ柔。諸―侯ヲ懷。之ニ次ク。此レ。九―經ノ序。羣―臣ヲ視〔ル〕コト。猶ヲ吾カ四―体ノ〔コト〕シ。百―姓ヲ視

〔ル〕コト。猶ヲ吾カ子ノ〔コト〕シ。此レ臣ヲ視民ヲ視ル別ナリ

身ヲ脩〔ル〕トキハ道 立ツ。賢ヲ尊フルトキハ。惑〔ス〕。親ヲ親スルトキハ諸―父。昆―弟。怨〔ス〕。大―臣ヲ敬スルトキハ。眩〔ス〕。羣―臣ヲ体スルトキハ。士ノ報―礼 重。庶―民ヲ子。百―姓 勸ム 百―工ヲ来ストキハ。財―用 足ル 遠―人ヲ柔。四―方 歸ス。諸―侯ヲ懷。天―下 畏。此レハ九―經ノ効ヲ言。道 立〔ツ〕トハ。道ノ已ニ成〔リ〕テ民ノ表 為 可〔キヲ〕謂。所謂。其ノ極 有〔ル〕コトヲ建〔ツ〕是ナリ。惑〔ハ〕〔ス〕トハ。理ニ疑〔ハ〕〔サル〕ヲ謂。眩セ〔ス〕トハ。事ニ迷ハ〔サル〕ヲ謂。大―臣ヲ敬〔ス〕ト云ハ信―任スルコト專ニシテ小―臣。以テ之レヲ間コト〔ヲ〕得〔ス〕。故ニ事ニ臨テ眩セ〔ス〕。百―工ヲ来ストキハ。功ヲ通シ。事ヲ易テ農―末。相資。故ニ財―用。足ル。遠―人ヲ柔スルトキハ。



第二十章

天<sub>ミチ</sub>一<sub>ナ</sub>下<sub>ノ</sub>ノ旅。皆悦<sub>ミチ</sub>テ塗<sub>ニ</sub>出<sub>ル</sub>（ル）コトヲ願<sub>フ</sub>（フ）。  
 故<sub>レ</sub>二<sub>四</sub>一<sub>方</sub> 帰<sub>ス</sub>。諸侯<sub>ヲ</sub>懷<sub>ナツケル</sub>（トキハ）徳ノ施<sub>ス</sub>  
 所<sub>ノ</sub>者<sub>ノ</sub>博<sub>シテ</sub>威<sub>ノ</sub>制<sub>スル</sub>所<sub>（ノ）</sub>者<sub>ノ</sub>広<sub>シ</sub> 故<sub>ニ</sub>  
 天<sub>一</sub>下<sub>。畏</sub>（ル）ト曰<sub>ク</sub>  
 齊<sub>サイ</sub>一<sub>明</sub> 盛<sub>一</sub>服<sub>シテ</sub>礼<sub>ニ</sub>非<sub>（サ）</sub>レハ動<sub>（カ）</sub>（ス）。身<sub>ヲ</sub>  
 脩<sub>ムル</sub>所<sub>以</sub>ナリ。讒<sub>ヲ</sub>去<sub>ス</sub> 色<sub>ヲ</sub>遠<sub>サケ</sub>。貨<sub>ヲ</sub>賤<sub>イヤシムシ</sub> 徳<sub>ヲ</sub>  
 貴<sub>フ</sub>。賢<sub>ヲ</sub>勸<sub>ムル</sub>所<sub>以</sub>ナリ 其<sub>ノ</sub>位<sub>ヲ</sub>尊<sub>カトヒ</sub>。其<sub>ノ</sub>禄<sub>ヲ</sub>  
 重<sub>オモムシ</sub>。其<sub>（ノ）</sub>好<sub>一</sub>惡<sub>ヲ</sub>同<sub>（ウ）</sub>ス。親<sub>ヲ</sub>親<sub>スル</sub>コト  
 勸<sub>スムル</sub> 所<sub>以</sub>ナリ。官<sub>盛</sub> 任<sub>一</sub>使<sub>ス</sub> 大<sub>一</sub>臣<sub>ヲ</sub>勸<sub>ル</sub>  
 所<sub>以</sub>ナリ。忠<sub>一</sub>信<sub>アルトキハ</sub> 禄<sub>ヲ</sub>重<sub>（ン）</sub>ス 士<sub>ヲ</sub>勸<sub>ル</sub>所<sub>以</sub>  
 以<sub>ナリ</sub>。時<sub>ニ</sub>使<sub>テ</sub>斂<sub>薄</sub>ス 百<sub>一</sub>姓<sub>ヲ</sub>勸<sub>ル</sub> 所<sub>以</sub>ナ  
 リ。日<sub>ニ</sub>省<sub>（カヘリミ）</sub>。月<sub>ニ</sub>試<sub>（ツキ、ココ、ロミ）</sub> 既<sub>一</sub>稟<sub>（ヒム）</sub>。事<sub>ニ</sub>称<sub>（カナフ）</sub>。百<sub>一</sub>工<sub>ヲ</sub>  
 勸<sub>ル</sub>所<sub>以</sub>ナリ。往<sub>ヲ</sub>送<sub>来</sub>ヲ迎<sub>ムカヘ</sub>。善<sub>ヲ</sub>嘉<sub>（ヨミシ）</sub> 不<sub>一</sub>能<sub>ル</sub>  
 ヲ矜<sub>（メクム）</sub> 遠<sub>一</sub>人<sub>ヲ</sub>柔<sub>ヤスムル</sub> 所<sub>以</sub>ナリ。絶<sub>ヘム</sub>タル世<sub>ヲ</sub>繼<sub>（ツキ）</sub>。  
 廢<sub>（タル）</sub> 国<sub>ヲ</sub>拳<sub>（アケ）</sub>。乱<sub>（ヲ）</sub> 治<sub>メ</sub>危<sub>（アヤウキ）</sub> ヲ持<sub>（タモチ）</sub>。朝<sub>一</sub>聘<sub>（ナツケル）</sub>。  
 時<sub>ヲ</sub>以<sub>テ</sub>シ。往<sub>ヲ</sub>厚<sub>（アツクシ）</sub> 而<sub>テ</sub>来<sub>ヲ</sub>薄<sub>（ウスウ）</sub>ス。諸<sub>一</sub>侯<sub>ヲ</sub>懷<sub>（ナツケル）</sub> 所<sub>以</sub>  
 以<sub>ナリ</sub>

齊<sub>ハ</sub>側<sub>一</sub>皆<sub>（ノ）</sub>反<sub>。去</sub>ハ上<sub>一</sub>声<sub>。遠</sub>。好<sub>一</sub>惡<sub>。斂</sub>  
 ハ。並<sub>ニ</sub>去<sub>一</sub>声<sub>。既</sub>（ハ）許<sub>（ハ）</sub>氣<sub>（ノ）</sub>反<sub>。稟</sub>ハ彼<sub>一</sub>  
 錦<sub>。力</sub>一<sub>錦</sub>。二<sub>ツ</sub>ノ反<sub>。称</sub>ハ去<sub>一</sub>声<sub>。朝</sub> 音<sub>ハ</sub>潮<sub>一</sub>  
 ○此<sub>ハ</sub>九<sub>一</sub>經<sub>ノ</sub>事<sub>ヲ</sub>言<sub>。官</sub> 盛<sub>ニ</sub>シテ任<sub>一</sub>使<sub>（ス）</sub>  
 トハ官<sub>一</sub>屬<sub>。衆</sub>一<sub>盛</sub>ニシテ使<sub>一</sub>令<sub>（レイ）</sub>ニ任<sub>スル</sub>ニ足<sub>レ</sub>ル  
 ヲ謂<sub>。蓋</sub>（シ）大<sub>一</sub>臣<sub>ハ</sub>當<sub>ニ</sub>細<sub>一</sub>事<sub>ヲ</sub>親<sub>（ミツカラ）</sub>ス（ヘカ  
 ラ）（ス）。故<sub>ニ</sub>之<sub>ヲ</sub>優<sub>（ユタカニスル）</sub> 所<sub>以</sub> 此<sub>ノ</sub>如<sub>シ</sub>。忠<sub>一</sub>  
 信<sub>アル</sub>トキハ。禄<sub>ヲ</sub>重<sub>（ン）</sub>ストハ之<sub>ヲ</sub>待<sub>（ツ）</sub>コ  
 ト誠<sub>アリ</sub>テ之<sub>ヲ</sub>養<sub>（フ）</sub>コト厚<sub>（アツキ）</sub>ヲ謂<sub>。蓋</sub>（シ）身<sub>ヲ</sub>  
 以<sub>テ</sub>之<sub>ヲ</sub>体<sub>ス</sub> 而<sub>テ</sub>其<sub>ノ</sub>上<sub>ニ</sub>頼<sub>（ヨル）</sub>所<sub>（ノ）</sub>者<sub>ノ</sub>此<sub>ノ</sub>  
 如<sub>コト</sub>ヲ知<sub>（ル）</sub>。既<sub>カ</sub>読<sub>ハ</sub>餼<sub>ト</sub>曰<sub>。餼</sub>一<sub>稟</sub>ハ稍<sub>一</sub>  
 食<sub>。事</sub>ニ称<sub>（カナフ）</sub>ハ周<sub>一</sub>礼<sub>。稟</sub>一<sub>人</sub>一<sub>職</sub> 其<sub>（ノ）</sub>弓<sub>一</sub>  
 弩<sub>（ヲ）</sub>考<sub>（ヘ）</sub>以<sub>テ</sub>其<sub>ノ</sub>食<sub>ヲ</sub>上<sub>一</sub>下<sub>スト</sub>曰<sub>カ</sub>如<sub>（キ）</sub>  
 是<sub>ナリ</sub>。往<sub>ト</sub>ハ。之<sub>カ</sub>為<sub>ニ</sub>節<sub>ヲ</sub>授<sub>（ケ）</sub>テ以<sub>テ</sub>  
 之<sub>ヲ</sub>送<sub>リ</sub>。来<sub>ト</sub>ハ。委<sub>（シ）</sub>積<sub>ヲ</sub>豊<sub>シ</sub>以<sub>テ</sub>之<sub>ヲ</sub>迎<sub>フ</sub>。  
 朝<sub>ト</sub>ハ諸<sub>一</sub>侯<sub>ノ</sub>天<sub>一</sub>子<sub>ニ</sub>見<sub>（ユル）</sub>ヲ謂<sub>。聘</sub>トハ諸<sub>一</sub>  
 侯<sub>ノ</sub>大<sub>一</sub>夫<sub>ヲ</sub>（シテ）来<sub>（リ）</sub>テ献<sub>セ</sub>使<sub>ムル</sub>ヲ謂<sub>。</sub>

王一制二比一年ニ一タヒ。小一聘シ。三一年ニ一タ  
ヒ大一聘シ五一年ニ一タヒ朝ス。往ヲ厚〔ク〕シ。  
来〔ヲ〕薄〔ク〕ストハ。燕一賜ハ厚<sup>アツクシ</sup>。テ納一貢<sup>ウスキ</sup>  
薄ヲ謂

凡ソ天一下。国一<sup>オサムル</sup>家ヲ為。ニ九一<sup>オサムル</sup>経。有〔リ〕。之ヲ行  
フ所一以ノ者ノハ一ナリ

一ハ誠ナリ。一モ誠アラ〔サル〕コト有トキハ。是  
ノ九ツノ者。皆虚一<sup>ナル</sup>文ト為。此九一<sup>ナル</sup>経ノ実ナリ

凡ソ。事<sup>アラカシメスル</sup>豫<sup>アラカシメセ</sup>。(トキハ)立ツ。豫<sup>アラカシメセ</sup>(サル)(トキ  
ハ)廢ル。言<sup>コト</sup>前<sup>サキ</sup>二定ツル(トキハ)。跲<sup>ツマツカ</sup>(ス)。事<sup>コト</sup>

前二定ツル(トキハ)困<sup>クルシマ</sup>(ス)。行。前二定ツル(ト  
キハ)疾<sup>ヤマシカラ</sup>(ス)。道。前二定ツル(トキハ)窮<sup>キハマラ</sup>(ス)

跲<sup>ケフハキ</sup>其<sup>ケウ</sup>一劫ノ反。行〔ハ〕去一<sup>ケウ</sup>声。○凡〔ソ〕。事ト  
ハ道ニ達シ徳ニ達スル九一<sup>ケウ</sup>経ノ属ヲ指〔ス〕。豫ハ

素<sup>モトヨリ</sup>一<sup>ケフ</sup>定ムルトキ。跲<sup>ケフ</sup>ハ躓<sup>チ</sup>。疾<sup>キウ</sup>ハ病。此<sup>ケウ</sup>上ノ文ニ承<sup>ウケ</sup>  
テ凡〔ソ〕事。皆先ツ誠ヲ立<sup>タテムコトヲ</sup>。欲〔ス〕。下ノ

文ノ推〔ス〕所ノ如キ。是ナリ

第二十章

下一位ニ在〔テ〕<sup>カミ</sup>上ニ獲<sup>エラレ</sup>(サル)トキハ。民。得テ治  
ム可〔ラ〕(ス)。上ニ獲<sup>エラレ</sup>コト道。有レトモ。朋一友ニ  
信<sup>アラ</sup>アラ〔サル〕トキハ上ニ獲ラレ(ス)。朋一友ニ信ア  
ルコト。道。有レトモ。親ニ順<sup>アラ</sup>アラ〔サル〕トキハ。朋一  
友ニ信アラス。親ニ順<sup>アル</sup>アルコト道。有トモ。身<sup>カヘサフスル</sup>ニ反<sup>ニ</sup>  
誠アラ〔サル〕トキハ。親ニ順<sup>アラ</sup>アラス。身ヲ誠ニスル  
コト。道。有トモ。善ヲ明<sup>ラカニセ</sup>〔ラカニセ〕(サル)トキハ  
身〔ニ〕誠アラ(ス)

此レ。又。下一位ニ在〔ル〕者ヲ以〔テ〕推〔シ〕  
テ素<sup>モトヨリ</sup>一<sup>カヘサウスル</sup>定ムル意ヲ言。身ニ反<sup>カヘサウスル</sup>。〔ニ〕誠〔アラ〕

(ス)トハ反テ身ニ求ルトキニ存スル所。発スル所  
。未〔タ〕真一<sup>カヘサウスル</sup>実ニシテ無一<sup>カヘサウスル</sup>妄ナルコト能〔ハ〕

(サル)〔ヲ〕謂フ。善ヲ明〔ラカニセ〕(サル)ト  
ハ未〔タ〕人ノ心。天一<sup>カヘサウスル</sup>命ノ本一<sup>カヘサウスル</sup>然ヲ察シテ真<sup>マ</sup>ニ至一<sup>カヘサウスル</sup>

善ノ在〔ル〕所ヲ知〔ル〕コト能〔ハ〕(サル)ヲ  
謂

誠ハ。天ノ道ナリ。之ヲ誠スルハ。人ノ道ナリ。誠ハ

第二十章

勉ツトメ（ス）シテ中アタル。思ハ（ス）シテ得。従シヨウ一容ニシテ道  
ニ中アタルハ聖一人ナリ。之ヲ誠ニ（ニ）スト云ハ。善ヲ扱エラムテ  
固ク執ル者ノナリ

中ハ並ニ（二）去一ツ声。従ハ七一ツ容ノ反 ○此。上ノ  
文ノ身ヲ誠ニ（ニ）スト云ニ承テ言フ。誠ハ。真一実

無一妄ノ謂イヒ。天一理ノ本一然ナリ。之ヲ誠ニ（ニ）

スル（ハ）。未（タ）真一実 無一妄ナルコト能

（ハ）（サ）レトモ真一実 無一妄ナラムコトヲ欲ス

ルヲ人一事ノ當一然ト謂。聖一人ノ徳ハ渾一然タル

天一理。真一実 無一妄ニシテ思ナリ 勉ツトムルコト ヲ待（タ）

（ス） 従一容ニシテ道ニ中ルハ亦 天ノ道ナリ。未

（タ） 聖ニ至（ラ）（サ）レハ。人一欲ノ私無（キ）

コト能（ハ）（ス）シテ其ノ徳ヲ為スルコト。皆 実ナ

ルコト能（ハ）（ス） 故ニ未（タ）思（ハ）（ス）

シテ得ウルコト能（ハ）（サ）レハ必 善ヲ扱（ヒ）テ

然テ後ニ以テ善ヲ明ニス可シ。未（タ）勉（メ）

（ス）シテ中能（ハ）（サ）レハ必 固ク執テ然テ

後ニ以テ身ヲ誠ニス可（シ）。此 則。所ナカラニシ謂。人  
ノ道ナリ。思（ハ）（ス）シテ得ルトハ生  
ル。勉ツトメ（ス）シテ中アタルハ安シテ行ソ。善ヲ扱（フ）

トハ。学テ知ル。以一下ノ事ナリ。固ク執トハ利ト  
シテ行フ以一下ノ事ナリ

博ク学マナヒ。審ツマヒラカ 二問ヒ。慎テ思ヒ。明ニ辨シ。篤ク行フ

此ハ之ヲ誠ニ（ニ）スル目ナナリ。学。問。思。辨ハ善ヲ

扱（ヒテ）知チト 為シ 学テ知ル所 以ナリ。篤ク行ト

云ハ。固ク執テ仁ヲ為シ。利（トシテ）行フ所 以ナ

リ。程一子カ曰。五ノ者ノ其ノ一ヲモ廢スツルハ。学ニ

非（ス）

学マナヒ（サル）コト有ヲハ。学フ。能（サ）レハ。措（サ）

問トハ（サル）コト有ルハ問フ。知（サ）レハ措（ス）。思ヲモハ

（サル）コト有ハ思フ。得エ（サ）レハ措（ス） 辨ハ（サ

ル）コト有ハ。辨ハス。明アキラカニセ（サレ）ハ措（ス）。行オハ

（サル）コト有ハ。行フ。篤アツウセ（サレ）ハ措（ス）。人。

一タヒ。之ヲ能スレハ。己ヲノレ。之レヲ百モ、タヒシ 人トタヒ。之

ヲ能スルハ己レ。千<sup>チタヒ</sup>ス

君一子ノ学。為サレハ已<sup>ヤム</sup>。為<sup>スルトキハ</sup>。必。其ノ成<sup>ナラムコトヲ</sup>。要

ス。故ニ常ニ其ノ功ヲ百一<sup>ニ</sup>倍ニス。此<sup>クルシンテ</sup>。困<sup>シ</sup>。知リ

。勉<sup>ツトメ</sup>テ行フ者ナリ。勇ノ事ナリ

果<sup>ハタシ</sup>テ此ノ道ヲ能<sup>ミチ</sup>。愚ナリト雖へ〔トモ〕必<sup>ヨクスルトキハ</sup>明<sup>アキラカ</sup>

ナリ。柔ナリト雖へ〔トモ〕必<sup>コハシ</sup>強

明トハ。善ヲ扱フ功。強ハ。固ク執ル効<sup>シルシナリ</sup>。呂一氏

カ曰。君一子ノ学<sup>マナフル</sup>。所一ハ。能ク氣一質ヲ變一化セ

ムカ為<sup>タメ</sup>而<sup>ノ</sup>已<sup>ミ</sup>。徳。氣一質ニ勝トキハ。愚一者モ

明ニ進〔ム〕可〔シ〕。柔一者モ強ニ進〔ム〕可

〔シ〕。之ニ勝コト能〔ハ〕〔サル〕トキハ。学ニ志<sup>コ</sup>

コト有ト雖〔トモ〕。亦<sup>ロサス</sup>。愚ニテ明ナルコト能

〔ハ〕〔ス〕。柔ニシテ立コト能〔ハ〕〔サル〕而<sup>ノ</sup>已<sup>ナリ</sup>。

蓋〔シ〕。均<sup>ヒトシク</sup>。善ニシテ悪。無キハ性ナリ。人ノ同

キ所ナリ。昏一明。強一弱ノ稟<sup>ヒン</sup>。齊<sup>ヒトシカラ</sup>。〔サル〕ハ

。才ナリ。人ノ異スル所ナリ。之ヲ誠〔ニ〕スルト

ハ。其ノ同ニ反<sup>カヘ</sup>テ其ノ異ナルヲ變スル所<sup>カ</sup>以ナリ。

第二十章

夫レ美ナラ〔サル〕質ヲ以〔テ〕變シ美ナラシメム

ヲ求メハ。其ノ功ヲ百一<sup>ニ</sup>倍スルニ非〔レハ〕。以テ

之ヲ致〔ス〕ニ足〔ラ〕〔ス〕。今。鹵莽<sup>ロマウ</sup>。滅一裂<sup>レツ</sup>ノ

学ヲ以テ或ハ作<sup>ナシ</sup>。或ハ輟<sup>12トチ</sup>テ以テ其ノ美ナラ〔サ〕ル

質ヲ變セムトシテ變スルコト能〔ハ〕〔サル〕ニ及

テハ。天一質。美ナラ〔サ〕レハ。学。能〔ク〕變

スル所ニ非ス〔ト〕曰<sup>イハム</sup>ハ是。自<sup>ミ</sup>棄<sup>スツルニ13</sup>。果〔ス〕ト

キハ其ノ不<sup>スル</sup>仁ヲ為コト甚シ

右 第二十章

此。孔一子ノ言ヲ引テ以〔テ〕大<sup>1</sup>舜。文<sup>1</sup>武。周<sup>1</sup>

公ノ緒ニ繼〔キ〕其ノ伝<sup>ツタフル</sup>。所ノ一<sup>1</sup>致<sup>タル</sup>。コトヲ明

〔カス〕。挙<sup>アゲ</sup>テ之ヲ措<sup>ツク</sup>コト。亦。猶ヲ是〔ノ〕〔コト〕

シ。蓋〔シ〕。費<sup>1</sup>。隱ヲ包〔ミ〕。小<sup>1</sup>。大ヲ兼〔ネ〕

テ以テ十二章ノ意ヲ終フ。章〔ノ〕内<sup>ウ</sup>ニ誠ヲ語<sup>カ</sup>コト

始テ詳ナリ。所<sup>ツマ</sup>謂。誠<sup>14</sup>ハ。実ナリ。此ノ篇ノ樞<sup>1</sup>

紐<sup>チウ</sup>ナリ。又。孔一子ノ家一語ヲ按スルニ。亦。此ノ

章ヲ載タリ。而テ其ノ文。尤モ詳ナリ。功ヲ成〔ス〕

コト一ナリト云下ニ公ノ曰ク子ノ言。美ナリ。至レリ。寡一人ハ実固ニ以テ成〔スニ〕足〔ラ〕〔ス〕ト云コト有〔リ〕。故ニ其ノ下ニ復。子一曰ヲ以テ

答一辞ヲ起ス。今。此ノ問ノ詞無〔シ〕。猶子一曰ノ二一文字有リ。蓋〔シ〕。子一思。其ノ繁一文字ヲ刪テ以テ篇ニ附。刪〔ル〕所。尽サ〔サル〕者有〔ル〕ヲハ。今。當ニ衍一文字ト為〔ヘシ〕。博

学ト云以。下。家一語ニ之無〔シ〕。意ニ彼ニ闕一文字有〔ル〕カ。抑。此。或ハ子一思カ補所カ

誠ニ自テ明ナル。之ヲ性ト謂。明ニ自テ誠アル。之ヲ教ト謂。誠〔アル〕トキハ明ナリ。明ナルトキハ誠アリ

自ハ由。徳。実アラ〔ス〕ト云無シテ明。照〔サ〕〔ス〕ト云コト無〔キ〕ハ。聖一人ノ徳ナリ。性トシテ有ル所ノ者ナリ。天ノ道ナリ。先ツ。善ヲ明〔ニ〕シテ後ニ能。其ノ善ヲ実〔ニスト〕ハ。賢一

人ノ学ナリ。教ニ由〔リ〕テ入ル者ナリ。人ノ道ナリ。誠アルトキハ明ナラ〔ス〕〔ト〕云コト無〔シ〕。明ナルトキハ以テ誠ニ至ル可シ

右 第二十一ノ章。子一思 上ノ章ノ夫一子ノ天一道。人一道ノ意ニ承テ言ヲ立。此〔レ〕自〔リ〕。以下。十二章ハ皆。子一思カ言。以テ反一覆シテ此ノ章ノ意ヲ推一明〔ニ〕ス

唯。天一下ノ至一誠ノミ。能〔ク〕其ノ性ヲ尽スト為ス。能〔ク〕其ノ性ヲ尽〔ス〕トキハ。能〔ク〕人ノ性ヲ尽ス。能〔ク〕人ノ性ヲ尽〔ス〕トキハ。能〔ク〕物ノ性ヲ尽ス。能〔ク〕物ノ性ヲ尽〔ス〕トキハ以テ天一地ノ化一育ヲ賛可シ。以テ天一地ノ化一育ヲ賛〔ク〕可〔キ〕トキハ。以テ天一地ト參可〔シ〕

天一下ノ至一誠トハ聖一人ノ徳ノ実 天一下モ能〔ク〕加フルコト莫ヲ謂。其〔ノ〕性ヲ尽〔ス〕トキハ。徳。実ナラ〔ス〕〔ト〕云コト無〔シ〕。故ニ

人一欲ノ私 無〔ク〕シテ天一命ノ我ニ在ル者ノ之  
ヲ察ス。之二由テ臣一細。精一粗。毫一髮ノ尽〔サ〕  
〔ス〕ト云コト無シ。人一物ノ性ハ。亦 我カ性ナ  
リ。但。賦 所ノ形一氣ノ同カラサルヲ以テ異ナ  
ルコト有ル耳ナリ。能〔ク〕。之ヲ尽スト云者ハ。  
知コト明ナラ〔サル〕コト無〔ク〕シテ処コト當ラ  
〔サル〕〔ト〕云コト無〔キ〕ヲ謂。賛ハ猶助ノ〔コ  
ト〕〔シ〕。天一地ト。参。天一地ト。並ニ立  
テ三ヲ為謂。此 誠ニ自テ明ナル者ノ事ナリ

右 第二十二ノ章

天道ヲ言

其〔ノ〕次ハ曲ヲ致ス。曲。能ク誠 有リ。誠アルトキ  
ハ。形。形。著ナリ。著。明ナリ 明ナルト  
キハ動ク 動〔ク〕トキハ変ス 変スルトキハ化ス。唯  
。天一下ノ至一誠ノミ能〔ク〕化スルコトヲ為ス  
其ノ次トハ。大一賢ヨリ以 下。凡 誠〔ニ〕未タ

第二十二章 第二十三章

至〔ラ〕〔サル〕有ル者ニ通シテ言。致ストハ推  
致〔ス〕ソ。曲トハ一偏。形。ハ。中ニ積テ外  
ニ発ス。著ナルトキハ又顕。加フ。明ナルト  
キハ又。光一輝 発一越ノ盛ナルコト有〔リ〕。動  
ト云ハ誠。能〔ク〕物ヲ動〔カ〕ス。変トハ。物  
從テ変ス。化ハ其ノ然ル所 以ヲ知〔ラ〕〔サ〕ル  
コト有ル者ナリ。蓋〔シ〕。人ノ性。同カラ〔ス〕  
ト云コト無〔シ〕。氣。異 有〔リ〕。故ニ惟。聖一  
人ノミ。能〔ク〕其ノ性ノ全一 体ヲ拳テ之ヲ尽ス。  
其〔ノ〕次ハ必。其ノ善ノ端 発一見ノ偏ニ自  
テ悉 推 致シテ以テ各。其ノ極ニ造。曲。致  
〔サ〕〔ス〕ト云コト無〔キ〕トキハ。徳。実ナラ  
〔サル〕コト無〔シ〕。形。著 動。変ノ功。自〔ラ〕  
已コト能〔ハ〕〔ス〕。積テ能〔ク〕化スルニ至〔ル〕  
トキハ至一誠ノ妙 亦。聖一人ニ異ナラ〔ス〕

右 第二十三ノ章

人一道ヲ言

至一誠ノ道。以テ前一知ス可〔シ〕。国一家 将ニ興ワコラム  
トスルトキハ。必。禎テイ一祥シヤウ有〔リ〕。国一家 将ニ亡ヒ  
ントスルトキニ。必。妖ヨウ一孽ケツ有〔リ〕。著シ一龜クニニ見アラハレ  
四一トキニハ体ニ動ク。禍一福 将ニ至ナムト〔スル〕トキハ  
善。必。先〔ツ〕。知ル。不一善。必。先〔ツ〕知ル。  
故ニ至一誠ハ。神ノ如シ

見 音ハ現 ○禎一祥サイハイハ福キカシノ兆キカシ。妖一孽ハ禍ノ  
萌キカシ。著ハ筮スル所 以ナリ。龜ハトスル所 以ナ  
リ。四一ト体トハ動一作。威一儀ノ間アヒタ〔ヲ〕謂。玉  
ヲ執トテ其ノ容ヲ高一卑ニシテ俯一仰スル如キ類ナリ。  
凡。此ハ皆。理ノ先見マツタル者ナリ。然。唯。誠ノ至  
一極リマリテ一毫ノ私一偽ノ心一目ノ間ニ留ト、マル者  
無シ 乃。能〔ク〕以テ其ノ幾ヲ察スル有〔ル〕。  
神ト云ハ鬼一神ヲ謂

右 第二十四ノ章

天道ヲ言

誠マコトハ。自ミ。成ス。而テ道ハ自ミ。道ミチヒク

道タウ一也 道ハ音 導 ○言ハ誠ハ物ノ自〔ラ〕成ス  
所 以ニシテ道ハ人ノ當ニ自。行フヘキ所ナリ。誠  
〔ハ〕心ヲ以テ本ヲ言フナリ。道ハ理ヲ以テ用イフヲ言  
ナリ

誠ハ。物ノ終始ナリ。誠アラ〔サ〕ルトキハ。物無シ。

是 故ニ君一子。誠アルヲ貴ト為ス

天一ト下ノ物ハ皆。実一理ノ為ス所ナリ。故ニ。必。

是ノ理ヲ得テ然テ 後ニ是ノ物有〔リ〕。得ル所ノ理

。既ニ尽ツキヌルトキハ 是ノ物。亦。尽キテ有ルコト無〔シ〕。

故ニ人ノ心。一モ実ナラ〔サ〕ルコト有〔ル〕トキ

ハ。為所有〔ル〕ト雖〔モ〕。亦。有ルコト無キカ

如シ 而テ君一子ハ。必。誠ヲ以テ貴シト為。蓋

〔シ〕。人ノ心。能ク。実アラ〔ス〕〔ト〕云コト無

〔ク〕シテ乃以テ自〔ラ〕成〔ス〕コト有〔リ〕ト

為ス。而シテ道ノ我ニ在ル者ノ亦。行ハレ〔ス〕

〔ト〕云コト無シ

誠ハ自〔ラ〕己ヲ成ス而〔已〕ニ非ス。物ヲ成ス所〔以〕ナリ。己ヲ成スハ。仁。物ヲ成スハ。知ナリ。性ノ徳ナリ。外―内ニ合アハスル道ナリ。故ニ時ニ措ツクコト宜ム〔ナリ〕

知ハ去―声 ○誠ハ己ヲ成ス所〔以〕ナリト雖〔モ〕。然モ既ニ以テ自〔ラ〕成コト有トキハ自―然ニ物ニ及テ道。亦 彼レニ行ハル。仁ハ。体ノ存シ。智ハ。用ノ發スルトキハ。是 皆。吾カ性ノ固マコトニ有テ内―外ノ殊シユ無シ。既ニ己ニ得トキハ。事ニ見アラハル者ノ時ヲ以〔テ〕措ツクテ而テ皆。其ノ宜ヲ得

右 第二十五章

人道ヲ言

故ニ至―誠ハ息ヤムコト無シ

既ニ虚―仮ナケレ無ハ。自。間―断 無シ

息サレハ。久シ。久ケレハシルシアリ徴

久ハ中ニ常ナリ。徴ハ外ニシルシアリ驗

第二十五章 第二十六章

厚ナルトキハ高―明ナリ  
此。皆。其ノ外ニシルシアル驗者ヲ以テ之ヲ言フ。鄭―氏カ所―謂ル至―誠ノ徳。四―方ニ著アラハスト云ルハ是。中―ニ存スル者ノ既ニ久シキトキハ外ニシルシアル驗者ノ益―悠―遠〔ニ〕シテ窮キハマリ無シ。悠―遠ナルカ故ニ其ノ積ツヅモリ。広―博〔ニ〕シテ深―厚ナリ。博―厚ナル故ニ發スルコト高―大ニシテ光―明ナリ。

博―厚ハ物ヲ載ノスル所―以ナリ。高―明ハ物ヲ覆オホフ所―以ナリ。悠―久ハ物ヲ成ス所―以ナリ  
悠―久ハ。即 悠―遠。内―外ヲ兼〔ネ〕テ之ヲ言フ。本 悠―遠ナルヲ以〔テ〕高―厚ナルコトヲ致ス。而テ高―厚ハ又悠―久ナリ 此ハ聖―人ノ天―地ト用ヲ同スルヲ言〔フ〕

博―厚ハ地ニ配ス。高―明ハ天ニ配ス。悠―久ハキハマリ無シ  
此ハ聖―人ノ天―地ト体ヲ同スルコトヲ言〔フ〕



此ノ如〔ク〕ナルトキハ。見<sup>アラハレ</sup>スシテ章<sup>アキラカ</sup>ナリ。動<sup>ウコカ</sup>〔ス〕シテ変ス。無<sup>ナ</sup>一為ニシテ成ス

見 音ハ現 ○見ハ猶ヲ示ノ〔コト〕シ。見<sup>アラハレ</sup>〔ス〕

〔シ〕テ章ナルハ。地ニ配スルヲ以テ言フ。動〔カ〕

〔ス〕シテ変スルハ天ニ配〔スル〕ヲ以テ言フ。無<sup>ナ</sup>一

為ニシテ成〔ス〕ハ無<sup>キ</sup>一疆<sup>キヤウ</sup>ヲ以テ言フ

天<sup>ロアラ</sup>一<sup>ス</sup>地ノ道。一<sup>ツクシツ</sup>言ニシテ尽<sup>スル</sup>可シ。其ノ物ヲ為<sup>フタコ、</sup>ヲ貳

〔サル〕トキハ。其ノ物ヲ生スルコト測<sup>ハカリアラ</sup>〔ス〕

此ヨリ以<sup>テ</sup>下。復。天<sup>ス</sup>一<sup>ム</sup>地ヲ以テ至<sup>ル</sup>一<sup>ム</sup>誠ノ息

コト無〔キ〕功<sup>ス</sup>一<sup>ニ</sup>用ヲ以テ。天<sup>ス</sup>一<sup>ニ</sup>地ノ道 一<sup>ニ</sup>言ニ

シテ尽シツ可〔シ〕。誠ヲ曰〔フ〕ニ過<sup>スキ</sup>〔サ〕ラク

而<sup>ノ</sup>一<sup>ミ</sup>已<sup>フタコ、ロアラ</sup>。貳<sup>サ</sup>〔ル〕〔ハ〕。誠アル所<sup>ナリ</sup>以ナリ。

誠アルカ故ニ息<sup>ヤマ</sup>ス 而テ物ヲ生スルコト多シ。其ノ

然ル所<sup>ナリ</sup>以ヲ知〔ル〕コト莫〔キ〕コト有ル者ナリ

天<sup>ヒサシ</sup>一<sup>ビロ</sup>地ノ道ハ博<sup>アツ</sup>シ。厚<sup>タカ</sup>シ。明<sup>アキラカ</sup>ナリ。悠<sup>ハルカ</sup>ナリ。

久

言ハ天<sup>ナリ</sup>一<sup>ス</sup>地ノ道。誠<sup>ナリ</sup>一<sup>ニ</sup>シテ貳<sup>アラス</sup>アラス。故ニ能<sup>ス</sup>。

各。其ノ盛〔ナル〕コトヲ極〔メ〕テ下ノ文ノ物ヲ生スル功 有〔リ〕

今 夫レ。天ハ斯レ昭<sup>オホキ</sup>一<sup>ナリ</sup>昭ノ多<sup>ナリ</sup>窮<sup>マリ</sup>無〔キ〕

ニ及テハ。日。月。星辰。繫<sup>カ、レリ</sup>。万<sup>ナ</sup>一<sup>ニ</sup>物 覆<sup>オホハル</sup>。今

夫レ。地ハ一<sup>サツ</sup>撮<sup>オホイ</sup>一<sup>ナリ</sup>土ノ多<sup>ナリ</sup>。広<sup>ナリ</sup>一<sup>ニ</sup>厚ナルニ及テハ

。華<sup>ノセ</sup>一<sup>ヲモシトセ</sup>嶽ヲ載<sup>テ</sup>重<sup>ス</sup>〔ス〕。河<sup>ヲ</sup>一<sup>オサメ</sup>海ヲ振<sup>テ</sup>洩<sup>モラサ</sup>〔ス〕万<sup>ナ</sup>一<sup>ニ</sup>

物。載<sup>ノセラル</sup>。今 夫レ山。一<sup>ケム</sup>卷<sup>ヲ、イナリ</sup>一<sup>ナリ</sup>石ノ多<sup>ナリ</sup>。其ノ広<sup>ナリ</sup>

大ナルニ及テハ草<sup>ヲ</sup>一<sup>ナリ</sup>木生ス 禽<sup>ヲ</sup>一<sup>ナリ</sup>獸。居<sup>ヲ</sup>。宝<sup>ヲ</sup>一<sup>ナリ</sup>蔵 興<sup>オコル</sup>。

今 夫レ水ハ一<sup>シヤク</sup>勺ノ多<sup>イナリ</sup>。測<sup>ハカラ</sup>〔サル〕ニ及テハ

。鼃<sup>ケム</sup>一<sup>カウ</sup>鼃。蛟<sup>ヘツ</sup>一<sup>ナル</sup>龍。魚<sup>クワ</sup>一<sup>ナリ</sup>鼈。生<sup>ナリ</sup>。貨<sup>ナリ</sup>一<sup>ナリ</sup>財。殖<sup>ナリ</sup>ス

夫カ音ハ扶。華蔵ハ並ニ去<sup>ル</sup>一<sup>ナリ</sup>声。卷ハ平<sup>ナリ</sup>一<sup>ナリ</sup>声。勺ハ

市<sup>ジャク</sup>一<sup>ナリ</sup>若<sup>ク</sup>ノ反 ○昭<sup>ナリ</sup>一<sup>ナリ</sup>昭ハ猶ヲ耿<sup>カウ</sup>一<sup>ナリ</sup>耿ノ〔コト〕シ。

小<sup>ナリ</sup>一<sup>ナリ</sup>明。此ハ其ノ一<sup>ナリ</sup>一<sup>ナリ</sup>処ヲ指シテ之ヲ言〔フ〕。窮

無〔キ〕ニ及トハ猶ヲ十<sup>ナリ</sup>一<sup>ナリ</sup>二ノ章ノ其ノ至<sup>ナリ</sup>〔ニ〕及

テハトイヘル意ノ〔コト〕〔シ〕。蓋〔シ〕全<sup>ナリ</sup>一<sup>ナリ</sup>体ヲ

拳〔ケ〕テ言〔フ〕。振<sup>シム</sup>ハ収<sup>シウ</sup>。卷ハ區。此ノ四<sup>ナリ</sup>一<sup>ナリ</sup>條

ハ。皆。以テ其ノ貳<sup>ナリ</sup>ヒアラ〔ス〕。息〔サル〕ニ由<sup>ナリ</sup>

テ以テ盛一 大ヲ致シテ能〔ク〕物ヲ生スル意ヲ發一  
明ス。然モ。天一 地。山一 川。実ニ積一 累ニ由テ後  
ニ大〔ナル〕ニ非ス 読者 辞ヲ以テ意ヲ害セ  
〔ス〕ハ可ナリ

詩ニ云。維レ天ノ命。於。穆。已〔ス〕。蓋〔シ〕曰  
ク。天ノ天 為所 以ナリ。於乎。顯 (サラ) ンヤ  
。文一 王ノ徳ノ純 純。蓋シ曰。文一 王ノ文 為所  
以ナリ。純 純。テ亦。已〔ス〕

於 音ハ鳥。乎カ音ハ呼 ○詩。周一 頌。維一 天一  
之一 命 篇。於ハ歎スル辞。穆ハ深一 遠。顯〔ナラ〕  
〔サラ〕〔ム〕ヤト云〔ハ〕。猶ヲ豈 顯 (ナラ)  
スヤト言カ (コト) シ。純 (ハ) 純一 一 雜  
〔サル〕ソ 此〔ヲ〕引〔テ〕以〔テ〕至一 誠 息  
〔コト〕無キ意〔ヲ〕明〔ス〕 程一 子カ曰。天一 道  
。已〔ス〕。文一 王 天一 道ニ純 純。テ亦 已〔ス〕。  
純ナルトキハ二 無ク。雜 コト無シ 已〔サル〕  
トキハ間一 断。先一 後 無シ

第二十六章 第二十七章

右 第二十六章

天一 道ヲ言

大 哉。聖一 人ノ道

下ノ文ノ兩節ヲ包テ言〔フ〕

洋一 洋 乎テ万一 物ヲ發一 育ス。峻 天ニ極

峻ハ高一大。此レハ道ノ至一 大ヲ極 外 無キコ

トヲ言〔フ〕

優一 優トシテ大 哉。礼一 儀。三一 百。威一 儀。三一

千

優一 優ハ充 足テ餘 有ル意。礼一 儀ハ。經一 礼。

威一 儀ハ。曲一 礼。此ハ道ノ至一 小ニ入テ間 無

〔ヲ〕言フ

其ノ人ヲ待テ後ニ行ル

総テ上ノ兩一 節ヲ結ス

故ニ曰。苟 至一 徳ニアラサレハ。至一 道。疑ナラ

〔ス〕

至一徳トハ其ノ人ヲ謂。至一道ハ上ノ兩節ヲ指シテ言。疑ハ聚一也。成一也。

故二君一子ハ徳一性ヲ尊ムテ問一学二道。広一太ヲ致シテ精一微ヲ尽ス。高一明ヲ極テ中一庸二道。故ヲ温テ新ヲ知ル。敦一厚テ以〔テ〕礼ヲ崇。

尊ハ。恭一敬。奉一持ノ意。徳一性トハ。吾カ天ニ受タル所ノ正一理ナリ。道ハ由。温ハ猶ヲ燁一温ノ〔コト〕〔シ〕。故。学ヒタルヲ。復。時ニ習ヲ謂。

敦ハ厚ヲ加フルソ。徳一性ヲ尊〔フ〕トハ。心ヲ存シテ而テ道一休ノ大ヲ極〔ムル〕所一以ナリ。問一学二道トハ。知ヲ致シ道一休ノ細ヲ尽〔ス〕所一以ナリ。二ノ者ノハ徳ヲ脩道ヲ凝ス大一端ナリ。一

毫ノ私一意ヲ以テ自〔ラ〕蔽〔ス〕。一毫ノ私一欲ヲ以テ自〔ラ〕累〔サ〕〔ス〕。其ノ已ニ知〔ル〕

所〔ヲ〕涵一泳テ已ニ能所ヲ敦一篤ニス。此。皆。心ニ存スル属。理ヲ析。毫一釐ノ差有〔ラ〕使〔メ〕〔ス〕。事ヲ処スルトキハ。過一不

及ノ謬有〔ラ〕使メ〔ス〕。理一義ヲハ則日ニ其ノ未タ知ラ〔サル〕所ヲ知り。節一文ヲハ則日

二其ノ未タ謹〔ル〕所ヲ謹シム。此。皆。知ヲ致スノ属。蓋シ。心ニ存スルニ非レ〔ハ〕以テ知ヲ致〔ス〕コト無〔シ〕。心ニ存スル者ノ。又。

以テ知ヲ致サ〔ス〕ハアル〔ヘカ〕ラ〔ス〕。故ニ此ノ五一旬。大一小。相資。首一尾。相一応ス。聖一賢ノ徳ニ入ル方ヲ示ス所。此ヨリ詳ナルハ莫シ

学一者。宜ク心ヲ尽ス〔ヘ〕シ是故ニ上ニ居〔リ〕テ驕ラ〔ス〕。下ト為テ倍〔ス〕。国道有〔ル〕トキハ。其言以テ興スニ足レリ。国

道無〔キ〕トキハ。其黙以テ容ニ足レリ。詩二曰。既ニ明ニシテ且哲ナリ。以テ身ヲ保。其此ヲ謂カ

倍ハ背〔ト〕同。與ハ平一声。興ハ興一一起シテ位ニ在ルヲ謂。詩。大一雅。烝一民ノ篇ナリ

右 第二十七ノ章

人道ヲ言

子曰。愚ニシテ好<sup>コノム</sup>テ自<sup>ミ</sup>〔ラ〕。用<sup>井</sup>。賤<sup>1</sup>シテ好テ自〔ラ〕

。專<sup>2</sup>。今ノ世ニ生<sup>ムマレ</sup>テ古ノ道ニ反<sup>カヘル</sup>。此ノ如〔キ〕者。裁<sup>ワサ</sup>

。其ノ身ニ及〔フ〕者ナリ

好ハ去<sup>サイ</sup>―声。裁ハ古ノ災ノ字 ○以―上。孔―子ノ

言ヲ。子―思 引テ反―覆ス

天―子ニ非<sup>アラサレハ</sup> 札ヲ議<sup>ハカラ</sup> (ス)。度ヲ制<sup>セ</sup> (ス)。文ヲ考<sup>カムカハ</sup>

(ス)

此ヨリ以―下ハ子―思カ言ナリ。札ハ親―疏。貴―

賤。相―接<sup>マシハル</sup> 体。度ハ品―制。文ハ書ノ名

今。天―下。車<sup>クルマ3</sup> 軌ヲ同〔フ〕シ。書。文ヲ同〔フ〕シ

。行 倫ヲ同〔フ〕ス

行 去声 ○今トハ子―思。自〔ラ〕。當時ヲ謂。

軌ハ轍―迹ノ度。倫ハ次―序ノ体。三ノ者ノ皆。同

シ。言<sup>イフココロ</sup> 八天―下 一―統ナリ

其ノ位<sup>クラ井</sup> 有〔リ〕ト雖<sup>マコト</sup>ヘ〔トモ〕。苟ニ其ノ徳 無〔キ〕

第二十七章 第二十八章

トキハ。敢テ礼―樂ヲ作<sup>ツクラ</sup> (ス)。其〔ノ〕徳 有〔リ〕

ト雖〔モ〕。苟ニ其ノ位<sup>クラ井</sup> 無〔キ〕トキハ。亦 敢テ礼―

樂ヲ作〔ラ〕 (ス)

鄭―氏カ曰。言ハ礼―樂ヲ作ル者。必 聖―人ニシ

テ天―子ノ位ニ在テナリ

子曰 吾レ。夏ノ礼ヲ説<sup>トカムトストレトモ</sup>。杞<sup>4</sup>。微<sup>4</sup> 二足〔ラ〕

(ス)。吾レ殷ノ礼ヲ拳<sup>マナヒクレトモ</sup>。宋ノミ存スルコト有〔リ〕。

吾レ周ノ礼ヲ学<sup>マナム</sup>テ今 用ル。吾ハ周二従<sup>5</sup>フ

此。又。孔―子ノ言ヲ引〔ク〕。杞〔ハ〕夏ノ後ナ

リ。微ハ證。宋ハ殷ノ後ナリ 三―代ノ礼。孔―子

。皆 嘗<sup>カツ</sup>テ之ヲ学〔フ〕而テ能〔ク〕。其ノ意ヲ言

〔フ〕。但。夏ノ礼ハ既ニ考―證ス可〔ラ〕 (ス)。殷

ノ礼ハ存〔ス〕ト雖〔モ〕。又 當―世ノ法ニ非

〔ス〕。惟<sup>タ</sup>。周ノ礼ハ乃。時ノ王ノ制ナリ。今―日

用ル所 孔―子。既ニ位ヲ得〔サ〕レハ周二従フ而

已<sup>ノミ</sup>

右 第二十八ノ章

上ノ章ノ倍ソムカ（ス）ト云〔二〕承テ而テ言フ。亦  
人ノ道ナリ

天ノ下ニ王タルニ三ノ重有〔リ〕。其〔レ〕過チ寡キ  
乎カナ

王ハ去声 ○呂ノ氏カ曰 三ノ重ハ。礼ヲ議シ度ヲ  
制シ。文ヲ考フルヲ謂フ。惟タ。天ノ子。以テ之ヲ行

〔フ〕コトヲ得トキハ。国 政ヲ異ニセ（ス）。家  
俗ヲ殊ニセ（ス）シテ人。過アヤマチスクナキ 寡 コトヲ得

上カミタル者ノ。善ト雖ヘ〔トモ〕。微シルシ無シ 微シルシ無〔キ〕ト  
キハ。信ゼラレ（ス）。信セラレ（サル）トキハ。民

從シタカハ（ス）。下シモタルモ者ノ善ト雖ヘトモ尊カラ（ス）。尊カラ  
（サル）トキハ。信セラレ（ス）。信セ〔ラレ〕（サル）

〔トキ〕ハ民 從シタカハ（ス）  
上トハ。時ノ王ヨリ。以サキ前。夏商ノ礼ノ如キ善ト

雖ヘトモ。皆。考〔ス〕可〔ラ〕（サル）〔ヲ〕謂フ。  
下トハ。聖ノ人ノ下ニ在〔リ〕。孔ノ子ノ如ク礼ニ

善ト雖ト〔モ〕。尊ノ位ニ在〔ラ〕（サル）ヲ謂

故ニ君ノ子ノ道ハ。身ニ本モトツク。庶ノ民ニ微シルシアリ。三ノ王

ニ考カムカヘテ繆アヤマラス。天ノ地ニ建テ悖ミタレ（ス）。鬼ノ神ニ質タマシ

テ疑ウタカフコト無シ。百ノ世ニシテ以テ聖ノ人ヲ俟テ惑マトハ

（ス）

此ノ君ノ子トハ天ノ下ニ王タル者ノヲ指シテ言フ。

其ノ道トハ。即。礼ヲ議シ。度〔ヲ〕制ス 文ヲ考

ル事ナリ。身ニ本〔ツク〕トハ其ノ徳 有ルソ。庶ノ

民〔ニ〕微〔ス〕トハ。其ノ信テ從〔フ〕所ニ驗シルシヤ

。建ハ立。此ニ立テ彼ニ參カシコス。天ノ地ハ。道。

鬼ノ神ハ造ノ化ノ迹ナリ。百ノ世ニシ〔テ〕以テ聖ノ

人ヲ俟〔テ〕惑〔ハ〕（サル）トハ。所ノ謂。聖ノ

人。復。起オコルトモ。吾カ言ヲ易シト云者ノナリ

鬼ノ神〔ニ〕質タマシテ疑ウタカフコト無〔キ〕トキハ。天ヲ知ル。

百ノ世ニシテ以テ聖ノ人ヲ俟マチテマトハ惑シルシ（サル）トキハ人ヲ知

ル

天ヲ知〔リ〕。人ヲ知〔ル〕ト云〔ハ〕。其ノ理ヲ知

〔ル〕

是<sup>ノ</sup>故ニ君一子 動トキハ世。天一<sup>下</sup>ノ道ト為ス。行<sup>フコナラ</sup>

世。天<sup>トキハヨ、</sup>一<sup>ハウ</sup>下ノ法ト為ス。言<sup>イフトキハヨ、</sup> 世。天<sup>ノリ</sup>一<sup>ノリ</sup>下ノ則ト為ス

遠<sup>サクルトキハ</sup> 望コト有〔リ〕。近ツクルトキハ厭<sup>イトハ</sup> (ス)

動トハ言一<sup>カネ</sup>行ヲ兼テ言フ。道ハ法一<sup>カネ</sup>則ヲ兼テ言フ。

法ハ法一<sup>シユム</sup>度。則ハ準則

詩二曰。彼<sup>カシコ</sup>ニ在テモ。惡<sup>ニクマル、</sup> コト無ク。此<sup>コ、</sup>ニ在テモ射<sup>イト</sup>

ハル、 コト無シ。夙一夜〔二〕庶幾<sup>コヒネカ</sup>テ以テ永ク譽<sup>ホマレ</sup>ヲ終フ

ト云ヘリ。君一子 未タ有ラシ。此ノ如ナラ(ス)シテ

蚤<sup>ハヤク</sup>。天<sup>ホマレ</sup>一<sup>モノ</sup>下ニ譽有ル者ハ

惡ハ去一<sup>ト</sup>声 射ノ音ハ妬。詩ニハ數ニ作〔ル〕○

詩。周一頌。振一鷺ノ篇。射<sup>サ</sup>ハ厭。所一<sup>サシ</sup>謂。此ハ。

身ニ本〔ツクト〕云。以一<sup>サシ</sup>下ノ六ツノ事ヲ指テ言

〔フ〕

右 第二十九ノ章

上ノ章 上ニ居〔リ〕テ驕〔ラ〕(ス)ト云〔二〕

承テ言フハ亦。人一<sup>サシ</sup>道ナリ

第二十九章 第三十章

仲一<sup>カミ</sup>尼 堯舜ヲ祖一<sup>カミ</sup>述シテ文武ヲ憲一<sup>カミ</sup>章ス。上。天ノ時

ヲ律。下 水一<sup>ヨル</sup>土ニ襲

祖一<sup>ヨル</sup>述トハ。遠ク。其ノ道ヲ宗トス。憲一<sup>ヨル</sup>章トハ。

近ク其ノ法ヲ守ル。天ノ時ヲ律トハ。其ノ自一<sup>ヨル</sup>然ノ

運<sup>ノトル</sup>ニ法水一<sup>ヨルト云</sup>土ニ襲ハ。一<sup>ヨル</sup>定ノ理ニ因。皆 内一

外ヲ兼。本一<sup>カネ</sup>末ヲ該テ言〔フ〕

辟<sup>タトヘ</sup>ハ天一<sup>カネ</sup>地ノ持一<sup>カネ</sup>載セ(サル)無ク。覆一<sup>カウセ</sup>幃(ス)ト

云コト無カ如シ。辟<sup>タトヘ</sup>ハ四一<sup>ユク</sup>時ノ錯一<sup>ユク</sup>行カ如シ。日一<sup>ユク</sup>月

ノ代<sup>カハル</sup>明<sup>アキラカナル</sup>カ如シ

辟 音ハ譬。幃<sup>ト</sup>ハ徒一<sup>ホウ</sup>報ノ反 ○錯<sup>テツ</sup>ハ猶ヲ迭ノ(コ

ト)シ。此ハ聖一<sup>ト</sup>人ノ徳ヲ言

万一<sup>ナラヒ</sup>物。並<sup>イクセラレ</sup>ニ育<sup>テ</sup>相一<sup>サシ</sup>害セ(ス)。道 並<sup>フコナハレテ</sup>二行

相一<sup>ミケレ</sup>悖(ス)。小一<sup>トム</sup>徳ハ川一<sup>トム</sup>流シ大一<sup>トム</sup>徳ハ敦一<sup>トム</sup>化ス 此

レ天一<sup>タル</sup>地ノ大 為所一<sup>タル</sup>以ナリ

悖<sup>バイ</sup>ハ猶ヲ背ノ(コト)シ。天 覆<sup>オホヒ</sup>。地載<sup>ノセ</sup> 万一<sup>トム</sup>物

並<sup>トム</sup>ニ其ノ間ニ育セラル 而テ相一<sup>サシ</sup>害セ(ス)。四一

第三十章 第三十一章

時。日一月。錯<sup>タカヒ</sup>行<sup>ユイ</sup>テ代<sup>カハル</sup>。明ニシテ相<sup>ミタレ</sup>悖ス。害

セ(ス)悖レサル所<sup>ヲコナハル</sup>以ハ小<sup>コ</sup>徳ノ川<sup>カハ</sup>流ナリ。並

ニ育セラレ。並ニ行<sup>ヲコナハル</sup>所<sup>ヲコナハル</sup>以ハ大<sup>オホ</sup>徳ノ敦<sup>ツム</sup>化ナ

リ。小<sup>コ</sup>徳ハ。全<sup>ケン</sup>体ノ分。大<sup>オホ</sup>徳ハ。万<sup>マン</sup>殊<sup>モト</sup>ノ本。

川<sup>カハ</sup>流ハ川<sup>カハ</sup>ノ流<sup>ル</sup>カ如<sup>カ</sup>〔シ〕。脉<sup>ハク</sup>絡<sup>ラク</sup>分<sup>ワケ</sup>明ニシ

(テ)往<sup>ユイ</sup>〔テ〕息<sup>ヤマ</sup>(ス)。敦<sup>ツム</sup>化ハ。其<sup>ソノ</sup>化<sup>カ</sup>ヲ敦<sup>ツム</sup>厚

ニシテ根<sup>ネ</sup>一本。盛<sup>セイ</sup>大ニシテ出<sup>イダス</sup>コト窮<sup>キウ</sup>マリ無シ。

此ハ天<sup>アメ</sup>地<sup>ツチ</sup>ノ道<sup>ミチ</sup>ヲ言<sup>イハ</sup>テ以テ上<sup>ウヘ</sup>ノ文<sup>フミ</sup>ニ辟<sup>ヒラケ</sup>ヲ取<sup>トル</sup>ル意<sup>イ</sup>ヲ

見<sup>ミ</sup>ス

右 第三十章

天道ヲ言

唯<sup>タ</sup>天<sup>アメ</sup>下<sup>シタ</sup>ノ至<sup>タリ</sup>聖<sup>セイ</sup>ノミ。能<sup>ユク</sup>〔ク〕。聰<sup>ソウ</sup>明<sup>メイ</sup>。睿<sup>ズイ</sup>知<sup>チ</sup>ニ

シテ以テ臨<sup>ノソム</sup>コト有<sup>アリ</sup>〔ル〕ニ足<sup>タリ</sup>。寬<sup>クワン</sup>裕<sup>ユウ</sup>。温<sup>オン</sup>柔<sup>ジウ</sup>ニシテ

。以テ容<sup>イル</sup>コト有<sup>アリ</sup>〔ル〕ニ足<sup>タリ</sup>。発<sup>ハツ</sup>強<sup>キョウ</sup>。剛<sup>コウ</sup>毅<sup>ギ</sup>。以テ執<sup>トル</sup>

コト有<sup>アリ</sup>〔ル〕ニ足<sup>タリ</sup>。齊<sup>サイ</sup>莊<sup>シヤウ</sup>。中<sup>チュウ</sup>正<sup>テイ</sup>ニシテ以テ敬<sup>ケイ</sup>スルコ

ト有<sup>アリ</sup>〔ル〕ニ足<sup>タリ</sup>。文<sup>ブン</sup>理<sup>リ</sup>。密<sup>ミツ</sup>察<sup>サツ</sup>ニシテ以テ別<sup>ワケ</sup>コト有

〔ル〕ニ足<sup>タルコト</sup>ヲ為ス

知ハ去<sup>ク</sup>声<sup>シヤウ</sup>。齊<sup>サイ</sup>ハ側<sup>ソバ</sup>皆<sup>ケレ</sup>ノ反<sup>ヘン</sup>。別<sup>ワケ</sup>ハ彼<sup>カノ</sup>列<sup>レツ</sup>ノ反<sup>ヘン</sup>。聰<sup>ソウ</sup>

明<sup>メイ</sup>。睿<sup>ズイ</sup>知<sup>チ</sup>ハ生<sup>シヤウ</sup>知<sup>チ</sup>ノ質<sup>シツ</sup>ナリ。臨<sup>リン</sup>トハ上<sup>ウヘ</sup>ニ居<sup>イ</sup>〔リ〕

テ下<sup>シタ</sup>ニ臨<sup>リン</sup>〔ム〕ヲ謂<sup>イハレ</sup>。其<sup>ソノ</sup>下<sup>シタ</sup>ノ四<sup>シ</sup>ツノ者<sup>モノ</sup>ノハ乃<sup>ナリ</sup>。仁

。義<sup>ギ</sup>。礼<sup>レイ</sup>。知<sup>チ</sup>ノ徳<sup>トク</sup>ナリ。文<sup>ブン</sup>〔トハ〕文<sup>ブン</sup>章<sup>シヤウ</sup>。理<sup>リ</sup>トハ

条<sup>ジョウ</sup>理<sup>リ</sup>。密<sup>ミツ</sup>トハ詳<sup>シヤウ</sup>細<sup>サイ</sup>ニスルソ。察<sup>サツ</sup>トハ明<sup>メイ</sup>辨<sup>ベン</sup>ニス

ルコト

溥<sup>フ</sup>博<sup>ハク</sup>。淵<sup>エン</sup>泉<sup>セン</sup>ニシテ時<sup>トキ</sup>ニ出<sup>イダ</sup>ス

溥<sup>フ</sup>博<sup>ハク</sup>ハ。周<sup>アマネク</sup>徧<sup>アマネ</sup>〔ク〕シテ広<sup>ヒロシ</sup>闊<sup>クワン</sup>。淵<sup>エン</sup>泉<sup>セン</sup>ハ

。静<sup>シヤウ</sup>深<sup>シン</sup>ニシテ本<sup>ホン</sup>有<sup>アリ</sup>〔リ〕。出<sup>イダ</sup>スコト発<sup>ハツ</sup>見<sup>ミ</sup>言<sup>ゴン</sup>

ハ五<sup>イ</sup>ノ者<sup>モノ</sup>ノ徳<sup>トク</sup>。中<sup>チュウ</sup>ニ充<sup>ミチ</sup>積<sup>ツム</sup>テ時<sup>トキ</sup>ヲ以テ外<sup>ガイ</sup>ニ発<sup>ハツ</sup>見<sup>ミ</sup>

溥<sup>フ</sup>博<sup>ハク</sup>ハ天<sup>アメ</sup>ノ如<sup>カ</sup>シ。淵<sup>エン</sup>泉<sup>セン</sup>ハ淵<sup>エン</sup>ノ如<sup>カ</sup>シ。見<sup>ミ</sup>テ民<sup>ミン</sup>敬<sup>ケイ</sup>セ

(ス)ト云<sup>イハ</sup>コト莫<sup>ム</sup>シ。言<sup>イハ</sup>テ民<sup>ミン</sup>信<sup>シン</sup>セ(ス)ト云<sup>イハ</sup>莫<sup>ム</sup>シ。行

テ民<sup>ミン</sup>。説<sup>ヨロコバ</sup>(サル)コト莫<sup>ム</sup>シ

見<sup>ミ</sup>カ音<sup>オン</sup>ハ現<sup>ゲン</sup>。説<sup>セツ</sup>音<sup>オン</sup>ハ悦<sup>エツ</sup>。○言<sup>ゴン</sup>ハ其<sup>ソノ</sup>充<sup>ミチ</sup>積<sup>ツム</sup>テ其<sup>ソノ</sup>

盛<sup>セイ</sup>ヲ極<sup>キハメ</sup>テ発<sup>ハツ</sup>見<sup>ミ</sup>ヘテ其<sup>ソノ</sup>可<sup>カ</sup>ニ當<sup>タウ</sup>〔ル〕

是<sup>コト</sup>以<sup>ヨリ</sup>テ声<sup>シヤウ</sup>一名<sup>イツ</sup>。中<sup>チュウ</sup>国<sup>コク</sup>ニ洋<sup>ヤウ</sup>溢<sup>イツ</sup>〔シ〕テ蠻<sup>マン</sup>貊<sup>モウ</sup>ニ施<sup>セキ</sup>及<sup>キ</sup>

〔ホ〕ス。舟車 至ル所。人―カノ通スル所。天ノ覆フ所。地ノ載<sup>ノスル</sup>所。日―月ノ照ス所。霜―露ノ隊<sup>オツル</sup>所。凡ソ血―氣 有ル者ノ尊―親セ（ス）ト云コト莫シ。故ニ天ニ配スト曰フ

施ハ去―声。隊<sup>タイカ</sup>音ハ墜<sup>ツイ</sup> ○舟―車ノ至（ル）所ト云ヨリ以―下。蓋〔シ〕之ヲ極―言〔フ〕。天ニ配ストハ言〔ハ〕其ノ徳ノ及ホス所。広―大ナルコト天ノ如シ

右 第三十一ノ章

上ノ章ヲ承ケテ小―徳ノ川―流スト云ヲ言フ 亦天―道ナリ

唯<sup>タ</sup> 天―下ノ至―誠ノミ。能ク天―下ノ大―経ヲ経―綸シ。天―下ノ大―本ヲ立<sup>タテ</sup>。天―地ノ化―育ヲ知<sup>シルコト</sup>ヲ為<sup>ス</sup>。夫<sup>ソ</sup>焉<sup>イ</sup>倚<sup>ヨル</sup>所有ラム

夫カ音ハ扶。焉ハ於<sup>レ</sup>虔〔ノ〕反 ○経―綸ハ。皆絲<sup>イト</sup>ヲ治ル事ナリ。経ハ。其ノ緒ヲ理シテ之ヲ分ツソ。

第三十一章 第三十二章

綸ハ。其〔ノ〕類ヲ比シテ之ヲ合スルソ。経ハ常。大―経ハ。五―品ノ人―倫。大―本ハ性トスル所〔ノ〕全―体ナリ。惟<sup>タ</sup>。聖―人ノ徳。誠ヲ極〔メ〕テ無―妄<sup>マウ</sup>。故ニ人―倫ニ於テ各。其ノ當―然ノ実ヲ尽シテ皆。以テ天―下 後―世ノ法 為〔ル〕可〔シ〕。所謂。之ヲ経―綸スルナリ。其ノ性〔ト〕スル所ノ全―体ニ於テ―毫。人―欲ノ偽<sup>イツハリ</sup> 以テ之ニ雜<sup>マシナル</sup> 無シ 而テ天―下ノ道。千―變<sup>ヘム</sup>。万―化。皆此ニ由テ出ツ。所謂 之ヲ立ルナリ。天―地ノ化―育ニ於テハ。則。亦。極―誠 無―妄ノ者 默<sup>モクシ</sup>テ契<sup>カナフ</sup>コト有〔リ〕。但<sup>キ</sup>。聞<sup>ミ</sup>見テ知ル而―已ニ非〔ス〕。此。皆。至―誠。無―妄。自―然ノ功―用。夫。豈。物ニ倚<sup>ヨリ</sup>著<sup>ツク</sup>所 有テ而シテ後ニ能<sup>ヨクセムヤ</sup>哉

肫<sup>シユム</sup>―肫トシテ仁アリ。淵―淵トシテ淵ナリ。浩―浩トシテ其レ天

肫ハ之純ノ反 ○肫―肫ハ懇―至ノ貌。経―綸ヲ以テ言。淵―淵ハ静―深ノ貌。本ヲ立ルヲ以テ言フ。



浩一浩ハ広一夫ノ貌。化ヲ知〔ル〕ヲ以テ言フ。其ノ淵。其ノ天ハ特之ノ如クナル而已。非〔ス〕

苟 固ニ聰一明。聖一知ニシテ天ノ德ニ達スル者ニアラ〔ス〕ンハ其レ執カ能〔ク〕知ラム

聖一知ノ知ハ去声。○固ハ猶ヲ実ノ〔コト〕シ 鄭一氏カ曰。惟。聖一人。能〔ク〕聖一人ヲ知ル

右 第三十二章ノ章

上ノ章ニ承〔ケ〕テ大一德ノ敦一化ヲ言フ。亦。天一道ナリ。前ヘノ章ニハ至一聖ノ德ヲ言フ。此ノ章ハ至一誠ノ道ヲ言〔フ〕。然モ至一誠ノ道。至一聖ニ非〔ス〕ムハ知〔ル〕コト能〔ハ〕〔ス〕。至一聖ノ德。至一誠ニ非〔ス〕ムハ。為能〔ハ〕〔ス〕 亦二一物ニ非〔ス〕。此ノ篇 聖人。天一道ノ極一致ヲ言テ。此ニ至テ加フルコト無〔シ〕

詩二曰。錦ヲ衣テ綱ヲ尚。其ノ文ノ著。コトヲ惡ナリ。故ニ君一子ノ道ハ闇一然トシテ日ニ章。ナリ。小一

人ノ道ハ的一然トシテ日ニ亡。君一子ノ道ハ淡。テ厭〔ス〕。簡ニシテ文ナリ。温。テ理ナリ。遠キカ近キコトヲ知り。風ノ自コトヲ知り。微ノ顯。コトヲ知テ與ニ德ニ入ル可シ

衣ハ去一声。綱ハ口一迴ノ反。惡ハ去一声。闇ハ於一感ノ反。○前ノ章ニハ聖一人ノ德ヲ言テ其ノ盛ナルコトヲ極。此レハ復。下一学シテ心ヲ立ル始ニ

自〔リ〕テ之ヲ言フ。而テ下ノ文。又。之ヲ推テ以テ其〔ノ〕極ニ至ル。詩。国一風。衛ノ碩一人。鄭〔ノ〕丰。皆 錦ヲ衣テ裝一衣スト云ニ作。裝 綱同ク禪一衣ナリ 尚〔ハ〕加 古ヘノ学一者 己レ〔ノ〕為〔ニ〕ス 故〔ニ〕心ヲ立〔ツル〕コト此ノ如シ。綱ヲ尚ニス。故ニ闇一然タリ。錦ヲ衣ル。故ニ日ニ章。実 有リ。淡。簡。温。綱ハ外ニ襲。厭〔ハ〕〔ス〕シテ文ニシテ且 理アリ。錦ノ美

中ニ在〔リ〕。小一人。是レニ反スルハ。外ニ暴。実ノ以テ之ニ繼。無シ。是。以テ的一然トシテ

日<sup>ヒ</sup>ニ亡<sup>ビ</sup>フ。遠<sup>トホ</sup>キ〔カ〕近<sup>チカ</sup>シト云<sup>イハ</sup>ハ彼<sup>カシコ</sup>ニ見<sup>ミ</sup>ル者<sup>モノ</sup>ハ此<sup>ココ</sup>

ニ由<sup>ヨル</sup>。風<sup>カゼ</sup>ノ自<sup>ヨルト云</sup>ハ。外<sup>アラハル</sup>ニ著<sup>アツ</sup>者<sup>モノ</sup>ノ内<sup>ウチ</sup>ニ本<sup>ホ</sup>ツク。微<sup>ヒ</sup>ノ

頭<sup>アタリ</sup>〔ナル〕トハ。内<sup>ウチ</sup>ニ有<sup>アル</sup>〔ル〕者<sup>モノ</sup>ノ外<sup>ソト</sup>ニ形<sup>カタ</sup>。己<sup>ミ</sup>カ

為<sup>ナ</sup>ニスル心<sup>ココロ</sup>有<sup>アル</sup>〔リ〕テ又<sup>マタ</sup>此<sup>ココ</sup>ノ三<sup>サン</sup>ツ〔ノ〕者<sup>モノ</sup>ヲ知<sup>チ</sup>ルト

キハ。謹<sup>ツシム</sup>所<sup>トコロ</sup>ヲ知<sup>チ</sup>〔リ〕テ德<sup>トク</sup>ニ入<sup>イル</sup>〔ル〕可<sup>カ</sup>シ。故<sup>ユヘ</sup>ニ

下<sup>シタ</sup>モノ文<sup>ブキ</sup>ニ詩<sup>シ</sup>ヲ引<sup>ヒキ</sup>テ謹<sup>ツシム</sup>一<sup>ヒト</sup>独<sup>ドコ</sup>ノ事<sup>コト</sup>ヲ言<sup>イハ</sup>〔フ〕

詩<sup>シ</sup>ニ云<sup>イハ</sup> 潜<sup>カクレ</sup>テ伏<sup>フセリ</sup>ト雖<sup>モトモ</sup>ヘトモ。亦<sup>モトモ</sup>。孔<sup>アナハタイチシルシ</sup>昭<sup>アキラカニ</sup>。故<sup>ユヘ</sup>ニ君<sup>キミ</sup>一<sup>ヒト</sup>

子<sup>コ</sup>ハ内<sup>ウチ</sup>ニ省<sup>カヘリミル</sup>ニ。疚<sup>ヤマシカラ</sup>〔サル〕トキハ。志<sup>アシキ</sup>ニ惡<sup>アク</sup>コト

無<sup>ナシ</sup>シ。君<sup>キミ</sup>一<sup>ヒト</sup>子<sup>コ</sup>ノ及<sup>およ</sup>フ可<sup>カ</sup>〔ラ〕〔サル〕所<sup>トコロ</sup>ハ。其<sup>ソノ</sup>レ唯<sup>タ</sup>人<sup>ヒト</sup>

ノ見<sup>ミ</sup>〔サ〕ル所<sup>トコロ</sup>カ

惡<sup>アク</sup>ハ去<sup>サ</sup>一<sup>ヒト</sup>声<sup>コエ</sup> ○詩<sup>シ</sup>。小<sup>コ</sup>一<sup>ヒト</sup>雅<sup>ヤ</sup>。正<sup>ただ</sup>一<sup>ヒト</sup>月<sup>ツキ</sup>ノ篇<sup>マカ</sup>。上<sup>ウヘ</sup>ノ文<sup>ブキ</sup>ニ

承<sup>カクレタルヨリアラハナル</sup>テ隱<sup>カクレ</sup>見<sup>ミ</sup>ハ莫<sup>ナシ</sup>シ。微<sup>ヒ</sup>ヨリ頭<sup>アキラカナル</sup>ハ莫<sup>ナシ</sup>〔キラ〕

言<sup>イハ</sup>フ。疚<sup>キウ</sup>ハ病<sup>ヘイ</sup>。志<sup>シ</sup>ニ惡<sup>アク</sup>〔キ〕コト無<sup>ナシ</sup>〔シ〕トハ。猶<sup>ナド</sup>

ヲ心<sup>ココロ</sup>ニ愧<sup>ハツル</sup>コト無<sup>ナシ</sup>〔キ〕コト〔ヲ〕言<sup>イハ</sup>ハンカ〔コト〕

シ 此<sup>ココ</sup> 君<sup>キミ</sup>一<sup>ヒト</sup>子<sup>コ</sup>ノ謹<sup>ツシム</sup>一<sup>ヒト</sup>独<sup>ドコ</sup>ノ事<sup>コト</sup>ナリ

詩<sup>シ</sup>ニ云<sup>イハ</sup>。爾<sup>ナムチ</sup>ノ室<sup>ミツ</sup>ニ在<sup>イル</sup>〔ル〕ヲ相<sup>ミル</sup>ニ。尚<sup>ナラ</sup>。屋<sup>ヤク</sup>一<sup>ヒト</sup>漏<sup>ロウ</sup>ニ愧<sup>ハチ</sup>

〔ス〕 故<sup>ユヘ</sup>ニ君<sup>キミ</sup>一<sup>ヒト</sup>子<sup>コ</sup>ハ。動<sup>ウゴカ</sup>〔ス〕〔シ〕テ敬<sup>イハ</sup>ス。言<sup>イハ</sup>〔ス〕

第三十三章

シテ信<sup>チ</sup>ス

相<sup>カ</sup>ハ去<sup>サ</sup>一<sup>ヒト</sup>声<sup>コエ</sup> ○詩<sup>シ</sup>。大<sup>オホ</sup>一<sup>ヒト</sup>雅<sup>ヤ</sup>。抑<sup>ヨク</sup>ノ篇<sup>マカ</sup>。相<sup>カ</sup>ハ視<sup>シ</sup>。屋<sup>ヤク</sup>

漏<sup>ロウ</sup>ハ室<sup>ミツ</sup>ノ西<sup>ニシ</sup>一<sup>ヒト</sup>北<sup>キタ</sup>ノ隅<sup>カド</sup>。上<sup>ウヘ</sup>ノ文<sup>ブキ</sup>〔ニ〕承<sup>ツキ</sup>テ又<sup>マタ</sup>。君<sup>キミ</sup>一<sup>ヒト</sup>子<sup>コ</sup>

ノ戒<sup>メ</sup>謹<sup>ツシム</sup>シムテ恐<sup>ソレ</sup>懼<sup>チ</sup>テ時<sup>トキ</sup>トシテ然<sup>シ</sup>〔ラ〕〔ス〕ト

云<sup>イハ</sup>コト無<sup>ナシ</sup>〔キ〕コトヲ言<sup>イハ</sup>〔フ〕。言<sup>イハ</sup>一<sup>ヒト</sup>動<sup>ウゴ</sup>ヲ待<sup>マツ</sup>〔タ〕

〔ス〕シテ而<sup>シテ</sup>後<sup>ノチ</sup>ニ敬<sup>ツギ</sup>一<sup>ヒト</sup>信<sup>チカ</sup>アルトキハ其<sup>ソノ</sup>ノ己<sup>ミ</sup>カ為<sup>ナ</sup>

〔ニ〕スルノ功<sup>イサメ</sup>。益<sup>マク</sup>。加<sup>マク</sup>密<sup>カシ</sup>ナリ。故<sup>ユヘ</sup>ニ下<sup>シタ</sup>ノ文<sup>ブキ</sup>ニ詩<sup>シ</sup>

ヲ引<sup>ヒキ</sup>テ并<sup>アハセ</sup>テ其<sup>ソノ</sup>ノ効<sup>シルシ</sup>ヲ言<sup>イハ</sup>フ

詩<sup>シ</sup>ニ曰<sup>イハ</sup>。仮<sup>カ</sup>コトヲ奏<sup>ス、メ</sup>テ言<sup>イハ</sup>コト無<sup>ナシ</sup>シ。時<sup>トキ</sup>ニ争<sup>マカ</sup>ソフコト

有<sup>アル</sup>ルコト靡<sup>ナシ</sup>。是<sup>コト</sup>ノ故<sup>ユヘ</sup>ニ君<sup>キミ</sup>一<sup>ヒト</sup>子<sup>コ</sup>ハ賞<sup>ウラナヒ</sup>セスシテ民<sup>タチ</sup>勸<sup>ウレ</sup>ム。怒<sup>イカ</sup>

〔ス〕シテ民<sup>タチ</sup>。鉄<sup>テツ</sup>一<sup>ヒト</sup>鉞<sup>ツツ</sup>ヲ威<sup>イハ</sup>

仮<sup>カ</sup>ハ格<sup>カク</sup>ト同<sup>ドコ</sup>。鉄<sup>テツ</sup>カ音<sup>ネ</sup>ハ夫<sup>トコ</sup> ○詩<sup>シ</sup>。商<sup>シヤウ</sup>一<sup>ヒト</sup>頌<sup>ソウ</sup>。烈<sup>レツ</sup>一<sup>ヒト</sup>祖<sup>ソ</sup>ノ

篇<sup>マカ</sup>。奏<sup>ス、メ</sup>ハ進<sup>マカ</sup>。上<sup>ウヘ</sup>ノ文<sup>ブキ</sup>ニ承<sup>ツキ</sup>〔テ〕遂<sup>ツギ</sup>ニ其<sup>ソノ</sup>ノ効<sup>シルシ</sup>ニ及<sup>およ</sup>フ。

言<sup>イハ</sup>ハ進<sup>マカ</sup>テ感<sup>カン</sup>セシムルコト神<sup>カミ</sup>一<sup>ヒト</sup>明<sup>アカシ</sup>ノ際<sup>サカイ</sup>タニ格<sup>イタル</sup>。其<sup>ソノ</sup>ノ

誠<sup>マコト</sup>一<sup>ヒト</sup>敬<sup>ツギ</sup>ヲ極<sup>タマ</sup>メテ言<sup>イハ</sup>一<sup>ヒト</sup>説<sup>セツ</sup>有<sup>アル</sup>〔ル〕コト無<sup>ナシ</sup>〔シ〕。而<sup>シテ</sup>

テ人<sup>ヒト</sup>自<sup>オ</sup>〔ラ〕之<sup>ノ</sup>ニ化<sup>カ</sup>ス。威<sup>イ</sup>ハ畏<sup>オソ</sup>。鉄<sup>テツ</sup>ハ莖<sup>サ</sup>一<sup>ヒト</sup>斫<sup>セキ</sup>ノ刀<sup>ヤ</sup>。

鉞<sup>ツツ</sup>ハ斧<sup>ノ</sup>

詩二曰。顕ナラ（サラ）ンヤ。惟徳。百一辟。其レ刑ト  
ス是<sup>レ</sup>故ニ君一子ハ恭ニ篤<sup>アツクシ</sup>テ天一<sup>タヒラカ</sup>下平ナリ

詩。周頌 烈一<sup>カリ</sup>文ノ篇。顕（ナラ）（ス）ト云（ハ）

。説ハ。二一十一六ノ章ニ見タリ。此ハ借テ引テ以

テ幽一深。玄一遠ノ意ト為ス。上ノ文ニ承テハ言ハ

天一子不<sup>レ</sup>顕ノ徳 有（リ）テ諸一侯<sup>ノトルトキハ</sup>之ニ法

其ノ徳。愈<sup>マスキ</sup>深シテ効愈<sup>シルシマスキ</sup>。遠シ。篤ハ厚<sup>トク</sup>。恭ニ

篤トハ。言ハ顕<sup>アラハレ</sup>（ス）シ（テ）其レ敬アリ。恭ニ

篤シテ天一<sup>トク</sup>下平ナルハ乃 聖一人ノ至一徳。淵一

微。自一然ノ応。中一庸ノ極一功ナリ

詩二曰。予。明一徳ニ懷<sup>ヨル</sup>。声ヲ大<sup>コエ</sup>。色ヲ以（テ）セ

ス。子ノ曰 声一色ノ以テ民ヲ化スルニ於コトハ。末<sup>スエナリ</sup>。

詩二曰。徳ノ輶<sup>カロイ</sup>コト毛ノ如シ。毛ハ猶（ヲ）。倫 有

（リ）。上<sup>コト</sup>一<sup>フトモ</sup>天ノ載。声無ク 臭<sup>カモ</sup> 無シ。至レルカナ

輶ハ由 西 二ノ音 ○詩。大<sup>イ</sup>一雅。皇一<sup>イ</sup>矣ノ篇。

之ヲ引テ上ノ文ノ所<sup>アマサ</sup>謂。不<sup>レ</sup>一<sup>アマサ</sup>顕ノ徳ト云ハ。正ニ

以テ声（ト）色ト大ニ（スルニ）（アラ）サルコト

ヲ明ス。又。孔一子ノ言ヲ引テ以テ声一色（ハ）乃  
。民ヲ化スル末ノ務<sup>ツトメナリト</sup> 為ス。今。但。之ヲ大ニス

ル而<sup>レ</sup>已ニ（アラス）ト言ハ猶。声一色ナル者ノ有

（リ）テ存ス。是。未タ以テ不<sup>レ</sup>一<sup>カリ</sup>顕ノ妙ヲ形一容ス

ルニ足（ラ）ス。烝一民ノ詩ニ言（フ）所ノ。徳ノ

輕<sup>カロイ</sup>コト毛ノ如ト云ニ若<sup>シカ</sup>ス。庶乎<sup>チカウシテ</sup>以テ形一容ス可

（シ）。而モ又。自（ラ）以<sup>オモヘラク</sup>為。之ヲ毛ト謂（ハ）

猶。比ス可（キ）者 有リ。是。亦。未タ其ノ妙ヲ

尽（サ）ス。文一王ノ詩ニ言（フ）所ノ上<sup>トク</sup>一<sup>トク</sup>天ノ事

。声<sup>フトモ</sup>無ク。臭<sup>カモ</sup> 無（ク）シテ然<sup>テ</sup>後ニ乃。不<sup>レ</sup>一<sup>トク</sup>顕

ノ至ト為ニ若<sup>シカ</sup>（サ）ル耳<sup>ノミ</sup>。蓋（シ）声ト臭<sup>シウト</sup>（ハ）

氣 有（リ）テ形 無シ。物ニ在テ最モ。微一妙ナ

リト為ス 而シテ猶。無シト曰フ。故ニ唯<sup>タ</sup>。此。以

テ不<sup>レ</sup>一<sup>カリ</sup>顕。篤一恭ノ妙ヲ形一容ス可（シ）。此ノ徳

ノ外。又。別ニ是（ノ）三一等 有（リ）テ然<sup>テ</sup>後

ニ至ト為ニ非（ス）

右 第三十三ノ章。子一思。前ノ章ノ極一<sup>コト</sup>致ノ言ニ因

テ反<sup>カヘツ</sup>テ其ノ本ヲ求メテ復<sup>マタ</sup>。下<sup>9</sup>一学シテ己カ為<sup>タメニシ</sup>。独  
 アル〔ヲ〕謹<sup>ツ、シム</sup>事ニ自テ推テ之ヲ言テ以〔テ〕恭ニ  
 篤<sup>アルコトヲ</sup>天<sup>アツクシテ</sup>一<sup>クシテ</sup>下<sup>クシテ</sup>平<sup>タヒラカ</sup>盛ナルコトヲ馴<sup>シユム</sup>一<sup>チ</sup>致ス又其ノ  
 妙ヲ賛スルコト声<sup>タイラカニ</sup>無ク臭<sup>カモ</sup>無キニ至<sup>イタ</sup>テ後ニ已<sup>ヤム</sup>。蓋<sup>ケタシ</sup>  
 。一篇ノ要ヲ挙テ約<sup>11ツ、メ</sup>之ヲ言フ。其ノ反<sup>12</sup>一復。丁<sup>1</sup>一寧  
 ニシテ人ニ示<sup>シメ</sup>〔ス〕意<sup>メテ</sup>。至テ深<sup>1</sup>一<sup>1</sup>切ナリ。学<sup>1</sup>一者。其  
 レ心ヲ尽サ〔サ〕ル〔ハ〕ケムヤ

中庸章句畢

校異

大学章句

序

1 国会本谷村本「人ニ教ヘタル」 2 国会本谷村本「所一有ヲ」  
 3 宣賢本神宮本内閣本「之ヲ全スルコト」 4 神宮本「為シテ」  
 宣賢本内閣本「為<sup>シ</sup>」 為には「ナス」「ス」の両読があるように

第三十三章

思われる。 5 宣賢本神宮本内閣本「立<sup>タテシ</sup>」 国会本「極ヲ立テ  
 タル」 6 国会本谷村本「サカンナツシトキ」 7 谷村本「ヨフ  
 ヤク」 8 国会本「八歳ナルト、ハ則<sup>ス</sup>」 9 谷村本「衆子ト」  
 10 宣賢本内閣本「心ヲタ、シウシ」 11 国会本「以テ分レタル  
 所ナリ」 12 宣賢本内閣本「ツマヒラカナル」 13 内閣本「当<sup>1</sup>  
 世ノ人。其ノ学ヲ学ヒスト云者無<sup>モ</sup>シ」 国会本「其ノ焉ヲ学フ  
 ヲ」 14 谷村本「固<sup>コ</sup>一有スル」 15 宣賢本内閣本「サカンニ」  
 16 国会本「ウルハシウシテ」 17 国会本「是ニ於テ」 以下皆同  
 清家点は「於是」で「ココニ」と読む 18 宣賢本内閣本国会  
 本「ツク」 19 谷村本「此ノ篇ト云ハ」 20 谷村本「存スト雖ヘ  
 トモ」 21 国会本「コノカタ」 「ヲチツカタ」 両読。 22 神宮本  
 「ハイスレトモ」 23 宣賢本神宮本内閣本「セツ」 24 国会本  
 「功一<sup>1</sup>名ヲ就スノ説ト夫百<sup>カ</sup>一家衆一<sup>1</sup>技ノ流 世ヲ或ハシ民ヲ誣<sup>シ</sup>  
 テ仁一<sup>1</sup>義ヲ充<sup>ソク</sup>一<sup>1</sup>塞スル所以ノ者ノ與<sup>ト</sup>……」 25 神宮本「往トシ  
 テ」 26 宣賢本神宮本内閣本「サカリサカンニシテ」 27 神宮本  
 内閣本「イニシヘノ」 28 谷村本国会本「アツカツテ聞ク（ン）  
 コト有リ」 29 宣賢本内閣本神宮本「ツケ」 30 国会本「ミチ」  
 31 内閣本「小」 補「で「シルシ」とも訓む

經一章

1 神宮本「モト」 2 宣賢本神宮本内閣本「ノ」 3 国会本「其ノ差ハ(サラ)ンニ庶<sup>チカカラシ</sup>」 神宮本も後筆でこの様に訂す。

4 内閣本「シンスル」 5 宣賢本神宮本内閣本「トハ」 6 神宮本「不昧ニシテ」 7 神宮本内閣本「氣一稟ノ為ニ拘<sup>カハフル</sup>所 人一欲ノ蔽<sup>カク</sup>所(ノ) 時トシテ昏<sup>クラキ</sup>コト有リ」( )は神宮本無し。

国会本「氣一稟ノ為ニ拘<sup>カハハラレ</sup>所……」 8 谷村本「未ダ嘗<sup>テ</sup>息(マサル)者ノ有(リ)」 9 神宮本「民ヲ新ニスルコト」 10 谷村本「必ス其レ」また「其<sup>カク</sup>」との後筆もあり。 11 谷村本「得タリ」 12 谷村本「処<sup>ウツ</sup>所ニシテ」 13 宣賢本神宮本内閣本「シンヌル」 14 宣賢本神宮本内閣本「上文ノ」 15 宣賢本神宮本内閣本「コトライタス」 16 内閣本「実ナリ」 17 神宮本「正シクシテ」

内閣本「正シウシテ」 18 宣賢本神宮本内閣本「尽サスト云コト無ソ」 19 谷村本「実ナル」 「正シカル」 20 神宮本「至ルトキハ」 21 谷村本「ツイテナリ」 22 宣賢本神宮本内閣本「ヒトツ」 谷村本「壺一是<sup>シ</sup>」 23 神宮本「壺一是ハ」 24 谷村本「一一切ナリ」 25 谷村本「錯ク」 26 宣賢本神宮本内閣本「ノミ」

27 宣賢本内閣本「ト云ハ」 28 神宮本内閣本「コトハ」 30 神宮本「タカヒニ」 谷村本「タカヒニ」後筆で「サラニ」 31 宣賢本内閣本「コトニ」 神宮本「ワカテ」 32 神宮本内閣本「経一

伝ヲ雜<sup>マシヘテ</sup>引コト」 33 宣賢本神宮本内閣本「ヨミ」

伝首章

1 内閣本「カヘリミテ」「カヘリミレハ」両訓。谷村本「諷ノ天ノ明一命ヲ顧ルト云ヘリ」 2 内閣本「而シテ」 3 宣賢本神宮本内閣本「云コト無シ」 4 宣賢本神宮本内閣本「明<sup>アキカ</sup>ニス」ハという訓なし。 5 谷村本「明カナリ」 6 谷村本「引ク所ノ書ヲ結ス 皆自<sup>ミ</sup>ラ己カ徳ヲ明ニスルノ意ヲ言フ」

伝二章

1 宣賢本内閣本「コトバ」 2 谷村本「スツルコト」 3 谷村本「銘シ玉フ」 4 宣賢本神宮本「ホボ」 5 神宮本「舞スルヲ」 6 宣賢本神宮本内閣本「惟<sup>コ</sup>」 7 内閣本「セキ」

伝三章

1 宣賢本神宮本内閣本「メンハン」 2 谷村本「止マルト云リ」 3 宣賢本神宮本内閣本「緝<sup>シウキ</sup>熙<sup>アレ</sup>シテ」 谷村本「熙<sup>アレ</sup> 緝<sup>シウキ</sup> 止マルコトヲ敬シムト云ヘリ」 4 宣賢本神宮本内閣本「タミ」 5 宣賢本内閣本「辞ナリ」 6 神宮本内閣本「ツキツク」 7 宣賢本内閣本「光一明ナリ」 8 神宮本「安スルソ」 9 宣賢本「止〔マル〕コト」 神宮本「止テ」 10 神宮本「以テ其ノ止〔ル〕所ヲ知〔ル〕コト有テ疑フコト無シ」 11 宣賢本神宮本内閣本

「イク」 12 宣賢本神宮本内閣本「クエン」 13 神宮本内閣本「之ヲ磋ス」 14 神宮本内閣本「之ヲ磨ス」 15 神宮本「其ノ治ルコトノ緒有テ」 16 神宮本「マス〜」 17 神宮本「討〜論ノ」 18 宣賢本神宮本内閣本「セイ」 19 神宮本内閣本「ヲハリハ」 20 神宮本内閣本「之ヲ歎〜美ス」 21 谷村本「其ノ樂ヲ樂ンテ」 谷村整版「樂」<sup>ガツラ</sup>と訓じ朱筆にて「ラクヲ」と訂す。この谷村本整版の墨訓は、やや清家点に異なる所があり、朱筆の訂は清家点である。 22 神宮本内閣本「之ヲ玩」<sup>モテアソブ</sup> 谷村本「當ニ之ヲ熟玩スベシ」

#### 伝四章

1 宣賢本神宮本内閣本「ウタヘ」 2 宣賢本神宮本内閣本「コトハ」

#### 伝五章

1 谷村本「コトニ」<sup>タ、ニ</sup> 両訓 2 神宮本「ナラクノミ」内閣本「耳」<sup>ノミナリ</sup> 3 谷村本「チカコロカツテ」とも訓ず。 4 宣賢本内閣本「在ルコトハ」 神宮本「在リトハ」

#### 伝六章

1 神宮本「母レトソ」内閣本「ナカレ」<sup>ナシ</sup> 両読。 2 神宮本「ケウ」<sup>ケン</sup> 両読。 3 神宮本「スツル」 4 神宮本

「知リテ」内閣本「知レリ」<sup>知ラハ</sup> 両訓。 5 内閣本「シャシヨ」と訓 6 宣賢本神宮本内閣本「知ルニ」 7 神宮本「スル」 8 神宮本内閣本「見テ」 9 宣賢本「問ノ」 10 宣賢本神宮本内閣本「能ハスシテ」 11 宣賢本神宮本「欲スレトモ」内閣本「欲（スル）ハ」 12 谷村本「畏ルベキノ甚シキナリ」 13 谷村本「ユルヤカナリ」と細字にて訓じ他の墨訓とは別筆である。 14 神宮本内閣本「之ヲ結ス」 15 神宮本「イヤシクモ」内閣本「シヤエントシテ」<sup>イヤシクモ</sup> 両訓。 16 宣賢本神宮本内閣本「カヲ用（イル）始終ヲ」 17 宣賢本神宮本内閣本「可ラスシテ」

#### 伝七章

1 谷村本「一ヘニ」 2 谷村本「聞カス」 3 宣賢本神宮本内閣本国会本「アチハイヲ」 4 宣賢本内閣本「正シウスルニ」

#### 伝八章

1 宣賢本神宮本「齊フルコトハ」内閣本「トトノフルト云コトハ」 2 内閣本「則」<sup>ト</sup> 谷村本「本ト當〜然ノ則」<sup>ト</sup> 有り

#### 伝九章

1 谷村本「未タ……者有ラシ」 2 神宮本内閣本「而」<sup>后ニ</sup> 3 神宮本「ツトメテ」 4 宣賢本神宮本内閣本「シルシ」 5 内

閣本「人ニ求ム」 6内閣本「在リト云」 7宣賢本神宮本内閣本「タミ」 8神宮本内閣本「好」 9宣賢本神宮本内閣本「コノカミ」 10国会本「ウタカハ」 11宣賢本神宮本内閣本「ノトル」

### 伝十章

1内閣本「幼ニシテ」 2神宮本谷村本「母レ」内閣本「母レ」  
「母シ」兩訓、以下倣之。 3谷村本「無一礼ナルコトヲ」 4  
神宮本谷村本「不忠ナルコトヲ」内閣本「不忠アルコトヲ」  
「忠ナラサルコトヲ」兩読 5神宮本「無シ」 6宣賢本神宮本  
内閣本「コノ」谷村本版「只ノ君一子ヲ樂テ」 7内閣本「之  
ヲ好シ」  
「之ヲ悪ス」 8谷村本「能ク繋一矩シテ」 9神宮本  
「コ」 10神宮本内閣本「シタカフ」 11神宮本内閣本「此レ」  
以下同 12内閣本「外」 13神宮本内閣本「タカラ」 14神宮本  
「之ヲ得」  
「之ヲ失フ」 15内閣本「文公カ」  
「文公ノ」 16国会  
本「一有ルカ若キ」 17宣賢本神宮本内閣本「其レ」 18谷村本  
国会本「一有ルカ如シ」 19谷村本国会本「若クナルノミヘナ  
ラス」  
ニアラス」 20谷村本「寔」 能」内閣本「コレ」  
「マコ  
トニ」兩読 21国会本「以」 22国会本「之ヲ違」  
以下同 23国会本「ヲヒシリソケテ」 24内閣本「ニクミスト為スト」

「ニクムコトヲ為スト」兩訓。谷村本「ニクムコトヲ為スト」  
25内閣本「ツヨク」  
「イタク」兩訓 26内閣本「以テス」 27国  
会本「ヲコタレルナリ」 28谷村本「コノミ」以下同 29神宮  
本内閣本「是ヲ人ノ性ニ違フト謂フ」 30国会本「サカル」  
31谷村本「加一切ナリ」 32谷村本国会本「スミヤカニ」以下  
同 33谷村本国会本「ノブルトキハ」以下同 34谷村本国会本  
「生スル者ノ」 35谷村本「愚按スルニ此レハ」 36谷村本「ヲ  
コシ」 37谷村本「未レ有」者也」以下同 38神宮本「カフ  
モノハ」内閣本「ヤシナフハ」  
「カフモノハ」兩訓。国会本  
「カフニハ」 39国会本「イタマシムルニ」 40谷村本「寧一而  
不」 41内閣本「自ラ小人ナリ」とも訓ず。 42神宮本内閣  
本「彼レ善ヲセントスレトモ」谷村本国会本「彼為ニ之ヲ善ト  
ス」 43谷村本「イカントモスルコトナカラン」 44神宮本内閣  
本「賢ヲ親シ利ヲ樂コト」谷村本「親一賢 樂一利」 45宣賢  
本作指、内閣本「指イ」と校す。 46宣賢本作功、神宮本内閣  
本「功イ」と校す。 47谷村本「當務ノ急ト為ス」

### 中庸章句

#### 序

1弘和本「イカンシテカ」木村本後筆・国会本「何ノ為ニカ」

2 弘和本「ウシナフテンコトヲ」とも 3 宣賢本「見<sup>ミエ</sup>ハ則<sup>ス</sup>」  
 「以下宣賢本皆「則」をスナハチと訓む。弘和本「アラハレ  
 タリ」とも訓。 4 国会本「カクル」以下同。 5 宣賢本「トキ  
 ンハ則<sup>スナハチ</sup>」宣光本「トキンハ」 6 弘和本「少<sup>シハラクモ</sup> 間<sup>クンスルコト</sup>断」  
 7 木村本「ルトキハ」宣光本「レハ」「ルトキハ」両訓 8  
 宣賢本「クハフル」弘和本「クハフル」「マサレル」両訓 9  
 正治本「タリシ」とも 10 弘和本「若キンハ」とも 11 内閣本  
 「ココヲ」 12 宣賢本「テ、トシトニ」 13 弘和本「サラニタカ  
 イニ」とも 14 内閣本宣光本弘和本正治本「ノヘタツネ」とも  
 訓す。 15 弘和本「タシカナリ」 16 木村本弘和本「未タ――  
 者ハ有ラシ」 17 宣光本「イトクチ」とも 18 宣光本「アツメ  
 シルス」とも。正治本「輯」に「アツメ」 19 正治本「説ニ」  
 20 正治本内閣本木村本「キヤウ」とも訓 21 宣賢本「イツジノ」  
 22 弘和本「カツ」とも 23 宣光本「ハン」 24 弘和本「ヘツ  
 ニ」「フス」とも 25 国会本「チカカラン」 26 国会本「ノミ」

### 第一章

1 国会本「偏カラス」「カタヨラス」 2 国会本「伝授ノ心法ナ  
 リ」 3 弘和本「ユルス」とも。国会本「ハナツトキハ」 4 弘  
 和本「フサカル」とも 5 正治本宣賢本内閣本「天ノ命セルヲ

性ト謂フ」清家点は皆このように読み「之」を訓まぬが弘和本  
 「天ノ命セル之レヲ性ト謂フ」の如く訓じ、宣光本木村本また  
 底本も別筆で「之<sup>ヲ</sup>」と送仮名を加えている。国会本「天ノ命  
 ヲ性ト謂フ」 6 正治本「ヒヒニモチ井ル」 7 各本「モトツ  
 クルニ」宣光本「モトムルニ」 8 各本「モタシ」在賢本も  
 「モタシテ」 9 各本「戒<sup>イマシメツ、シメ</sup>慎」 10 弘和本内閣本木村本宣光  
 本「ヲソル」とも 11 弘和本「外物トナリ（タリ）」 12 弘和本  
 木村本「カクレタルヨリ」 13 木村本「スコシキナルヨリ」  
 14 弘和本内閣本木村本「ヤメ」とも 15 宣光本「テイ」 16 弘  
 和本宣光本在賢本「達一<sup>ニ</sup>道ハ性ニ循フ 天一<sup>ニ</sup>下 古一<sup>ニ</sup>今ノ共ニ  
 由ル所（ヲ）謂テ（謂ハ）」ただし弘和本は「循フ謂ナリ」と  
 いう底本と同じ訓との両訓あり。 17 木村本「ヤシナハル」宣  
 光本「ソタツ」とも。弘和本「イクセラル」とも。 18 弘和本  
 「スイシテ」とも。 19 内閣本宣光本木村本「安キノ」弘和本  
 「ヤスクスルソ」 20 正治本「自<sup>ヨリ</sup>」弘和本「自<sup>ヨリ</sup>」<sup>レ</sup>「戒<sup>ル</sup>」<sup>ニ</sup> 21  
 正治本「位アリ」とも。弘和本「位イス」 22 正治本弘和本  
 「自<sup>ヨリ</sup>」<sup>ニ</sup> 23 国会本「精<sup>ツ</sup>クシテ」 24 弘和本「順ナレハ」<sup>ハ</sup>「順  
 ナルトキニハ」両訓。 25 弘和本「ブン」 26 弘和本「外<sup>ホ</sup>ヲ」  
 27 弘和本「立ツテ」 28 弘和本「有ルトキハ」とも。 29 正治



本弘和本内閣本宣光本木村本「ハジメニハ」 30内閣本宣光本  
木村本「カハル」とも。弘和本「カハル」

## 第二章

1 弘和本「偏ナラス」「倚ナラス」 2 国会本「時トシテ中ヲス」  
3 弘和本更に別訓あり「其ノ君子ノ徳有リ而モ又能ク時ニ随  
テ以テ中ニ処ルヲ以テナリ」 4 宣光本「中庸ヲ反スル」

## 第三章

1 弘和本「スコセハ」 2 宣光本弘和本「ヲコシ」

## 第四章

1 正治本宣賢本「之」訓まず。以下同 2 内閣本宣光本弘和本  
「常ニ」 3 弘和本「ツイヘ」

## 第六章

1 宣光本「人ヲ」 2 正治本弘和本内閣本宣光本在賢本「ネカ  
ハ」 木村本両訓。 3 弘和本「非スンハ」

## 第七章

1 弘和本「予ヲ知アリト曰フ」 2 弘和本「ワサ」 3 弘和本  
「以テ」 4 正治本弘和本「能ク——能ハサルニ況フ」 5 内閣  
本木村本「知コトヲ」 弘和本両訓。

## 第八章

1 内閣本「知トキハ」 宣光本弘和本「之ヲ知レリ」

## 第九章

1 弘和本「仁一勇ノ事ヲ知ルナリ」 2 正治本弘和本「能ク力  
テ之ヲ為ヲ以テナリ」

## 第十章

1 弘和本「之二居リ」 下同 2 国会本「塞ヲ変セス」

## 第十一章

1 弘和本宣光本「ノフルコト有ヲハ」とも訓。 2 弘和本「コ  
ワウス」とも 3 弘和本「ユク」とも 4 内閣本宣光本木村本  
正治本弘和本「而テ」 5 弘和本「之ヲ能ス」

## 第十二章

1 宣光本「知ル可ク」 2 在賢本「孔子ノ礼ヲ問ヒ官ヲ問フ類  
ノ如キモ」 下同 3 弘和本「用ヲ非ナリトスルコト」 4 弘和  
本「喫緊シテ」

## 第十三章

1 内閣本宣光本木村本正治本「非シ」 2 国会本「スカメニシ  
テ」 谷村整版「ナカシメニシテ」(朱筆) 弘和本「邪ニ」 3 弘  
和本宣光本在賢本「耳」 4 国会本宣光本在賢本「セムル」以  
下同 5 国会本「ナラザラム」 弘和本「タラサラム」 下同 6

宣光本「モトムル」 7 弘和本「矣」 8 弘和本「モ」内閣本木村本「モ」とも 9 各本「モ」 10 弘和本「能ハサル」

#### 第十四章

1 谷村整版朱筆「サカシキヲ行テ以テ幸ヲモトム」

#### 第十五章

1 宣光本「登ルトキ」

#### 第十六章

1 宣光本「性情ヲ功效ト」弘和本「性情ノ功效ト」 2 宣賢本正治本「可キトコロアラス」弘和本兩訓。 3 弘和本「無シ。然ルニ」 4 弘和本「其ノ言コト物ヲ体ニシテ所謂ル事ニ幹ナリ易キカ猶シ」 5 正治本「トトノフル」 6 内閣本宣光本「其ノ」弘和本「其レ」

#### 第十七章

1 国会本「物ヲナスコト」 2 弘和本「之ヲツチカウ」兩訓。 国会本「ツチカウ」 3 弘和本「之ヲヤフル」兩訓。

#### 第十九章

1 正治本宣光本「ツラネ」とも 2 国会本「カミシロヲ」 3 宣賢本内閣本木村本弘和本「旅酬ニハ」

#### 第二十章

。内閣本宣光本木村本弘和本「ホロフ」とも 2 内閣本木村本

「ホイヲ」正治本「ホイニ為ツタルト云ル」 3 宣賢本宣光本内閣本木村本「オホイナリ」 4 国会本「学ヲ好ハ」 5 国会本「ヤワラケ」 6 木村本「タトヘハ」とも。正治本無設字 7 内閣本木村本宣光本「所」以ノ者ノハ」 8 内閣本宣光本「弩」弓」に作り、底本にも「弩」弓イ」との校合がある。 9 内閣本木村本「明ラカナラサレハ」とも。 10 国会本「其ノ真実無妄ノ謂ナランコトヲ欲ス人事ノ当然ナリ」 11 国会本「固」執テ仁ラスル所」以。利シテ行」也」 12 内閣本宣光本「トトマリテ」国会本「ヤミテ」 13 正治本内閣本木村本宣光本「果ニシテ」 14 国会本「誠ハ実ニ此ノ篇ノ樞紐ナリ」

#### 第二十一章

1 国会本「性ノ所」有ママニシテアラユル者ノナリ」 2 宣賢本「ココロ」

#### 第二十二章

1 国会本「ミツナル」 2 内閣本木村本宣光本「モ」 3 内閣本「ミト」

#### 第二十三章

1 内閣本木村本宣光本「ウチニ」

#### 第二十五章

1 正治本内閣本木村本宣賢本「発スルナリ」 2 国会本「固  
有ニシテ」

### 第二十六章

1 国会本「ツムコト」 2 国会本「フタツナラス」 3 宣賢本内  
閣本宣光本「其ノ」以下同 4 正治本内閣本在賢本宣光本「至  
レルニ」 5 正治本内閣本木村本宣光本「貳ココロアラ」

### 第二十七章

1 国会本「道ヲ凝<sup>アツムル</sup>ノ」 2 内閣本宣光本「心ヲ存ス」 3 国会  
本「位ニアラシムルヲ」

### 第二十八章

1 宣賢本「イヤシウシ」 2 国会本「ホシイママニスルコトヲ」  
3 弘和本「コト」 4 宣賢本弘和本内閣本木村本「シルシト  
スルニ」在賢本宣光本両訓 5 正治本「従ハン」内閣本木村本  
宣光本両訓

### 第二十九章

1 国会本「ミツルナリ」 2 各本「エキ」と附訓

### 第三十二章

1 内閣本木村本宣光本「其レ」 2 宣賢本内閣本宣光本「其レ  
仁アリ。其レ淵ナリ」 3 国会本「其ノ天ナリト云トキハ」

4 正治本宣光本「以テ」

### 第三十三章

1 内閣本木村本宣光本在賢本「ウシナフ」 2 正治本内閣本  
「ケイハケイト同ク」宣光本「ケイトハケイ同ク」 3 国会本  
「カサナレハ」 4 国会本「コイネカハクハ」 5 国会本「鉄  
鉞ヨリモ」 6 国会本「神明ニ感格スルノ際」 7 内閣本木村本  
「正ニ以テ声ヲ大トニ色トニ〔セ〕サルコトヲ」宣光本「正ニ  
以テ其ノ声ヲ大ニスル色トニ〔アラ〕サルコトヲ」正治本「正  
ニ声ト色ト大スルニアラサルコトヲ」国会本「正ニ声ト色トヲ  
大ニセサルヲ以テナリト云コトヲ」 8 宣光本在賢本「至レリ  
ト」 9 宣光本在賢本別訓「自<sup>タメニシ</sup>下<sup>カワツシムコト</sup>学<sup>アルコトヲ</sup> 為<sup>レ</sup>己<sup>ニ</sup>謹<sup>ニ</sup> 独<sup>ニ</sup> 之<sup>ニ</sup>  
事<sup>ニ</sup>」 10 国会本「ナレ致ス」 11 国会本「約ヤカニ」 12 在賢本  
「其レ」